

令和6年度  
行政評価 結果報告書



令和6年11月

倉敷市企画財政局企画財政部企画経営室

---

---

# Contents

---

---

1 実施概要	1
2 評価結果	1
3 施策評価シートの紙面構成	3

## 施策評価シート

### 1 子ども・子育て・教育

1-1 だれもがその人らしさ(個性)を尊重され、幸せに暮らしていくことができている	5
1-2 人の痛みを、子どもたちが実感としてわかっている	9
1-3 教員の資質が保たれ、教員と子どもが心豊かな人間関係を築き、学校教育が充実している	13
1-4 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている	17
1-5 安心できる環境のもとで出産・子育てができている	19
1-6 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができている	23
1-7 学校・園、地域、家庭が連携して、子どもたちが困窮することなく、安心して学び、成長できる環境となっている	27
1-8 障がいの有無にかかわらず、等しく保育・教育を受けることができている	31
1-9 興味があることを、だれもが、気軽に学ぶことができている	33

### 2 文化・産業

2-1 生活の中に個性的で魅力的な文化芸術が息づいている	37
2-2 世代を超えて受け継がれてきた歴史文化や伝統が大切に継承され、輝いている	40
2-3 生活の中で、日常的かつ気軽にスポーツに親しむことができている	43
2-4 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている	45
2-5 産業競争力が高く、多様な人材が働く機会に恵まれ、将来の暮らしに希望をもつことができている	47
2-6 商業の活性化が地域に活力を生み、時代の流れに対応したビジネスの創出や起業が進んでいる	51
2-7 将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている	53
2-8 倉敷の魅力を国内外にPRし、たくさんの方が訪れるようになっている	57

### 3 生活環境・防災・都市基盤

3-1 自然環境が守られ、環境と経済・社会とのバランスが保たれている	61
3-2 水と空気と大地がきれいで、環境負荷の少ないまちがつけられている	64

3-3	リデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(ごみの再生利用)が徹底され、環境に配慮した循環型社会が形成されている	67
3-4	脱炭素社会の実現に向け、だれもが地球温暖化対策を推進している	69
3-5	行政と市民、企業などが連携し、防災・減災対策や感染症対策などを積極的に進めるとともに、だれもが命を守る意識をもっている	72
3-6	常に安全でおいしい水が届き、安心して暮らすことができている	77
3-7	だれもが安全で快適に移動できる道路環境となっている	79
3-8	市中心部の拠点性が高まるとともに、各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりが行われている	81
3-9	便利に公共交通が利用でき、その周辺に住まいや生活に必要な施設が集まっている	83
3-10	地域の特色が生かされ、自然と調和した、だれもが住みやすい生活環境となっている	85
3-11	先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている	87
3-12	犯罪が少なく、安心して暮らしている	89
<b>4 保健・医療・福祉</b>		
4-1	だれもが自分の健康に関心をもち、健康づくりに自ら取り組んでいる	91
4-2	豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている	95
4-3	市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けられている	97
4-4	障がい者が積極的に社会参加でき、地域の人と安心してともに暮らせるようになっている	99
4-5	様々な事情により困窮している人が、自立できるよう地域で支え合っている	103
4-6	高齢者が地域で安心して暮らすことができている	105
4-7	尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができている	109
4-8	高齢者が生きがいをもって活動している	111
<b>5 SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政</b>		
5-1	地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている	113
5-2	ボランティア・NPOなどの市民主体の活動が活発に行われている	115
5-3	行政が市民の意見を踏まえ、施策の検討、効果的な実施、評価・検証を行い、改善を図っている	117
5-4	市民が安全で快適に、公共施設を利用している	121
5-5	市役所が市民の身近な窓口として課題解決に向けて責任をもって対応している	123
5-6	だれもが快適で活力に満ちた生活ができるよう、先端技術が生活に溶けこんでいる	125
5-7	持続可能な地域をめざすSDGsの理念を、だれもが理解し、行動している	127

## 1 実施概要

令和 6 年度の行政評価は、令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間を計画期間とする「倉敷市第七次総合計画」に掲げられた 44 の施策を対象に評価を行いました。

各施策の進捗状況及び施策を推進する主な事業の今後の取組方針を明確化することにより、施策の重点化やその推進手段である事業の見直しにつなげ、総合計画の計画的かつ効果的な推進を図ること、また、市民の皆さまに対する行政の説明責任を果たしていくことを目的に実施しました。

## 2 評価結果

### (1) 各施策の評価

第七次総合計画に掲げられた全 44 の施策について、評価を行いました。実施内容は以下のとおりです。

- ・「まちづくり指標」（次項の説明参照）の実績値の把握
- ・施策を推進する主な事業の評価（目的、主な実績、今後の方向性）

※各施策の評価結果については、5 ページからの「施策評価シート」を御覧ください。

### (2) 「まちづくり指標」について

第七次総合計画では、重要なまちづくりの課題を「めざすまちの姿」と表現し、その達成状況を測る“ものさし”として、「まちづくり指標」を設け、計画策定時の現状値（主に令和元年度）を基準に、令和 7 年度と令和 12 年度における目標値を設定しています。

「まちづくり指標」については、「まちづくり指標」アンケート調査や、市での集計、各種統計等により、毎年度、実績値を把握しています。

※「まちづくり指標」アンケート調査の詳細については、別添「令和 6 年度倉敷市第七次総合計画『まちづくり指標』アンケート調査結果報告書」を御覧ください。

### (3) 「まちづくり指標」の進捗状況の評価

達成状況は、最終年度である令和12年度末に目標値が達成できたか否かで最終的に評価すべきですが、途中経過である令和11年度までは、下記の判断基準のとおり「A」「B」「C」「－」の4段階に区分して進捗状況の自己評価を行いました。  
令和5年度における「まちづくり指標」の進捗状況は以下のとおりでした。

**A : 46 指標 (34.8%)    B : 26 指標 (19.7%)    C : 52 指標 (39.4%)**  
**－ : 8 指標 (6.1%)**

「まちづくり指標」の全体の動向（R元基準値からの傾向）は、132指標のうち、72指標（54.5%）が比較的高評価のA・B評価となった一方、52指標（39.4%）がC評価となりました。

#### ◆進捗状況の評価

評価	判断基準
A	実績値が目標ライン以上となっている
B	実績値が目標ラインには届いていないが、基準値は上回っている
C	実績値が基準値以下となっている
－	判定ができないもの ・ 外的要因により評価の判定が難しい ・ 実績値の把握が公表時に間に合わない 外

※目標ライン：令和元年度を中心とする基準値と令和7年度の目標値を結んだ直線

※基準値：第七次総合計画では現状値（主に令和元年度）と表記

### 3 施策評価シートの紙面構成

実施計画は「めざすまちの姿」ごとに、下記のとおり構成しています。

枠内は、倉敷市第七次総合計画の「基本計画」部分を再掲しています。

#### めざすまちの姿

めざすまちづくりの方向性を表現しています。

#### SDGsのアイコン

めざすまちの姿に関連しているSDGsの目標です。

#### 市の施策

めざすまちの姿を実現していくために実施する、市の施策です。

#### 基本方針

めざすまちの姿を実現するにあたり、市が取り組む基本的な方向性です。

#### まちづくり指標 (重要業績評価指標)

めざすまちの姿の達成状況を客観的に見るための指標と、実績値、5年後・10年後にめざす目標値です。今後、様々な取組を進めていくことで、めざすべき目標値として掲げています。

#### 今後の取組方針

進捗状況の要因、今後の取組方針を掲載しています。

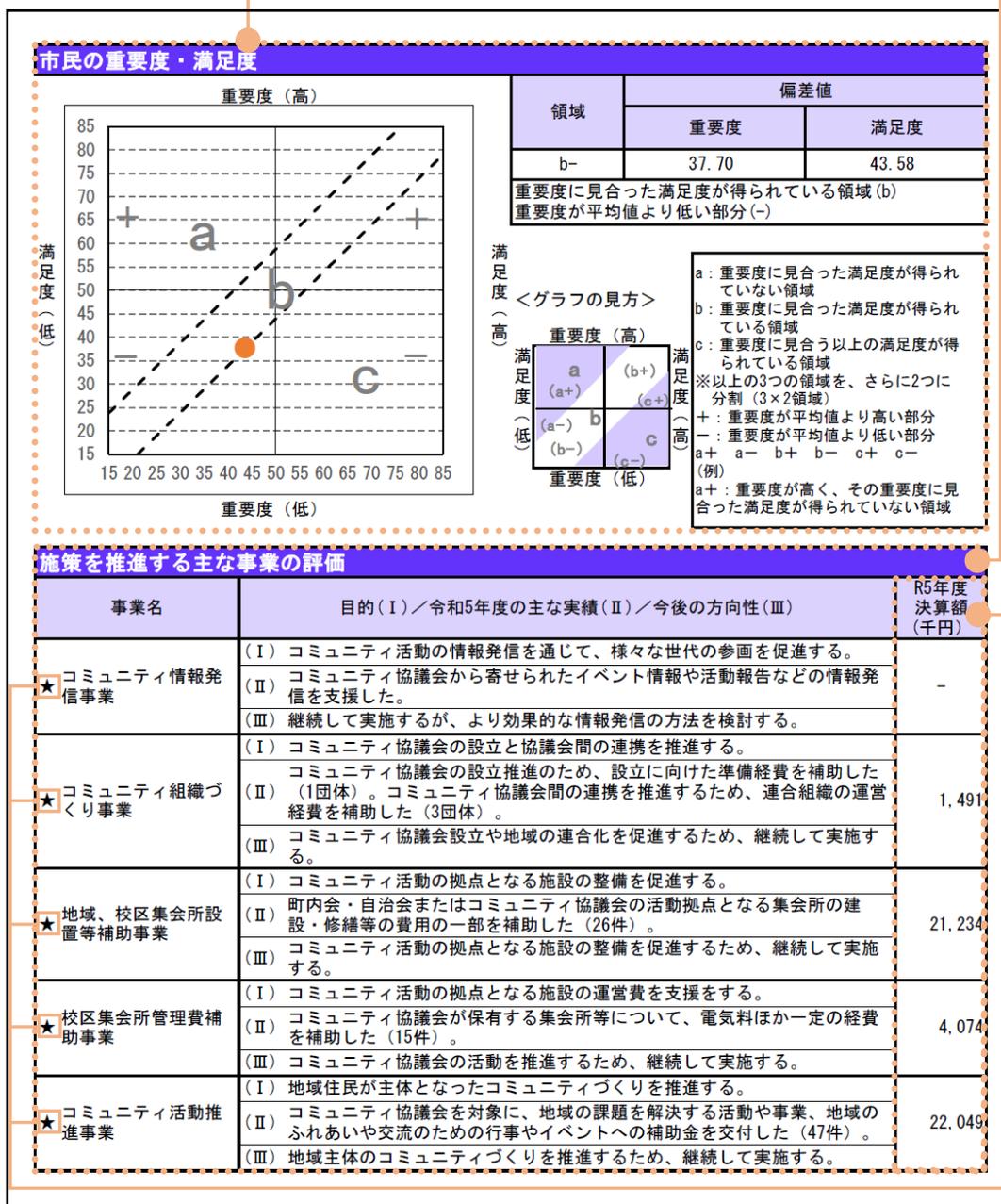
第七次総合計画 施策評価シート (令和6年度)	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>	
SDGs・市民協・コミュニティ・行財政<絆>	
<b>めざすまちの姿</b>	
5-1 地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている	
<b>市の施策</b>	
市民自らが、地域の課題を解決できるように支援する	
<b>基本方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★地域の活動主体であるコミュニティの意見を把握してニーズにあった支援を行い、地域のつながりを維持して支え合いによる安全・安心な暮らしを守ります。</li> <li>★コミュニティ活動の情報を発信するとともに、コミュニティ意識の高揚に努め、若い世代をはじめとした、様々な世代の人が気軽に地域の輪に入っていただける地域づくりを進めます。</li> <li>★コミュニティ間の情報交換を行うなど、相互に連携する機会の創出に努め、ネットワークを構築してコミュニティ活動の一層の拡大を支援します。</li> <li>★市民自らが主体的に地域の課題解決に取り組むコミュニティ活動に対する支援や、コミュニティ活動の拠点となる施設や設備に対する支援を続けます。</li> </ul>	
<b>数値目標</b>	
まちづくり指標	地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいると思っている人の割合
算出方法	市民アンケート調査(まちづくり指標)で、「地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	B
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルスの5類移行により、住民同士が繋がる機会が緩やかに回復したことが要因と考えられる。
(II) 今後の取組方針	(II) コミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域での課題解決の仕組みづくりや活動の活性化、地域で支え合う意識の醸成を図る。
まちづくり指標	地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと考えている人の割合
算出方法	市民アンケート調査(まちづくり指標)で、「地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	C
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 地域の課題解決の取組が進められている一方で、地域の活動に無関心な住民が増えていることが要因と考えられる。
(II) 今後の取組方針	(II) 課題解決ワークショップを通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。

### 市民の重要度・満足度

施策に対する重要度・満足度についてのアンケート調査の結果を掲載しています。

### 施策を推進する主な事業の評価

めざすまちの姿の実現に向けた、市の主な事業の評価を掲載しています。事業によっては、複数のめざすまちの姿の実現に寄与する事業もあります。



### R5 決算額

令和5年度決算額を千円単位で記載しています。

### 倉敷みらい創生戦略

倉敷みらい創生戦略に該当する基本方針、まちづくり指標、主な事業に「★」をつけています。

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育〈慈〉

### めざすまちの姿

1-1 だれもがその人らしさ（個性）を尊重され、幸せに暮らしていくことができる

### 市の施策

その人らしさが尊重され、多様な価値観や生き方を認め合い、人権が守られる社会をつくる

### 基本方針

- ・人権とは、すべての人々が生まれながらに持っている、幸せに生きるための権利です。一人ひとりが互いの違いを認め、互いの人権を尊重し合う「人権の共存」する社会の実現をめざして、更なる取り組みを進めます。
- ★ だれもが互いに人権を尊重しつつ、家庭や社会において責任も分かち合い、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の更なる実現をめざします。
- ・DVなどの人権侵害の未然防止のための人権教育、啓発活動にさらに取り組みます。
- ・児童虐待やいじめなどを防ぐ相談体制の充実、適切な支援に加え、子どもの人権を守るための更なる啓発活動に取り組み、すべての子どもが夢や希望を持てる環境づくりを進めます。
- ★ 国際交流事業の継続と拡充により、互いの文化や習慣の相互理解に努めるとともに、多言語による情報発信や相談体制の充実を図り、在住外国人が地域社会で参画・活躍できる多文化共生のまちづくりを進めます。
- ・平和の尊さを子どもたちが実感を持って学べるよう、次世代に継承していく取り組みを進め、平和を大切にすることを持続していきます。

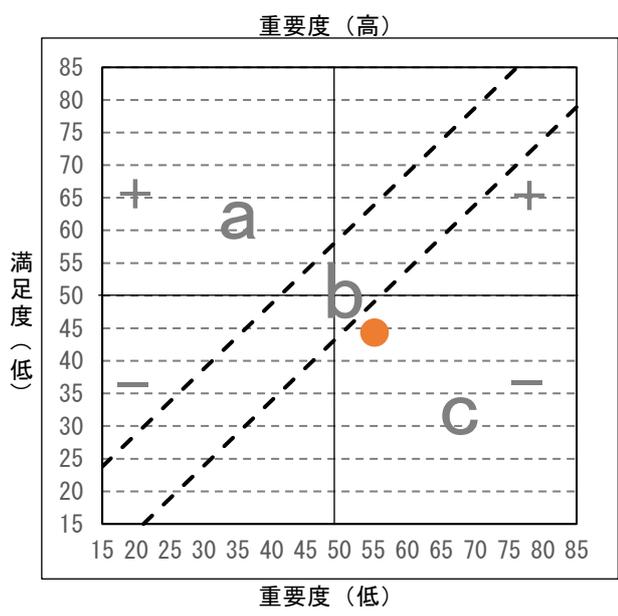
### 数値目標

まちづくり指標	日々の生活の中で、身の回りの人権が大切にされていると思う人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「日々の生活の中で、身の回りの人権が大切にされていると思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>55</td><td>52.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>55</td><td>52.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>55</td><td>51.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>55</td><td>57.4</td></tr> <tr><td>R7</td><td>60</td><td>55</td></tr> <tr><td>R12</td><td>60</td><td>55</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	55	52.6	R3	55	52.3	R4	55	51.7	R5	55	57.4	R7	60	55	R12	60	55
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	55		52.6																				
R3	55	52.3																					
R4	55	51.7																					
R5	55	57.4																					
R7	60	55																					
R12	60	55																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、人権啓発イベントなどに市民が参加しやすくなったと考えられる。 (II) 基本的人権は、どのような状況においても、普遍的な価値を持つものとして、広く市民への啓発を継続する。																						

まちづくり指標	「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、『男は仕事、女は家庭』という考え方についてどう思いますか』という設問に対して、『同感しない』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>63</td><td>51.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>63</td><td>56.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>63</td><td>58.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>63</td><td>59.4</td></tr> <tr><td>R7</td><td>75</td><td>63</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>63</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	63	51.6	R3	63	56.3	R4	63	58.5	R5	63	59.4	R7	75	63	R12	75	63
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	63		51.6																				
R3	63	56.3																					
R4	63	58.5																					
R5	63	59.4																					
R7	75	63																					
R12	75	63																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 固定的性別役割分担意識が改善傾向にあるため。 (II) 固定的性別役割分担意識解消のための各種啓発事業や、積極的な女性登用に取組む事業所への認定制度を継続する。																						

まちづくり指標	地域社会の一員として生活できていると感じている外国人の割合	
算出方法	市内在住の外国人を対象としたアンケート調査で、「地域の行事に参加していますか」という設問に対して、『参加している』『たまに参加している』と回答した人の数/アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 在住外国人が増加しており、新規在住者が地域の行事に参加するまでにはある程度時間が必要と考えられる。 (II) 外国人コミュニティや市内日本語教室とのさらなる連携により多文化共生事業の一層の充実を図る。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	44.29	55.20

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)

<グラフの見方>

重要度 (高)	a (a+)	(b+)	満足度 (高)
満足度 (低)	(a-)	b (b-)	c (c-)
重要度 (低)			満足度 (低)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
人権啓発活動事業	(Ⅰ) 多様な啓発広報活動を通して、人権意識の普及・高揚を図る。 様々な人権問題への気づきを促すことを目的に実施した。啓発事業として、人権作品募集事業(メッセージ・絵手紙、応募総数789点)及びSNSを活用した啓発記事の発信を行った。広報活動として、年間を通じて広報紙に啓発記事を掲載した。 (Ⅱ) 既存事業の見直しを行い、効果を検証しながら継続して実施する。 (Ⅲ)	18,081
★ 性的マイノリティ理解促進事業	(Ⅰ) 性的マイノリティへの理解を促進し、多様性が尊重される社会を創る。 (Ⅱ) 令和5年10月21日(土)に開催されたくらしきハーモニーフェスタ及び11月に本庁舎にて性的マイノリティに関するパネル展を実施。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
人権教育外部講師活用事業	(Ⅰ) 人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図る。 (Ⅱ) 小・中・高等学校で25回の外部講師による人権学習会を実施し、2,536人が参加した。 (Ⅲ) 事業内容を精査し、継続して実施する。	231
PTA人権教育推進事業	(Ⅰ) 保護者の役割と人権問題への理解と認識を深める。 (Ⅱ) 幼・小・中・特別支援学校で326回のPTA人権教育研修会を開催し、37,651人が参加した。また、研修用資料20,204部の配布などを実施し、人権が尊重された社会の基盤となる家庭教育の充実を図った。 (Ⅲ) 事業内容を精査し、継続して実施する。	2,558
人権学習推進事業	(Ⅰ) 人権が守られ、すべての人が大切にされるまちづくりを地域の人の力で進める。 (Ⅱ) 全26中学校区で人権教育・啓発の充実を図るための様々な事業を実施し、延べ52,187人の市民が参加した。また、広報活動として、活動紹介や啓発記事を掲載した広報紙を年間47回、合計255,600部作成し、各地域に配布した。 (Ⅲ) 今後更なる事業の充実と市民の人権意識や結びつきの強化を支援する。	11,181
★ 男女共同参画推進事業	(Ⅰ) 男女共同参画の意識向上を図る。 (Ⅱ) 情報誌「WITHテリア」発行(13,000部) 中学生向け啓発冊子配付(4,600部) マンガ作品展(応募94点、巡回展示6か所) (Ⅲ) 継続して実施する。	2,796
男女共同参画推進センター運営事業	(Ⅰ) 男女共同参画を推進する拠点施設として意識の高揚を図る。 (Ⅱ) ぐらしきハーモニーセミナー講座開催(8講座、参加者293人) 登録団体による講座(8事業、参加者400人) (Ⅲ) 継続して実施する。	34,002
★ 高梁川流域配偶者暴力相談支援事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏における配偶者等からの暴力による被害者等を支援する。 (Ⅱ) 電話相談 1,885件 面接相談 152件 一時保護 0件 (Ⅲ) 継続して実施する。	11,369
児童虐待防止事業	(Ⅰ) 児童虐待の早期発見、未然防止に努め、子どもの人権を守る。 (Ⅱ) 新規通告件数は439件、そのうち虐待とされる要支援レベル2以上の対応は173件であった。また、児童の所属機関への見守り依頼(令和5年度末543件)や個別事例検討会議を開催(令和5年度実績143回)するなど、継続的に状況を把握し、支援を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	40,014
子ども条例普及啓発事業	(Ⅰ) 子育て・子育てを地域社会全体で支援する理念の普及を推進する。 (Ⅱ) 市内全小学校の5年生に、小学校高学年用の子ども条例啓発リーフレットを4,268部配付した。また、児童手当現況届の提出のお願い文や、ぐらしき子ども未来プランアンケート実施時の封筒の裏面に、啓発記事を掲載、「家族の日」「家族の週間」と併せた広報紙、ホームページ等様々な媒体による広報などで子ども条例の理念の普及啓発を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	215
★ 国際交流事業、国際理解・多文化共生事業	(Ⅰ) 国際交流と在住外国人との相互理解を推進する。 (Ⅱ) 姉妹・友好都市との交流、国際理解講座や倉敷ふれあい広場等を実施するなど、市民の国際化意識の高揚や多文化共生の推進に努めた。 (Ⅲ) 今後も継続して実施していく予定。	12,628

事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
平和啓発事業	(I) 平和の尊さを次世代に継承して、平和を大切にする社会の実現をめざす。 戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代に語り伝えていくことを目的として (II) 実施した。「平和のつどい」「平和の鐘」等の事業を実施するとともに、 「被爆体験者講話会」を市内小・中学校(7か所)で実施した。 (III) 継続して実施する。	2,394

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育〈慈〉

### めざすまちの姿

1-2 人の痛みを、子どもたちが実感としてわかっている

### 市の施策

子どもたちが心も身体も健やかに成長できる学びの場をつくる

### 基本方針

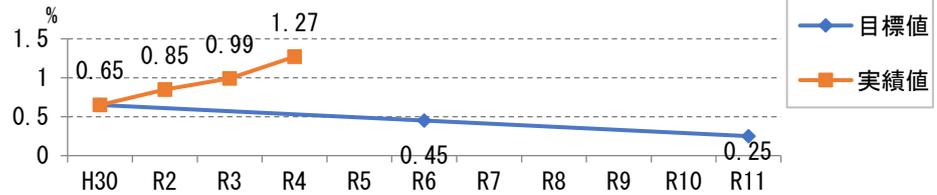
- ・発達段階に応じた人権教育や道徳教育、ボランティア活動を通じた心の教育の充実などにより、子どもたちが互いの違いやよさを認め合い、だれもが自他ともに大切にされていると実感できる環境づくりを進めます。
- ・子どもたちが、スマートフォンやパソコンなどの利用マナーを身につけて適切な利用ができるよう、情報教育機会の提供に努めます。
- ・進級・進学などで変化する学習や生活環境への対応が困難な子どもたちに、学校や園との連携、家庭との情報共有による一体となった指導で対応し、豊かな心の育成に取り組みます。
- ・専門員・支援員の配置や教職員研修の充実などにより、小学校の低学年から規範意識の向上と問題行動等への早期対応と対応強化を行い、いじめや不登校等のない学校をめざすとともに、犯罪防止につなげます。
- ・地域や児童相談所、警察、医療機関など関係機関と連携を図り、教育相談機能や指導体制の整備を充実し、学校だけでは解決困難な子どもにかかる様々な問題に、組織的に対応します。

### 数値目標

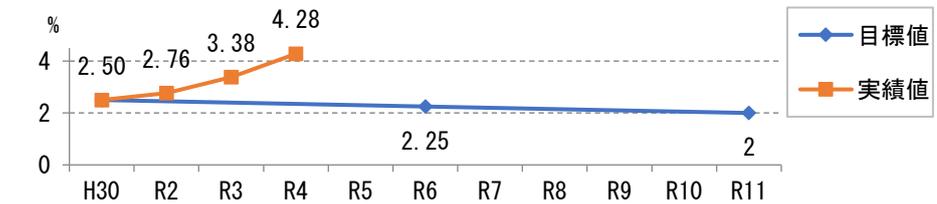
まちづくり指標	小学校での1,000人当たりのいじめの認知件数	
算出方法	いじめの認知件数／倉敷市の小学校児童数×1,000	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) いじめの積極的な認知は、児童が安心して学校生活を送れることやいじめの重大事態の未然防止につながると考えており、学校にいじめを早期発見・早期解決することを周知続けたことで、軽微なトラブルも積極的に認知をするようになったと考える。</p> <p>(II) いじめの積極的な認知をさらに進めるために、校内の情報共有を強化することや研修会の実施を継続すること、また児童へのアンケートや教育相談の充実を図りながら、いじめの早期発見に努める。</p>	

まちづくり指標	中学校での1,000人当たりのいじめの認知件数	
算出方法	いじめの認知件数／倉敷市の中学校生徒数×1,000	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) いじめの積極的な認知は、生徒が安心して学校生活を送れることやいじめの重大事態の未然防止につながると考えており、学校にいじめを早期発見・早期解決することを周知続けたことで、軽微なトラブルも積極的に認知をするようになったと考える。</p> <p>(II) 認知しにくいSNSによる誹謗中傷等のトラブルが増加傾向にあることから、校内の情報共有を強化することや研修会の実施を継続すること、また生徒へのアンケートや教育相談の充実を図りながら、いじめの早期発見に努める。</p>	

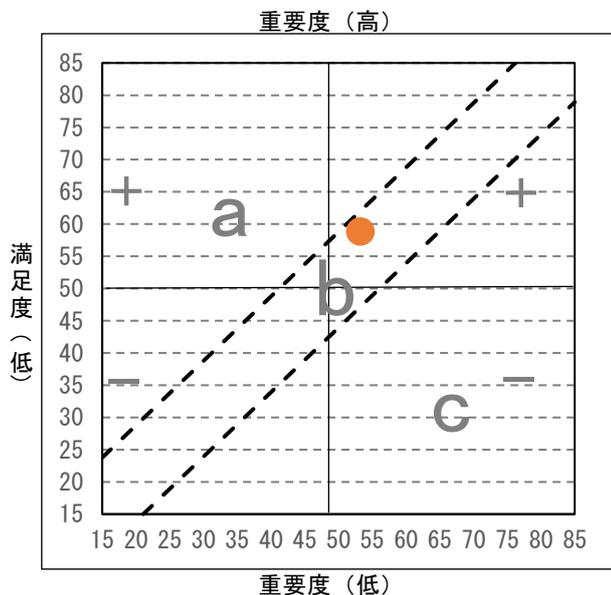
まちづくり指標	小学校での不登校児童出現率
算出方法	不登校による欠席が年間30日以上の児童数／倉敷市の小学校児童数×100
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	C
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 学校の教室以外の場所など、自分に合った学習の場を選択する考え方が広まったことや、コロナ禍による人間関係への不安などが、児童の登校意欲の低下に繋がったと考えられる。</p> <p>(II) 不登校児童に、ICTを活用したオンライン指導、また市内5か所にあるふれあい教室や各校の自立応援室での支援の充実を図ることで、一人ひとりの児童に寄り添った取組を推進する。</p>



まちづくり指標	中学校での不登校生徒出現率
算出方法	不登校による欠席が年間30日以上の生徒数／倉敷市の中学校生徒数×100
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	C
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 学校の教室以外の場所など、自分に合った学習の場を選択する考え方が広まったことや、コロナ禍による人間関係への不安などが、生徒の登校意欲の低下に繋がったと考えられる。</p> <p>(II) 不登校生徒に、ICTを活用したオンライン指導、また市内5か所にあるふれあい教室や各校の自立応援室での支援の充実を図ることで、一人ひとりの生徒に寄り添った取組を推進する。</p>



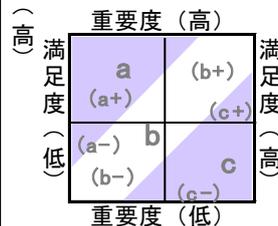
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	58.82	53.28

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 <グラフの見方>

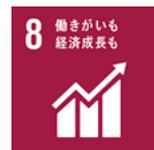


a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
学校園人権教育推進事業	(I) だれもが自他ともに大切にされていると実感できる環境づくりに努める。 (II) 26中学校区ブロックにおいて、ブロック内の人権教育推進上の課題を共有し、課題解決に向け、連携に基づいた具体的な研究実践を行った。また、倉敷市人権教育研究大会で7校園による実践発表があり、274人の教職員が参加した。 (III) 事業内容を精査し、継続して実施する。	6,474
郷土くらしきを大切に する心育成プロ ジェクト事業	(I) 郷土倉敷を愛し、親しみ、心豊かに成長できるよう、心の育成を図る。 (II) 「花いっぱい運動」「あいさつ運動」「地域のクリーン作戦」等を実施して子どもたちの心の育成を図った。「倉敷こどもミーティング」は、市内の小中学生が参加し、SDGsや高梁川流域サミット宣言について学び、自分たちが取り組む目標について議論した。 (III) 子どもたちの郷土愛を育てていくために、継続して実施する。	46
情報教育推進事業	(I) 教職員のICTの活用指導力と情報セキュリティ意識の向上を図る。 (II) 教育現場において、ICTの利活用が促進されるように、研修会を23回開催し、延べ702名が参加した。また、6月～2月に小・中・支援学校へICT支援の派遣を行った。 (III) 今後もICTの利活用が促進されるよう、継続して実施する。	23,632
規範意識向上モデル 校等における警察と 密接に連携した取組 の推進事業	(I) 非行防止教室やルール・マナーの啓発活動等を通じて非行防止を図る。 (II) 倉敷市内の13中学校区(13中学校・33小学校)をモデル学区として指定し、警察官の定期的な訪問と学校との情報交換、問題行動に対する助言や非行防止教室の実施等、学校と警察が連携して健全育成に取り組んだ。 (III) 県警が、学校警察連絡室から健全育成対策室へと事業を見直したため、モデル学区は廃止したが、連携については継続して実施する。	-
小1グッドスタート配 置事業	(I) 小学1年生において「小1プロブレム」の解消を図る。 (II) 26校81人を配置し、学習面や生活面をサポートした。これまでは、4月～10月(20週)は県が支援員を配置していたが、令和2年度から市への補助事業となり、年間を通じて支援員を配置した。 (III) 1年生にとって学習面や生活面をサポートする支援員がいることで、小学校生活のスタートが心豊かで充実した成長の場となるため、継続して実施する。	92,145
不登校児童・生徒支 援員等配置事業	(I) 学校における不登校問題の未然防止や早期解決を図る。 (II) 教育相談や学習支援を行う支援員を小学校52校中学校25校に、生徒支援コーディネーターを全中学校に配置し、教職員・スクールカウンセラー等との連絡・調整を図り、不登校等の対策として、未然防止や早期解決に向けた取組を推進した。 (III) 不登校やいじめ等の問題行動の早期解決に向けた取組を推進していくためには、支援員の役割は大きく、連絡・調整を図りながら継続して実施する。	72,289
校種間連携の推進	(I) 子どもたちの不安を和らげ、期待や安心感がもてる校種間連携を推進する。 (II) 学力向上研修会を実施し、自校の結果分析や中学校区での共通の課題等を共有した。生活に関するルールの共有や個別の教育支援計画・指導計画の引継ぎを行い、適切な支援の継続のための取組を行った。 (III) 子どもたちの不安を和らげ、期待や安心感がもてるよう継続して実施する。	-
ふれあい教室事業 (教育センター事 業)	(I) 不登校児童生徒に対して、集団への適応能力の回復と育成を図る。 (II) 市内5適応指導教室において、16人の教育指導員を配置し、72人の入室児童生徒に対して指導・援助を行った。 (III) 不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けて、継続して実施する。	60,498
生徒指導支援員配置 事業	(I) 暴力行為、いじめ等の問題行動の未然防止や状況の改善を図る。 (II) 生徒指導支援員を中学校25校に配置した。 (III) 学校問題の解決には、継続的な支援の必要性が高いため、事業を継続して実施する。	5,155
スクールカウンセ ラー等配置事業	(I) いじめ、不登校をはじめとする児童生徒の学校不適応問題に対応する。 (II) スクールカウンセラーを39小学校及び5高等学校、1特別支援学校、5ふれあい教室(適応指導教室)に配置した。また、専門的な見地から指導助言するスーパーバイザーを1人委嘱し、不登校対策や教育相談の質的な充実を図った。 (III) スクールカウンセラーの研修の充実や効果的な援助するため、継続して実施する。	16,198

事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
学校問題支援プロジェクト事業	(I) 学校だけでは解決が難しい諸問題に適切に対応し、学校を支援する。	14,745
	(II) 学校問題解決に向けたチーム会議や推進会議を実施。支援スタッフを延べ31校に56人配置した。	
	(III) 学校に対して事業の趣旨の周知に努めるとともに、学校現場のより多くのニーズに応えられるよう、継続して実施する。	

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざましの姿

1-3	教員の資質が保たれ、教員と子どもが心豊かな人間関係を築き、学校教育が充実している
-----	--

### 市の施策

#### 心豊かな人間関係を育む学校教育の充実を図る

### 基本方針

- ・ 教員の指導力の向上によって、すべての子どもの持ち味を生かした教育を充実させ、確かな学力の向上を図るとともに、心豊かにたくましく生きていく心身ともに健やかな人間の育成に努めます。
- ・ 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化により働き方改革を進め、教育の質の向上を図り、子どもや保護者と心豊かな人間関係を築き、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育を実践します。
- ・ 社会で自立するために必要な知識、技術、能力や態度を育成するため、多様な職業体験やボランティア活動などの機会を提供するなど、キャリア・職業教育を充実します。
- ★ 多様化する学習内容と子どもたち一人ひとりの習熟度に対応するとともに、主体的な学習ができる、ICT活用環境整備、感染症などの脅威に対応できるオンライン学習の導入など情報教育の充実を図り、新しい時代に求められる子どもの資質・能力を育てます。
- ★ 教員の指導力向上やICTの活用などにより、子どもたちが広い視野をもって異文化を理解し、国際共通語とされる英語力を身につける、グローバル化に対応する教育を進めます。
- ★ 学校運営協議会制度等で、地域とともにある学校づくり、地域に根ざした特色ある教育活動の推進や校種間の連携に努め、学校園、家庭、地域が一体となって子どもを守り育てる環境づくりを進めます。
- ・ 老朽施設の長寿命化改修や耐震対策を計画的に実施するとともに、時代の変化を見据えて環境に配慮した、すべての子どもが利用しやすい施設整備を進めます。
- ・ 学校給食調理場の更新や改修を計画的に実施し、安全でおいしい学校給食の安定的な提供に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	「子どもの学校での教育がしっかりできている」と感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、小学生・中学生をもつ人で、「子どもの学校での教育がしっかりできていると感じていますか」という設問に対して、『感じている』『どちらかというと感じている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち小学生・中学生をもつ人の総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 校内研修等の学校訪問において、児童が楽しいと思える授業改善の助言や支援の成果が表れていると考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 今後も児童生徒が分かった、楽しいと感じる授業改善の取組を継続していく。	

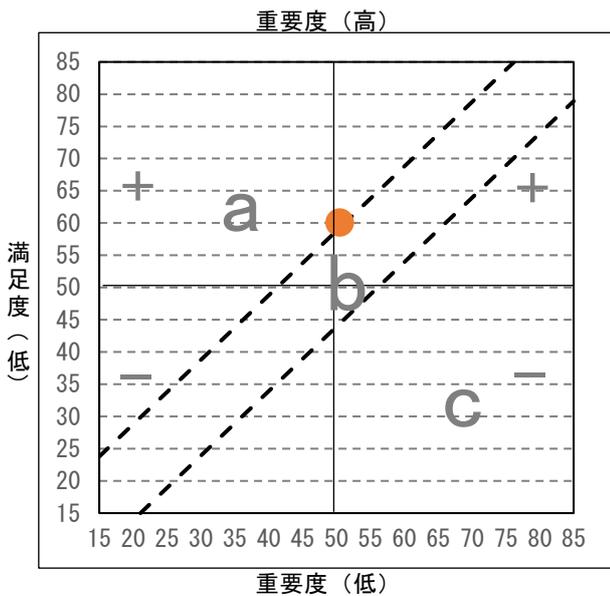
まちづくり指標	困った時、悩みがある時に相談する人がいると答えた子どもの割合	
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「困った時、悩みがある時に相談する人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 教育相談の方法や児童生徒との関わり方について、研修会やパンフレットの送付等による情報提供の効果が表れてきたと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 児童生徒の悩みに寄り添えるよう、教育相談等の取組の一層の充実を図る。	

まちづくり指標	学校が楽しいと思う子どもの割合																						
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「学校は楽しいですか」という設問に対して、『とても楽しい』『まあまあ楽しい』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>学校が楽しいと思う子どもの割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>78.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>80.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>82.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>82.2</td></tr> <tr><td>R7</td><td>90</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>95</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1		78.0	R3		80.6	R4		82.7	R5		82.2	R7	90		R12	95	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1			78.0																				
R3		80.6																					
R4		82.7																					
R5		82.2																					
R7	90																						
R12	95																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	B																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 校内研修等の学校訪問において、児童が楽しいと思える授業改善や学級経営についての助言等の成果が表れていると考えられる。 (II) 児童生徒の力を伸ばす授業改善や児童生徒が主役となる特別活動等の充実を一層図る。																						

まちづくり指標	小中学校のトイレの洋式化率																						
算出方法	市内小中学校のトイレのうち、洋式便器の数／大便器の総数																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>小中学校のトイレの洋式化率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>40.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>48.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>53</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>57.1</td></tr> <tr><td>R7</td><td>60</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>80</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1		40.0	R3		48.0	R4		53	R5		57.1	R7	60		R12	80	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1			40.0																				
R3		48.0																					
R4		53																					
R5		57.1																					
R7	60																						
R12	80																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 工事への学校の協力もあり、順調に工事が実施できたため。 (II) 継続して実施する。																						

まちづくり指標	学校給食調理場施設のドライ方式の割合																						
算出方法	ドライ方式給食調理場での調理食数／市内学校給食調理場の総調理食数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>学校給食調理場施設のドライ方式の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>49.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>50.4</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>50.9</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>54.1</td></tr> <tr><td>R7</td><td>66</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>100</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1		49.5	R3		50.4	R4		50.9	R5		54.1	R7	66		R12	100	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1			49.5																				
R3		50.4																					
R4		50.9																					
R5		54.1																					
R7	66																						
R12	100																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	B																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 市内でも大規模校である大高小学校の調理場がドライ方式として供用開始したため、目標値に近づいた。 (II) 「倉敷市学校給食調理場整備に係る基本方針」に沿って、引き続き調理場の整備を進めていく。																						

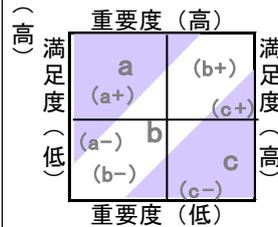
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	60.06	50.49

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
非常勤講師等単市加配事業	(I) 学校の教科指導や生徒指導、特別支援教育等の充実を図る。 (II) 小学校2人、中学校23人、特別支援学校6人の非常勤講師を配置し、子どもが生き生きと学べるよう学習指導の充実を図ることができた。 (III) 複式学級解消や生徒指導充実、特別支援学校の教育充実のためには、非常勤講師の配置は必要であり、今後も継続して実施する。	121,728
教師業務アシスタント配置事業	(I) 教員の働き方改革を推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図る。 (II) 小・中学校において、教師業務アシスタント (令和2年度より県から市への補助事業へ) 68人、学校サポーターを19人配置し、教員の働き方改革を推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図ることができた。 (III) 教員の働き方改革を一層推進するとともに、学校現場の教育体制の充実を図るために、継続して実施する。	66,772
部活動指導体制推進事業	(I) 部活動における教員の負担を軽減し、教育の質的向上を図るため、体制を構築する。 (II) 延人数運動部30人、文化部10人の40人を各校へ配置した。部活動指導員を配置したことにより、部活動顧問で勤務負担が軽減されたと感じている割合が79%だった。 (III) 継続して実施する。	11,047
保護者連絡システム運用事業	(I) 学校園・保護者双方の負担軽減を図るとともに、利便性の向上に努める。 (II) 保護者からの欠席連絡や学校園からのお知らせ配信等に保護者連絡システムを活用した。 (III) 学校園・保護者双方の負担軽減と利便性の向上を図るため、継続して実施する。	46,934
キャリア教育推進事業	(I) 社会で自立するために必要な知識、技術、能力や態度を育成を図る。 (II) 令和5年度は中学校26校で職場体験を実施した。 (III) キャリア教育の推進に必要なため、継続して実施する。	1,803
「確かな学力」学習支援事業	(I) 児童生徒の状況に応じた支援を通じ学力定着や学習意欲の向上を図る。 (II) 学力向上支援員を小学校43人、中学校16人、放課後学習支援員を小学校75人、中学校26人任用し、学習支援ソフトの活用等と併せて学習支援を行い、学力向上を図った。 (III) 学力向上の取組として必要であるため、継続して実施する。	27,675
GIGAスクール構想に ★対応したパソコン等 整備事業	(I) 児童生徒の情報活用能力を育成する。 (II) 1人1台端末の活用が進むよう、運用面をサポートした。また、緊急時等の学ぶ機会を保障するために、モバイルルータの貸出等を行った。 (III) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	160,293

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 教育用コンピュータ 整備事業	(Ⅰ) ICT機器の整備により、学校教育の充実に努める。 (Ⅱ) 小・中・高・特別支援学校に整備しているICT機器が安定して使用できるよう、運用面をサポートした。 更新時期を迎えたICT機器の入替を実施した。 (Ⅲ) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	198,885
★ 英語教育推進事業	(Ⅰ) 英語での理解力・表現力の向上及び、伝え合う力を育成する。 (Ⅱ) 令和5年度は、中学生英語スピーチコンテストに27校が参加。英語学習の動機付けや表現力の向上につながった。 小学校高学年に導入した英語学習支援ソフトの積極的な活用を推進し、コミュニケーションの基礎となる学力の向上を図った。 (Ⅲ) 英語教育の推進に必要であるため、継続して実施する。	12,037
★ 学校園支援ボランティア活用事業	(Ⅰ) 学校園の教育活動を支援するボランティア活動の充実を図る。 (Ⅱ) 保育・授業中の支援や放課後学習支援など、学校園の教育活動を支援するボランティアを学生や市民等から募集・登録した。 (Ⅲ) 学校園からのニーズが高いことから、継続して実施する。	148
学校園施設安全対策・防災機能強化事業	(Ⅰ) 教育環境の改善及び避難所としての機能強化を図る。 (Ⅱ) 緑丘小学校他22校園の屋上防水・外壁改修を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,479,467
学校トイレ洋式化改修・校舎照明LED化事業	(Ⅰ) 教育環境の改善及び環境に配慮した学校施設を整備する。 (Ⅱ) 帯江小学校他14校のトイレ洋式化改修及び校舎照明LED化を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,026,051
市立精思・玉島高等学校統合事業	(Ⅰ) 高等学校を統合し、施設を整備する。 (Ⅱ) 市立精思・玉島高等学校統合整備事業が完了した。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	736,446
小学校特別教室エアコン設置事業	(Ⅰ) 夏季の学習環境の改善を図る。 (Ⅱ) 小学校61校の特別教室にエアコンを設置した。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	1,141,637
新共同調理場整備事業	(Ⅰ) 安定的な学校給食運営を実施するため、老朽化した調理場を最新の基準を満たす調理場に速やかに更新する。 (Ⅱ) (仮称) 児島学校給食共同調理場については、施設整備・維持管理運営の事業者選定、設計・建設のモニタリング等を実施した。(仮称) 玉島学校給食共同調理場については、PFI方式の実現可能性の調査、最適な事業スキーム等の調査・検討を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	28,127
大高小学校給食調理場・校舎整備事業	(Ⅰ) 安定的な学校給食運営を実施するため、老朽化した調理場を最新の基準を満たす調理場に速やかに更新する。 (Ⅱ) 令和5年10月に調理場及び校舎の供用を開始した。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	808,538

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-4 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている

### 市の施策

子どもたちが緑や生き物などの自然に親しみながら、学べる機会を提供する

### 基本方針

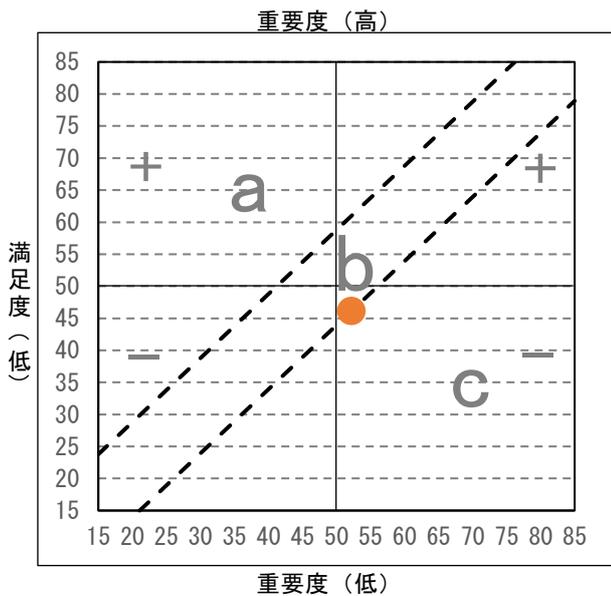
- ・ 市民・団体・行政などが連携を図り、家庭・学校・地域など多様な場で、自然とのふれあいや日常生活を通して、子どもの発達段階に応じた環境教育を進めることで、子どもたちの豊かな感性を育み、環境を守り大切にする心を育てます。
- ・ 自然を学ぶ観察会や講座などを充実させ、広報活動に力を入れることで、参加者の増加と参加者層の拡大を図るなど、より多くの子どもたちが自然を学べるように取り組んでいきます。
- ・ 子どもたちの自然体験活動を支援する指導者やボランティアについて、若い世代が気軽に参加でき、やりがいを感じられるような支援や仕組みづくりなどを行うことで、人材育成と資質向上を図ります。
- ・ 子どもたちの自然への興味や関心を高め、自らの学びを支援するため、計画的に施設や設備を充実させるとともに、より魅力的な事業を実施するよう努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	自然にふれたり、学んだりする活動に参加している子どもの数																						
算出方法	自然の家の利用者（乳幼児・小中学生）、自然史博物館主催の自然観察会や講座、冒険遊び場、水辺教室、海辺教室、こどもエコライフチャレンジ、環境学習センター主催の講座への参加児童生徒数																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>11,533</td><td>11,533</td></tr> <tr><td>R3</td><td>11,533</td><td>1,122</td></tr> <tr><td>R4</td><td>11,533</td><td>14,535</td></tr> <tr><td>R5</td><td>11,533</td><td>16,209</td></tr> <tr><td>R7</td><td>14,500</td><td>14,500</td></tr> <tr><td>R12</td><td>18,000</td><td>18,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	11,533	11,533	R3	11,533	1,122	R4	11,533	14,535	R5	11,533	16,209	R7	14,500	14,500	R12	18,000	18,000
年度	目標値		実績値																				
R1	11,533		11,533																				
R3	11,533		1,122																				
R4	11,533	14,535																					
R5	11,533	16,209																					
R7	14,500	14,500																					
R12	18,000	18,000																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 令和4年にリニューアルオープンした自然の家が利用者から好評を得ており、催事やキャンプ等の利用実績も増加傾向にあるため、全体の実績値も増加した。</p> <p>(II) 様々なニーズへ対応した事業と広報活動に注力し、より一層の利用者増を図りながら、継続して実施する。</p>																						

まちづくり指標	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合																						
算出方法	小学生・中学生の児童生徒対象のアンケート調査で、「自然の中で遊ぶことを楽しいと思いますか」という設問に対して、『とてもそう思う』『そう思う』と回答した小学生・中学生の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>86</td><td>84.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>86</td><td>84.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>86</td><td>85.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>86</td><td>84</td></tr> <tr><td>R7</td><td>86</td><td>86</td></tr> <tr><td>R12</td><td>88</td><td>88</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	86	84.4	R3	86	84.6	R4	86	85.5	R5	86	84	R7	86	86	R12	88	88
年度	目標値		実績値																				
R1	86		84.4																				
R3	86		84.6																				
R4	86	85.5																					
R5	86	84																					
R7	86	86																					
R12	88	88																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>目標値に近い実績はあるものの、インターネットやゲーム等、児童生徒にとって興味を持つ対象が多様化している中で、現在行っているイベントや広報等では大きく実績を伸ばすことが出来なかった。</p> <p>(II) 自然にふれたり、学んだりする活動の実施に際しては、保護者に対しても訴求力のある広報を行うなど、児童生徒に限らず興味を持てる内容にする。</p>																						

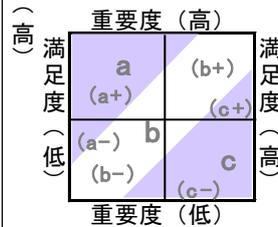
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	46.14	52.21

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 < グラフの見方 >



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
教育普及事業、自然史博物館まつり事業 (自然史博物館)	(I) 多様な主体と連携して学習機会を提供し、市民の学習意欲を高める。 (II) 自然観察会や各種講座等を開催し、参加者数は2,971人 (うち中学生以下1,270人) であった。自然史博物館まつりは、3日間の分散開催とし、ワークショップや講座を開催した。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	344
冒険遊び場支援事業	(I) 民間団体が実施する自然体験活動を支援し、活動機会の充実を図る。 (II) プレーパーク活動を延べ13日開催し、累計で800人 (大人335人、子ども465人) が参加した。 (III) プレーパークが地域に根ざした場となるよう、「遊び場を考える会」の活動支援を継続する。	206
展示事業 (自然史博物館)	(I) 調査研究及び資料収集の成果を展示公開し、教養文化の向上を図る。 (II) 「新着資料展」、「畠田和一貝類コレクション展」、「しぜんしくらしき賞作品展」、「みんなの動物ラボ」等の企画展を開催した。また、常設展示の部分的な更新を実施した。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	221
調査研究事業、標本・文献等収集事業 (自然史博物館)	(I) 自然史資料を積極的に収集・保管・調査・研究し、次世代へ継承する。 (II) 標本等約49,300点の受入れと文献等1,762点の登録を行った。自然に関する総合調査研究を行い、研究報告第39号を発行したほか、専門誌等に68件の寄稿を行った。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	3,776
自然史博物館管理運営事業	(I) サービスや社会的価値の向上に努め、より魅力的な博物館をめざす。 (II) 広報紙やホームページのほか、SNS等を活用して402件の広報配信を行った。事業の評価や改善を踏まえ、施設の将来計画に関する調査・検討を行った。 (III) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	19,869
自然の家PF1施設整備運営事業	(I) 自然の中での様々な体験活動を提供し、健全育成と豊かな心を育む。 (II) 受入事業として「山の学習・自然教室」は81校・9,463人 (8,663人)、「一般利用」は228団体・9,231人 (4,577人)、主催事業として46回・1,532人 (852人) が利用した。※数字は利用者数、()内の数字は利用者数のうち中学生以下の人数 (III) 継続して実施する。	213,607

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-5 安心できる環境のもとで出産・子育てができている

### 市の施策

安心して出産・子育てできる環境を整える

### 基本方針

- ★ 妊娠期から子育て期における不安や悩みの軽減を図るための情報提供や相談体制を充実し、切れ目ない子育て支援環境を整えます。また、性に関する正しい知識を身につけられる機会の充実に努めます。
- ★ 地域での子育て支援の充実を図り、親子のふれあいや親同士の交流、子育ての仲間づくりを促進します。
- ★ 保育や医療、教育など、子育て家庭等の経済的負担の軽減、不妊・不育症の支援などにより、安心とゆとりをもって妊娠・出産・子育てができる環境を整えます。
- ★ 関係機関との連携を強化し、ひとり親家庭が抱える悩みや相談ごとに対応できる体制を整えます。また、生活支援や経済的支援を行い、ひとり親家庭の生活の自立と安定を図ります。
- ★ 希望する人が結婚できるよう、出会いの場の創出や相談体制の充実を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】																						
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「身近に子育ての相談ができるところがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>82</td><td>79.9</td></tr> <tr><td>R3</td><td>82</td><td>79.5</td></tr> <tr><td>R4</td><td>82</td><td>76.6</td></tr> <tr><td>R5</td><td>82</td><td>76.4</td></tr> <tr><td>R7</td><td>82</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>85</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	82	79.9	R3	82	79.5	R4	82	76.6	R5	82	76.4	R7	82	-	R12	85	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	82		79.9																				
R3	82	79.5																					
R4	82	76.6																					
R5	82	76.4																					
R7	82	-																					
R12	85	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍で外出する機会が減少したことにより、身近な相談場所についての情報に触れる機会が減少したためと考えられる。 (II) 児童館、地域子育て支援拠点等の相談場所の周知、アプリ等SNSによる相談体制を充実させていく。																						

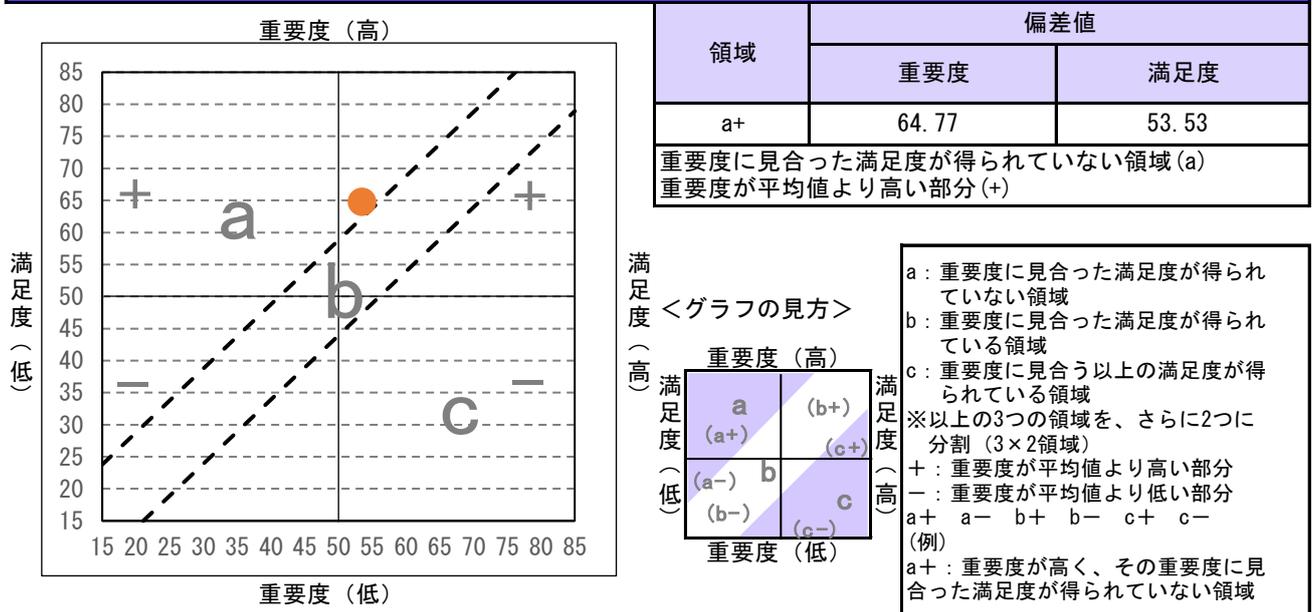
まちづくり指標	身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合【(2) 小学生の保護者】																						
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「身近に子育ての相談ができるところがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>70</td><td>66.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70</td><td>64.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td>70</td><td>67.2</td></tr> <tr><td>R5</td><td>70</td><td>63.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>70</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	70	66.6	R3	70	64.0	R4	70	67.2	R5	70	63.7	R7	70	-	R12	75	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	70		66.6																				
R3	70	64.0																					
R4	70	67.2																					
R5	70	63.7																					
R7	70	-																					
R12	75	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 相談場所の周知が不十分であることが考えられる。 (II) アプリ等SNSによる子育てに関する情報発信を強化し、子育ての相談体制を継続して充実させていく。																						

まちづくり指標	子育てを家族で協力して行っている人の割合【(1) 就学前児童の保護者】	
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「家族で協力して子育てをしていますか」という設問に対して、『十分協力している』『まあまあ協力している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) ワークライフバランスへの気運が醸成しているものの、様々な制限が解除されたことによる生活の変化も要因として考えられる。 (II) 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。	

まちづくり指標	子育てを家族で協力して行っている人の割合【(2) 小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「家族で協力して子育てをしていますか」という設問に対して、『十分協力している』『まあまあ協力している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) ワークライフバランスへの気運が醸成しているものの、目標値に達していない要因としては、様々な制限が解除されたことによる生活の変化が考えられる。 (II) 地域での子育て支援の充実を図り、家族が協力して子育てをすることの大切さを継続して啓発していく。	

まちづくり指標	倉敷結婚相談所を通じた結婚成立数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	出会いの手段が多様化していること、また、同じ機能を持つ「おかやま出会い・結婚サポートセンター」が、利便性を高めキャンペーンや広告宣伝により会員数を増加させていることが影響していると考えられる。 (II) 高梁川流域圏内での認知度向上を図り、会員の増加に努める。	

### 市民の重要度・満足度



施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 子育て世代包括支援センター運営事業	(Ⅰ) 妊娠期から子育て期にわたり切れ目ない支援を行う。 (Ⅱ) 相談支援状況は、相談室利用5,129件、相談専用ダイヤル利用1,982件、面接来所相談2,745件であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	38,818
★ 出産・子育て応援事業	(Ⅰ) 妊娠期から子育て期にわたり切れ目ない伴走型相談支援と経済的支援を行う。 (Ⅱ) 出産応援給付金5,957人、子育て応援給付金3,463人で471,000,000円支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	498,604
★ 妊産婦乳児健康診査事業	(Ⅰ) 妊産婦及び乳児の健康増進並びに虐待予防を図る。 (Ⅱ) 妊婦健診(14回、多胎妊婦には5回加算)、産婦健診(産後8週までに2回)、乳児健診(満1歳までに3回)の受診を公費負担した。延べ受診者数は、妊婦健診が39,496人、産婦健診が6,190人、乳児健診が9,583人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	434,317
★ 妊婦面接	(Ⅰ) すこやかな妊娠・出産を迎えられるよう情報提供や状況把握を行う。 (Ⅱ) 3,467件に相談対応した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ パパママセミナー	(Ⅰ) 安心して出産・育児を迎えられるよう親になる心構えや知識を伝える。 (Ⅱ) 年10回開催。288組(575人)が受講した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 幼児健康診査事業	(Ⅰ) 幼児の疾病や発達障がい等の早期発見と虐待の予防を図る。 (Ⅱ) 受診者数は、1歳6か月児健康診査が3,604人、3歳児健康診査が3,643人、2歳児歯科健康診査が2,856人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	30,101
★ 妊婦歯科健康診査事業	(Ⅰ) 妊婦および生まれてくる子どもの口腔衛生の向上を図る。 (Ⅱ) 受診者数は、1,563人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,078
★ 産後ケア事業	(Ⅰ) 産婦の身体的回復や心理的安定を促進し、母子とその家族を支援する。 (Ⅱ) 宿泊が延べ270泊、日帰りが延べ135日であった。 (Ⅲ) 令和6年度より宿泊、日帰りの助成額を増額し、訪問産後ケアを開始する。	4,102
子ども家庭総合支援拠点運営事業	(Ⅰ) 18歳までの子どもと家庭、妊産婦等の身近な相談機関として充実を図る。 (Ⅱ) こんにちは赤ちゃん訪問3,369件、養育支援訪問1,559件、産後ヘルパー派遣283回、ショートステイ延べ400日など、子育て支援に関する情報提供や必要なサービス提供を行った。また、児童虐待相談を含めた子ども家庭相談(915件)に対応するなかで児童虐待防止及び発生予防に務めた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	67,544
性に関する正しい知識の理解促進	(Ⅰ) 性に関する科学的知識と健全な異性観、望ましい行動を身につける。 (Ⅱ) 男女の心身の違いや性別に関わる人権配慮などに関する保健教育を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
家庭教育学級開設事業	(Ⅰ) 保護者等を対象に、健全で明るい家庭づくりと家庭教育力向上を図る。 (Ⅱ) 家庭教育学級は、地域団体14と公立幼稚園2の合計16学級を開設し、延べ2,243人が参加した。また、「親育ち応援学習プログラム」を活用した保護者向けワークショップは、30学校園で実施し、1,123人が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,339
★ 倉敷ファミリー・サポート・センター事業	(Ⅰ) 会員同士による子育ての助け合いを支援する。 (Ⅱ) 依頼会員数1,426人、提供会員数511人、両方会員数128人、活動件数3,935件であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	12,052
★ 子育てサロン推進事業	(Ⅰ) 地域のふれあいの中で子育てを楽しめる環境づくりを推進する。 (Ⅱ) 補助金交付団体は13団体、延べ開催数162回、延べ利用者数3,118人であった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	615
子育て力向上事業	(Ⅰ) 地域で子育てを支えている市民・団体間のつながりを促進する。 (Ⅱ) 地域子育て支援拠点を中心に「子育てcafe」でつながりができた団体同士が協働し、継続して地域支援に取り組むなどの成果が見られた。また、地域子育て支援拠点研修会の開催を支援した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	158

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
子育て広場開設事業	(Ⅰ) 子育ての不安や孤立感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。 (Ⅱ) 幼稚園等10か所で開設。276回実施し、延べ3,919人の親子が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,883
児童館・児童センター運営事業	(Ⅰ) 18歳未満の子どもを心身ともに健やかに育成する。 (Ⅱ) 市内6か所の児童センター・児童館で、子育て支援事業や児童育成事業、季節行事などを通して児童に健全な遊び場を提供し、年間228,837人の利用があった。また、母親クラブ(16団体)等の地域組織活動の支援を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	168,276
★ 地域子育て支援拠点事業 子育てカレッジ事業	(Ⅰ) 親子のふれあいや親同士の交流・仲間づくりを促進する。 (Ⅱ) 市内21か所において地域子育て支援拠点を開設し、年間延べ167,145人の利用があった(玉島児童館内つどいの広場利用者数は除く。)。また、13か所の地域子育て支援拠点においては、地域の子育て支援団体とのつながりを生かした地域支援事業を実施し、地域の課題解決に継続的に取り組んだ。さらに1か所において専門の相談員を設置し(利用者支援事業の開始)、子育て家庭の悩みやサービスの利用等に対し継続的な支援を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	265,636
★ 子ども医療費助成事業	(Ⅰ) 子どもに係る医療費の一部を助成し、子どもの健康保持増進に寄与する。 (Ⅱ) 中学校3年生までの子どもを対象に(令和5年6月以前の通院分については小学校6年生まで)、1,025,082件・2,354,197,700円の医療費を支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,423,260
★ 特定不妊治療助成事業	(Ⅰ) 不妊症のため子どもをもてない夫婦の不妊治療の経済的負担を軽減する。 (Ⅱ) 令和4年度から保険適用となり、その保険適用移行期間の経過措置として2件200,000円の助成費を支給した。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	201
★ 不育症検査助成事業	(Ⅰ) 不育に悩む夫婦の経済的負担を軽減する。 (Ⅱ) 申請件数1件46,000円の助成費を支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	46
多子世帯等の保育料の軽減	(Ⅰ) 多子世帯(子どもが3人以上いる世帯)等の保育料負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 国の定める基準額から県の制度も活用し、市独自に保育料の軽減を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	176,374
学校給食運営事業	(Ⅰ) 児童生徒の心身の健全な発達のため、学校給食を実施する。 (Ⅱ) 小・中学校給食費の2か月分を市が負担した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	452,465
★ ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	(Ⅰ) ひとり親家庭の自立や生活の安定を図るため、学び直しを支援する。 (Ⅱ) 令和5年度の支給実績はなし。 (Ⅲ) 継続して実施する。	0
★ 母子・父子自立支援事業	(Ⅰ) 母子・父子自立支援員を配置し、ひとり親家庭等の各種相談に応じる。 (Ⅱ) ひとり親家庭等を対象に身上相談に応じ、その自立に必要な相談指導や情報提供を行った。(相談件数:2,335件) (Ⅲ) 継続して実施する。	16,453
★ 高梁川流域結婚支援事業	(Ⅰ) 希望する者に対し、結婚を支援するため、出会いの場を創出する。 (Ⅱ) 倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターを運営。令和5年度は相談・支援により12組が成婚。また、市主催の婚活イベントを計9回実施し、34組のカップルが成立した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	15,146

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-6 仕事と家庭の両立ができ、親が子どもとふれあう時間をもつことができている

### 市の施策

子育てと仕事がゆとりをもって両立できる環境を整える

### 基本方針

- ★ 多様化する就学前保育・教育ニーズに応じて、地域性や年齢などを考慮しながら受入枠の拡大を図り、待機児童対策を進めます。
- ★ 頻発化する自然災害や感染症を見据えて、就学前保育・教育施設において、計画的に子どもの健康や安全確保の対策に取り組めます。
- ★ 保育の内容や方法を、社会情勢に応じた見直しを行いながら、専門家の意見を取り入れるなど保育現場職員の研修の充実により、保育の質の向上を図ります。
- ★ 働きやすい保育の場をめざした環境整備などにより、就労希望者を増やし、保育所や認定こども園等に勤務する職員の確保に努めます。
- ★ 放課後児童クラブの利用ニーズの増加に対応するため、放課後児童クラブの充実を図ります。

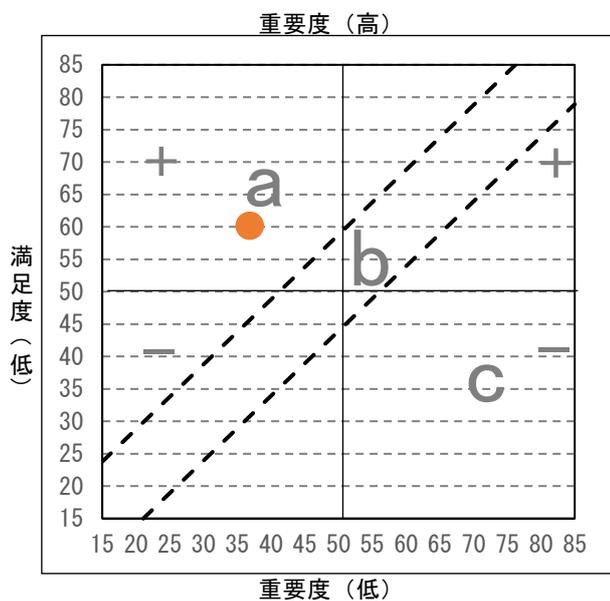
### 数値目標

まちづくり指標	保育所等の待機児童数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 施設整備及びAIを活用した入所事務支援システムの運用によるきめ細やかな入所案内が要因と考えられる。 (II) 0~2歳児を受け入れる地域型保育事業の実施促進や、認定こども園への移行、必要となる保育士の確保	

まちづくり指標	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【(1) 就学前児童の父親】	
算出方法	父親が『現在育児休業中』『取得したことがある』と答えた人の数/アンケート回答者のうち父親が『現在育児休業中』『取得したことがある』『勤め先に育児休業制度はあるが取得したことはない』と回答した人の数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	↑	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 (II) 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	

まちづくり指標	これまで育児休業を取得したことがある人の割合【(2) 就学前児童の母親】	
算出方法	母親が『現在育児休業中』『取得したことがある』と答えた人の数／アンケート回答者のうち母親が『現在育児休業中』『取得したことがある』『勤め先に育児休業制度はあるが取得したことはない』と回答した人の数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 企業の制度整備やワークライフバランスへの気運が醸成していることが要因と考えられる。 (II) 育児休業制度などの利用や、子育てと仕事を両立できる子育てしやすい職場環境づくりを促進する。	

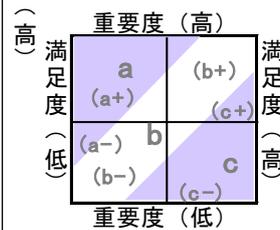
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	60.14	36.85

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 <グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 公立保育所等延長保育事業	(Ⅰ) 公立保育所等の延長保育需要に対応する。 (Ⅱ) 公立保育所(7か所1分園)・認定こども園(2か所)で延長保育を実施し、延長保育需要に対応した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,559
★ 公立幼稚園預かり保育・3歳児保育実施事業	(Ⅰ) 未就学児の保護者が、子育てと就労を両立できるよう支援を行う。 (Ⅱ) 保育時間を延長する預かり保育を23園で実施し、3歳児保育のニーズに対応して、32園で3歳児保育を実施している。 (Ⅲ) 保護者の就労や3歳児保育のニーズが増えてきており、今後も公立幼稚園適正配置計画に基づき、継続して実施する。	221,412
★ 民間保育所等特別保育事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 民間保育所(54園)・認定こども園(23園)で延長保育を実施した。また、民間保育所(10園)・認定こども園(28園)で一時預かりを実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	258,736
★ 私立幼稚園一時預かり事業助成事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 私立幼稚園(9園)で延べ56,482人の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	35,822
★ 施設型・地域型保育給付事業	(Ⅰ) 施設の安定した教育・保育の提供を支援する。 (Ⅱ) 民間認定こども園27園では月初日平均4,524人、私立幼稚園9園では月初日平均829人、小規模保育事業24園では月初日平均392人、事業所内保育事業16園では月初日平均131人(地域枠)の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,681,594
★ 小規模保育事業等推進事業	(Ⅰ) 小規模保育事業等の推進を図る。 (Ⅱ) 6施設に対して実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,080
★ 公立保育所・認定こども園施設整備事業	(Ⅰ) 公立保育所・認定こども園における保育環境の改善を図る。 (Ⅱ) 公立保育園・認定こども園の空調設備改修や、水島保育園の外壁等改修工事等を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	114,646
★ 民間保育所・認定こども園施設整備等助成事業	(Ⅰ) 保育環境の充実を図るとともに、待機児童対策を推進する。 (Ⅱ) 保育所等に対して施設整備等の一部補助を行い、増改築、大規模修繕、乳幼児用プール設置整備等を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	347,416
★ 子育てのための施設等利用給付事業	(Ⅰ) 子育てに伴う保護者の経済的負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 幼稚園保育料、預かり保育料は延べ13,525人、認可外保育施設の保育料は延べ1,738人に給付した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	193,837
保健福祉功労事業者表彰	(Ⅰ) 子育てしやすい職場環境づくりを促進する。 (Ⅱ) 市内に本社を置く2事業所に対して、児童福祉功労(事業所)表彰を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 保育研修・研究事業	(Ⅰ) 保育の質の向上を図る。 (Ⅱ) 倉敷市保育協議会が実施する公開保育部会に170人、研究部会に230人、研修会に465人参加があった。 (Ⅲ) 職員の資質や保育の質の向上が図られ、また公立・民間保育所等の交流が促進され、保育内容に対する問題の共有化が図られるよう、継続して実施する。	3,478
★ 高梁川流域保育士確保対策事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏の保育士確保を図る。 (Ⅱ) 離職防止対策研修会を46回実施し、延べ930人が参加した。 (Ⅲ) 今後も保育士不足が懸念されるため、継続して実施する。	7,120
★ 保育対策総合支援事業	(Ⅰ) 保育士の負担を軽減し、保育士の就業継続や離職防止を図る。また、保育における事故防止を図る。 (Ⅱ) 宿舍借り上げ支援事業は12施設20人、保育体制強化事業は41施設59人、保育補助者雇上強化事業は10施設12人、ICT化推進事業は4施設、事故防止推進事業は8施設で利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	83,557

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 保育士処遇改善事業	(Ⅰ) 保育士の確保を図る。 (Ⅱ) 78施設の保育士に対して処遇改善を行った。 (Ⅲ) 保育士の就業継続や離職防止を図るため、継続して実施する。	128,255
★ 保育支援システム運用事業	(Ⅰ) 保育士等の業務負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 公立保育所・公立認定こども園(19か所1分園)に保育支援システムを導入した。 (Ⅲ) 導入したシステムを継続して運用する。	29,028
★ 病児・病後児等保育事業	(Ⅰ) 保護者の子育てと就労等の両立を支援する。 (Ⅱ) 市内4施設で延べ4,372人(うち市外児童435人含む。)、市外9施設で延べ372人の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	78,460
★ 放課後児童クラブ実施事業	(Ⅰ) 仕事などで保護者が昼間家庭にいない児童に遊びや生活の場を確保する。 (Ⅱ) 民間施設や空き教室の活用等による児童クラブ室の確保を行った。支援員の仕事について広報誌で紹介したり、募集状況を市HPで公開し、各児童クラブの放課後児童支援員等の確保を支援した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,814,500

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育〈慈〉

### めざすまちの姿

1-7 学校・園、地域、家庭が連携して、子どもたちが困窮することなく、安心して学び、成長できる環境となっている

### 市の施策

学校・園、地域、家庭が連携して子どもたちを見守り、安全・安心に成長できる環境を整える

### 基本方針

- ★ 学校・園、地域、家庭が連携する子育て支援のネットワークづくり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めます。
- ★ 学校や地域の活動のなかで、子どもたちが地域の歴史・文化を学んだりスポーツを楽しんだりする機会を増やして、子ども同士や地域住民との交流を深め、子どもの社会性を身につける健やかな学びと成長を支えます。
- ★ 学校・園を支援する地域のボランティアやコーディネーターを育成・支援し、地域で子どもたちが安心して生活できる環境づくりに努めます。
- ★ 様々な困難を抱える家庭の子どもが将来の夢や希望をもち、成長段階に応じた支援ができるよう、家庭に寄り添い、福祉や教育、地域が協働し支える体制をつくります。

### 数値目標

まちづくり指標	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【(1) 就学前児童の保護者】	
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんについて、あなたは、様々な場面で困った時に相談できる相手がいいますか」という設問に対し、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 就学前児童の保護者が抱く困りごとについて相談先の周知が十分でない可能性がある。 (II) こども未来部を中心に就学前児童がいる世帯のニーズ等の把握に努め、必要な相談窓口の周知方法の改善を図る。	

まちづくり指標	様々な場面で困った時に相談できる相手がいる保護者の割合【(2) 小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんについて、あなたは、様々な場面で困った時に相談できる相手がいいますか」という設問に対し、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍等により小学生の生活や文化が変化したことで、相談内容も変化したし、保護者も相談しづらい可能性がある。 (II) 特定の施策に限らず、小学生に関わる全ての部署や学校が主体的に相談に応じられるよう連携体制の改善を図る。	

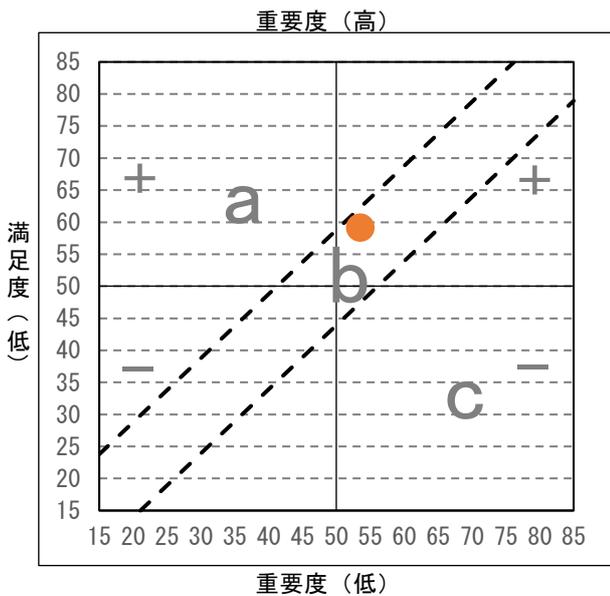
まちづくり指標	学校・家庭・地域が連携した事業に参加した子どもの数	
算出方法	放課後子ども教室へ参加した子どもの数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 前年度に比べ参加人数は増加しているが、子ども教室の開催に必要なボランティア数の減少とともに子ども教室の規模も縮小したため、目標に届かなかった。</p> <p>(II) 参加者数増加に向けて、子ども教室の開催数や内容を充実させるためのプログラム研修や、開催に必要なボランティアを確保するための啓発活動を行なっていく。</p>	

まちづくり指標	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【(1) 就学前児童の保護者】	
算出方法	就学前児童をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「地域の人に支えてもらって子育てをしていると思いますか」という設問に対して『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 生活様式の変化により、地域における活動への参加が減少していることが考えられる。</p> <p>(II) 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。</p>	

まちづくり指標	地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合【(2) 小学生の保護者】	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「地域の人に支えてもらって子育てをしていると思いますか」という設問に対して『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 生活様式の変化により、地域における活動への参加が減少していることが考えられる。</p> <p>(II) 福祉や教育、地域が協働し、地域の子育て力を高め、総合的な支援体制の充実を図っていく。</p>	

まちづくり指標	子どもと将来の夢や目標について家庭で話をする小学生の保護者の割合	
算出方法	小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「封筒のあて名のお子さんと将来の夢や目標について家庭で話をしますか」という設問に対し、『する』と回答した人の数／アンケート回答者数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 保護者自身が将来に見通しをもちにくく、こどもの夢や目標に寄り添うことが困難になっている可能性がある。</p> <p>(II) 子どもの生活・学習支援事業において、保護者支援の充実を図るとともに、他事業との連携強化に努める。</p>	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	59.11	53.51

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>

		重要度 (高)			
満足度 (低)	a		b		満足度 (高)
	(a+)	(a-)	(b+)	(b-)	
		重要度 (低)			
		c			
		(c-)			

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 子どもセンター事業	(I) 倉敷市子どもセンターの支援を通じて、親子間の交流の活性化を図る。 (II) 情報誌「パワフルキッズ」を年4回 (累計146,000部) 発行し、各種イベント情報を周知するとともに、親子で参加できるイベントを年3回開催し、ものづくり体験活動の機会を提供した。 (III) 子どもたちへ体験活動を提供できるよう、継続して実施する。	2,848
★ 放課後子ども教室推進事業	(I) 地域教育力の向上と子どもが地域社会で健やかに育まれる環境をつくる。 (II) それぞれの放課後子ども教室において2,492日開催し、延べ183,879人の子どもと19,785人のボランティアが参加した。 (III) 学校支援事業との統合実施を図りながら、継続して実施する。	3,920
よい子いっぱい基金運営事業	(I) 倉敷の次代を担う子ども達の心身ともに健やかな成長を図る。 (II) 市内中学校と支援学校で行われる立志式、倉敷っ子なかよし作品展、よい子いっぱい芸術鑑賞、中学生弁論大会、イングリッシュキャンプへ助成し、優秀な成績を収めた児童生徒を表彰する「よい子強い子表彰」では、61件を表彰した。 (III) 継続して実施する。	4,682
二十歳の集い記念事業	(I) 20歳になる方を対象に、門出を祝福し、市民意識の高揚や社会人としての自覚を促す。 (II) 令和6年1月7日 (日) に倉敷スポーツ公園マスカットスタジアムで実施した。参加対象者4,834人のうち2,914人が入場した。(参加率60.3%) (III) 継続して実施する。	5,917
こどもまつり実施事業	(I) 子ども達の交流と少年団体の活動の活性化を図る。 (II) 午前の部・午後の部に分け、事前申し込み制で参加者を募り、1,313人の参加があった。 (III) 継続して実施する。	1,569
「生きる力」支援事業	(I) 不登校やその傾向にある子どもの生きる力を育成し、保護者を支援する。 (II) 「居場所」には延べ443人が、不登校を考える「親の集い」には延べ82人の参加があった。体験の場を提供する「さわやかデー」には、7家族16人の参加があった。 (III) 受託団体と協議しながら、継続して実施する。	1,076
子ども会支援事業	(I) 倉敷市子ども会連合会の活動を支援する。 (II) 健全な子どもの育成を目的とした子ども会の運営のため、補助金の支給などを行うことにより、集団指導者養成講習会や球技大会などの活動を支援した。 (III) 地域に密着した自然体験や異世代との交流機会の提供などを行う子ども会活動を継続して支援する。	1,801

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
青少年健全育成団体 支援事業	(Ⅰ) 青少年健全育成関係団体を支援し活動の活性化を図る。 (Ⅱ) 26中学校区青少年を育てる会に補助金を交付し、青少年の健全育成に寄与した。各中学校区で実施する家庭教育講演会には、19,392人が参加した。また、指導者向け研修会を実施し、207人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,119
青少年健全育成推進 大会実施事業	(Ⅰ) 広く市民に青少年健全育成への意欲関心を高める機会を提供する。 (Ⅱ) 令和6年2月25日(日)にライフパーク倉敷で実施した。青少年健全育成成功 労者市長表彰、「明るい家庭づくり」作文市長表彰受賞者による作文発 表、講演会等を実施し、323名が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	497
★ 地域連携による学校 支援事業	(Ⅰ) 地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上と地域の活性化を図る。 (Ⅱ) 小学校53か所、中学校24か所、支援学校1か所、高等学校1か所の計79校で 事業を実施した。ボランティアとして、6,915人の地域住民が延べ247,250 人参加した。 (Ⅲ) 地域と学校の連携・協働体制構築の推進を目指し、継続して実施する。	49,003
青少年育成センター 非行防止活動事業	(Ⅰ) 市内青少年の非行防止及び健全な育成を図る。 (Ⅱ) 補導員による補導件数は285件<小学校6件(134件)、中学校141件(196 件)、高校103件(292件)、その他35件>で、電話・来所・メールによる 相談件数は723件だった。※ ( ) 内は遅刻声掛けの数 (Ⅲ) 継続して実施する。	62,495
★ 子どもの生活等支援 事業	(Ⅰ) 子どもが将来の夢や希望をもち、進学等につながるよう成長段階に応じて 支援する。 (Ⅱ) 困難を抱える小学生等世帯を訪問し学習・生活習慣の習得支援を実施し (52世帯・78人)、中学生に学習教室「くらすぼ」で高校進学への学習支 援を実施した(95人)。支援者向け研修を4回実施した。 (Ⅲ) 利用状況をふまえて、一層の利用促進を図りながら、継続して実施する。	25,098
★ 奨学金給付貸付事業	(Ⅰ) 経済事情により修学が困難な学生等に対して、経済的な支援を行う。 (Ⅱ) 貸付62件27,460千円(うち返還一部免除型貸付25件12,000千円)、給付105 件8,964千円を支給した。奨学基金への積立4,198千円。 (Ⅲ) 継続して実施する。	37,591

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-8 障がいの有無にかかわらず、等しく保育・教育を受けることができる

### 市の施策

障がいのある子どもが、適切な保育や教育、支援が受けられる体制を整える

### 基本方針

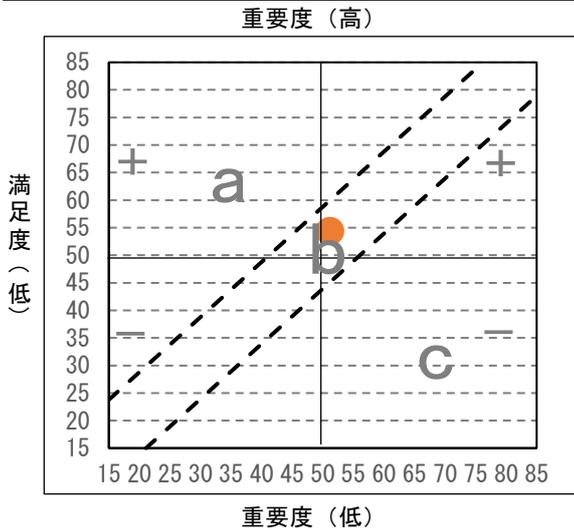
- 障がいの有無にかかわらず、ともに尊重し合いながら協働して生活していくことができるよう、多様化する障がいと障がいのある子どもに対する理解と啓発に努めます。
- 障がいのある子ども一人ひとりに適したきめ細かな対応を行うため、個々の教育ニーズに応じた適切な指導及び支援を受けることができる環境を整備します。
- 教職員や保育者の障がいに対する理解や指導力の向上のための研修などの充実により、多様化する発達障がいに対応できる専門性を備えた相談支援体制の充実を図ります。
- 障がいのある子どもが将来自立して生活していけるよう、関係機関や団体などと連携した進路指導の充実を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	特別支援教育・特別支援保育に関する学習会・研修会等への教職員や保育職員の参加者数	
算出方法	特別支援教育に関する学習会・研修会へ参加した教職員、特別支援保育研修会に参加した保育職員の数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 教員研修会や学校訪問において、特別支援教育の重要性や必要性を伝えてきたことから、特別支援児保育や特別支援教育に対する理解が深まり、積極的な研修への参加が見られた。 (II) 研修の継続・内容の検討を進めていく。	

まちづくり指標	特別支援教育について理解が進んでいると思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、小学生・中学生がいる人で、「障がいのある幼児児童生徒を指導・支援する特別支援教育について知っていますか」という設問に対して『知っている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち小学生・中学生がいる人の総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 特別支援教育に考え方や授業の在り方、児童生徒への声の掛け方等、通常学級における特別支援教育に関する理解が進んできたと考える。 (II) 学校での取組が継続していけるよう、研修や支援を継続していく。	

市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	54.34	51.25

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

<グラフの見方>

重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高)	a (a+)	b (b+)	c (c+)
満足度 (低)	a- (a-)	b- (b-)	c- (c-)

満足度 (高)

満足度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
障がい者週間記念事業	(I) 障がい者の地域生活を支えるための障がいに対する理解の普及啓発 (II) 障がい児 (者) とのふれあいや交流を図ることを目的としたイベントを実施した。絆のひろば (授産品販売) : 来場者約1,000人、ふれあいステージ : 参加12団体、ニコニコ子どもひろば (熱気球体験) : 参加者202人 (55組)、ふれあいウォークinツデーマーチ : 参加者171人、障がい者 (児) 作品展 : 出品数69点、「障がい者週間」ポスター展 : 出品数81点 (III) 引き続き障がい者に対する理解を深める必要があり、継続して実施する。	1,346
通級指導推進事業	(I) 幼稚園及び小中学校における、通級指導の充実を図る。 (II) 通級指導 (幼児指導教室) の充実のために、幼稚園10人、小学校12人、中学校1人の非常勤講師等を配置して、指導にあたった。 (III) 通級指導 (幼児指導教室) の充実のためには必要な配置であり、引き続き、継続して実施する。	57,167
特別支援教育推進事業	(I) 特別支援教育の一層の充実を図る。 (II) 特別支援学校が、センター的機能を果たすために、公開講座を2回 (参加人数451人)、巡回相談を9回実施した。看護支援員を4名配置した。 (III) 特別支援教育に携わっている教員の研修、医療的ケア児への支援等が必要であり、今後も継続して実施する。	4,145
教育相談員配置事業	(I) 教育支援に関する相談体制の充実を図る。 (II) 特別支援教育推進室へ就学相談員を配置し、常時相談に対応するとともに、就学相談会を全17回実施し、270組の親子が参加した。 (III) 就学予定者と関わりの深い保健所や総合療育相談センター (ゆめばる)、児童発達支援センター等との連携を強めながら継続して実施する。	3,353
特別支援児保育アドバイザー派遣事業	(I) 保育所・認定こども園に入所している特別支援が必要な児童への適切な対応を図る。 (II) 発達支援員・言語聴覚士・大学教授などの専門家を派遣し、保育所等において直接指導方法等のアドバイスを延べ336回実施した。 (III) 子どもの状況に応じ、継続して実施する。	3,160
学校・園生活支援員配置事業	(I) 障がい等で支援を必要とする幼児・児童・生徒の生活面を援助する。 (II) 幼稚園32人、小学校128人、中学校28人、高等学校6人、特別支援学校10人の生活支援員を配置し、教職員と一体となった支援を行うことで教育活動の一層の充実を図ることができた。 (III) 障がい等で支援を必要とする幼児・児童・生徒は、多く在籍しており、今後も教育活動の一層の充実を図るため、継続して実施する。	208,191
特別支援教育専門家派遣事業	(I) 学校園における特別支援教育の充実を図る。 (II) 学校園派遣回数は、幼稚園30回、小学校198回、中学校94回、高等学校5回、特別支援学校2回、その他15回で、合計344回 (前年度比18回増)。重篤なケースでの複数回の訪問 (依頼) も増えている。 (III) 学校園からのニーズが高く、年々、重篤なケースも増加傾向にあることから、継続して実施する。	620
特別支援教育大学連携事業	(I) 障がい理解を深め、特別支援教育の推進を図る。 (II) くらしき作陽大学子ども教育学部の学生 (3、4年生) 7人を、市内小学校6校に派遣した。派遣した学校の報告書や参加学生の報告会等では、双方にとって有益な事業となったことが多く報告された。 (III) 学生、学校、双方にとって有意義であり、特別支援教育の推進のために継続して実施する。大学と連携を強めながら、学生の参加を促す。	32

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 子ども・子育て・教育<慈>

### めざすまちの姿

1-9 興味があることを、だれもが、気軽に学ぶことができる

### 市の施策

一人ひとりが生涯を通して行う学びを支援するとともに、その学びによる地域の活性化を推進する

### 基本方針

- ・ 多様化する市民ニーズの把握に努め、求められる学習機会の提供と情報発信に努めるとともに、学習した成果を地域で生かせるような仕組みづくりを進めます。
- ★ 長期ひきこもりなど社会的に孤立し、自立に困難を抱えている若者などへの学習機会を提供して、関係機関と連携して支援し、社会参加や就労につなげていきます。
- ・ 優れた市内の学習施設を効果的に活用するとともに、施設の長寿命化も踏まえた施設機能の充実を図り、市民が、学びの場として安全で快適に利用できる学習施設をめざします。
- ★ 大学などの高等教育機関や企業、また市や公的機関などの連携により、様々な専門的な分野において、気軽な学びの機会を提供し、積極的な情報発信を行うとともに、地元大学等の更なる活性化を図ります。
- ・ 地域・家庭における読書活動が進むよう、子どもと家族と一緒に親しむ習慣づくりを支援し、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動の支援を行います。

### 数値目標

まちづくり指標	学校で活動している地域のボランティアの数																						
算出方法	「地域連携による学校支援事業」と「放課後子ども教室推進事業」に参加したボランティアの延人数																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>ボランティアの数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>135,000</td><td>224,904</td></tr> <tr><td>R3</td><td>135,000</td><td>224,904</td></tr> <tr><td>R4</td><td>135,000</td><td>247,250</td></tr> <tr><td>R5</td><td>135,000</td><td>247,250</td></tr> <tr><td>R7</td><td>135,000</td><td>252,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>265,000</td><td>247,620</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	135,000	224,904	R3	135,000	224,904	R4	135,000	247,250	R5	135,000	247,250	R7	135,000	252,000	R12	265,000	247,620
年度	目標値		実績値																				
R1	135,000		224,904																				
R3	135,000	224,904																					
R4	135,000	247,250																					
R5	135,000	247,250																					
R7	135,000	252,000																					
R12	265,000	247,620																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 実施団体の増加により、ボランティア人数は目標値を上回っている。</p> <p>(II) 今後もボランティアを確保するため、広報活動や地域のネットワーク拡充を啓発するとともに、事業内容や活動方法の見直しを図る。</p>																						

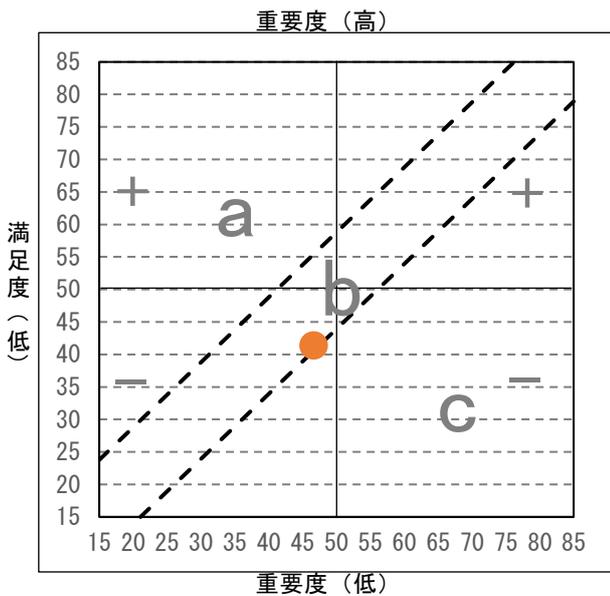
まちづくり指標	自分が参加したいと思う講座や活動があると思う人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「公民館やライフパーク倉敷などに自分が参加したいと思う講座や活動がありますか」という設問に対して、『十分ある』『まあまあある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>参加したいと思う人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>31.4</td><td>19.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>31.4</td><td>19.4</td></tr> <tr><td>R4</td><td>31.4</td><td>20.0</td></tr> <tr><td>R5</td><td>31.4</td><td>18.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>31.4</td><td>41</td></tr> <tr><td>R12</td><td>51</td><td>41</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	31.4	19.4	R3	31.4	19.4	R4	31.4	20.0	R5	31.4	18.7	R7	31.4	41	R12	51	41
年度	目標値		実績値																				
R1	31.4		19.4																				
R3	31.4	19.4																					
R4	31.4	20.0																					
R5	31.4	18.7																					
R7	31.4	41																					
R12	51	41																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) アンケート調査結果では「分からない」の回答割合が高く（約4割）、どのような講座・活動が行われているか、十分な周知ができていないと考えられる。</p> <p>(II) 紙媒体の広報紙（学習へのいざない、ライフパークEyEなど）に加え、ホームページや倉敷市公式アプリ、SNSなどを活用しての情報発信に努めるとともに、積極的に市民ニーズの把握に努め魅力ある講座企画に取り組む。</p>																						

まちづくり指標	公民館、図書館で開催される生涯学習講座への参加者数	
算出方法	市民学習センター、公民館、図書館で開催される生涯学習講座受講者数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 趣味や生きがいづくりの一般教養のほか、防災や環境などの地域課題に関するテーマの講座にも取り組んでいるが、興味関心を持ってもらえるような企画にすることができなかったと考えられる。</p> <p>(II) 座学のみでなく、ワークショップや体験型の手法も織り交ぜ、魅力ある講座企画及び情報発信に取り組む。</p>	

まちづくり指標	倉敷市役所でのインターンシップ受入人数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 職員採用PR活動など強化して実施しており、市の仕事に興味のある学生が増加していることなどが考えられる。</p> <p>(II) 継続して職員採用PR活動に取り組むとともに、受入部署を拡大するなど受入人数の増加につなげる。</p>	

まちづくり指標	市民1人当たりの市立図書館の貸出数	
算出方法	図書の年間貸出点数 ÷ 市の人口 ※図書（視聴覚・雑誌を含む）の年間貸出点数（団体を含む）とは、中央・水島・児島・玉島・船穂・真備の図書館、移動図書館、公民館図書室、ライフパーク倉敷図書室の総貸出点数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>多彩な展示や行事を企画することにより来館者数は増加している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限の解除に伴い、閲覧席の時間制限を緩和したことにより館内での読書を楽しむ人は増えてきている。一方、近年、電子書籍やオーディオブックが普及しており、それらへの対応が進んでいないことから貸出数は昨年度より減少したと考えられる。</p> <p>(II) 来館者数は増加傾向にある。今後も、子ども読書活動推進事業や、児童生徒の探求学習、大人のリスキングに関する資料の充実、及び、子育て支援コーナーの整備に努め、貸出点数の増加につなげていく。</p>	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	41.35	46.66

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
<グラフの見方>

		重要度 (高)		満足度 (高)	
満足度 (低)	重要度 (高)		満足度 (高)		満足度 (低)
		a (a+)	b (a-)	(b+)	
	(a-)	b (b-)	(c-)	c	
		重要度 (低)		満足度 (低)	

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
生涯学習推進事業	(I) 市民へ学習機会を提供するとともに、市政に関する啓発を図る。 (II) 市の行政活動を分かりやすく伝えるため、市職員が地域に出向く出前講座を実施し、延べ1,101講座を開講、51,254人が参加した。また、市職員を対象に生涯学習研修会を10月に実施した。 (III) 講座の新規・見直しを検討しながら、継続して実施する。	821
いきいきパスポート事業	(I) 市内在住の小中学生へ、子どもの体験活動の場と機会を提供する。 (II) 市内社会教育施設29か所で土・日・祝日・振替休日及び7~8月平日の入館料を免除するとともに、スタンプラリーを実施して利用拡大を図った。小中学生10,286人が利用した。 (III) 体験活動の場と機会を提供するため、継続して実施する。	668
高梁川流域連盟事業	(I) 圏域に暮らす人々の連帯意識を育み、圏域全体の文化生活向上を図る。 (II) 主催事業として、6つの事業 (音楽会、フォトコンテスト等) を実施した。また、広報啓発事業として、高梁川流域連盟ホームページでの情報発信及び流域市町での巡回展示・PR展示を実施した。 (III) 流域市町と協議しながら、継続して実施する。	4,352
生涯学習活動推進事業	(I) 公民館や市民学習センターで講座を開催する。 (II) ①市民学習センター及び②公民館にて808講座を開講、13,882人が受講した。①は、くらしき市民講座の充実を図り、②は地域の学習ニーズに対応したものや地域課題解決へのきっかけとなるような学習機会を提供した。 (III) 市民学習センターは、くらしき市民講座の充実を図り、公民館は地域の学習ニーズに対応したものや地域課題に関連した学習機会の提供に努める。	240,076
★ 天文王国おかやま事業	(I) 天文王国おかやま事業に参加し、高梁川流域関連施設の利用促進を図る。 (II) SNSの発信、専門誌及び関西圏対象のフリーペーパーへの掲載、ツーリズムEXPOジャパン2023の「星空ツーリズムエリア」に出展を行った。 (III) 継続して実施する。	200
★ 高梁川流域学び直し支援事業	(I) 学び直しにより、社会参画をめざす若者を支援する。 (II) くらしきシティプラザ西ビル5階に開設した「まなびばippo」で実施した。カウンセリングに延べ48人、学習支援に延べ524人、居場所に延べ259人の利用があった。 (III) 受託団体と協議しながら、継続して実施する。	8,790
ネットワーク・システム整備事業	(I) ネットワークやシステムの安定稼働及びセキュリティの確保を図る。 (II) 各システムや基幹サーバ、ネットワーク機器やLAN環境が安定して運用できるよう、保守管理について業務委託を行った。 (III) 各種ネットワークシステム及びICT機器について、安定した運用ができるよう、継続して実施する。	198,262

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
生涯学習環境整備事業	(Ⅰ) 快適で安全な生涯学習の場を提供する。 (Ⅱ) 下津井公民館複合化にかかる修繕。ライフパーク屋上防水修繕。倉敷北公民館と玉島西公民館の受変電設備修繕。公民館照明設備のLED化など。 (Ⅲ) 引き続き、照明設備のLED化、低圧化修繕等を行い、施設・設備の整備を行う。	72,690
自然史博物館施設整備事業	(Ⅰ) ライフパーク倉敷改装及び新自然史博物館整備事業を円滑に進める。 (Ⅱ) 新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画の策定支援業務を専門業者に委託し策定準備を行った。 (Ⅲ) 引き続き計画の策定を行い令和6年度での計画策定を目指す。	9,680
科学センター運営事業	(Ⅰ) 科学に対する夢や憧れを育み、広く一般に科学知識の普及・啓発を図る。 (Ⅱ) 年間入場者数は、160,488人(うちプラネタリウム55,581人、科学展示室88,541人、各種講座等16,366人)であり、人数だけでなく催し物内容などもコロナ禍前の状況に戻つつある。 (Ⅲ) 継続して実施する。	95,868
★ 高梁川流域大学連携推進事業	(Ⅰ) 大学等と連携して、地域の活性化や生涯学習の推進を図る。 (Ⅱ) 30講座を開催し、延べ620人の参加があった。またCOC事業を継承した内容を一部組み込み、市民に知的財産の宝庫である市内大学等や学生に対する理解を深めた。 (Ⅲ) 各大学の特色と専門性を生かし、高梁川流域連携中枢都市圏事業の一つとして実施する。	4,172
★ 高梁川流域自然史博物館展示事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域での自然に関する教養を高める。 (Ⅱ) 特別展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展」を開催した。観察会「高梁川流域自然たんけん」を倉敷市(参加者70人)及び矢掛町(131人)と連携して開催した。 (Ⅲ) 様々なニーズへの対応を図りながら、継続して実施する。	1,153
子ども読書活動推進事業	(Ⅰ) 子ども達が読書に親しむ機会の充実を図る。 (Ⅱ) 家族で読んでほしい本を載せたリーフレット「あおば+ (プラス)」を年3回作成して配布した。倉敷市子ども読書活動推進講座を実施し、494人が参加した。「くらしき子ども司書」を認定する講座を開催し、31人を認定した。 (Ⅲ) 子どもの読書活動を推進し、多様な読書環境の整備と充実に努める。読み聞かせボランティアの養成やくらしき子ども司書を認定する講座を行う。	78
図書館図書購入事業	(Ⅰ) 適切な図書の整備により、市民の多角的な学習への支援や課題解決を図る。 (Ⅱ) 収集基本方針に基づき、図書館全体で一般書27,780冊、児童書11,780冊を購入した。特に子育て支援資料を全館で339冊、ビジネス支援資料を、中央、水島、児島、玉島図書館で948冊購入し、充実に努めた。 (Ⅲ) 全館で、児童・生徒の探求学習、大人のリスキリングに関する資料の充実に努める。	82,333
★ 高梁川流域図書館相互利用推進事業	(Ⅰ) 図書館の利便性向上及び圏域内の文化発展に資する。 (Ⅱ) 令和5年度の本市図書館の利用実績は、本市以外からの利用者延べ2,906人、貸出冊数延べ10,122人であった。圏域全体では、当該市(町)外からの利用者延べ24,149人、貸出冊数延べ110,094冊となっている。 (Ⅲ) 圏域の住民であれば誰もが圏域内図書館の資料を便利に利用できるシステムであることをPRし、圏域内での相互利用の促進に努める。	883
★ 高梁川流域パスポート事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域在住の小学生へ、市町を越えた体験・交流の機会を提供する。 (Ⅱ) 高梁川流域圏内社会教育施設67か所で、流域パスポートの提示により入館料を免除した。また、利用拡大のためスタンプラリーを実施し、高梁川流域圏域在住の小学生3,429人が利用した。 (Ⅲ) 高梁川流域圏域の魅力を発信し、交流を促進するため、継続して実施する。	931

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-1 生活の中に個性的で魅力的な文化芸術が息づいている

### 市の施策

文化芸術活動を振興する

### 基本方針

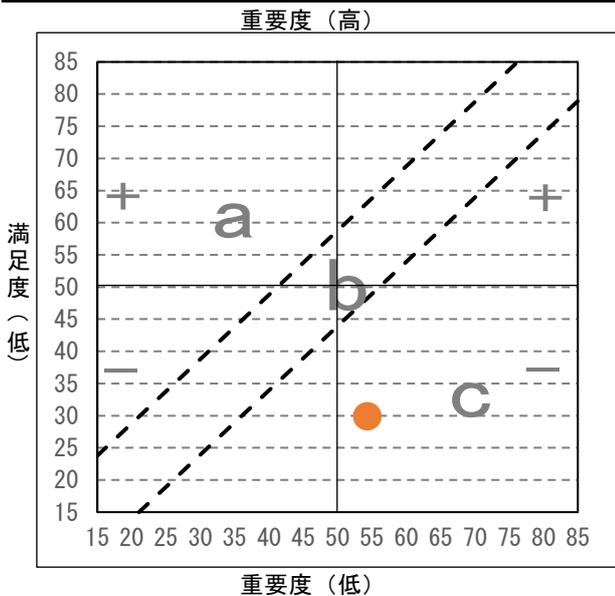
- ★ 各世代の関心やニーズを踏まえ、子どもから高齢者まで多くの市民に、様々なジャンルの優れた文化芸術に親しむ機会を提供することに努めます。
- ★ 市民が身近に文化活動に参加・発表することのできる環境づくりを進めるとともに、文化芸術団体の活動や団体相互間の交流を促進し、文化が育まれる環境づくりを進めます。
- ★ 個々の特性を踏まえて文化施設のあり方を検討するとともに、施設機能・設備の充実により、利用しやすい施設としての運営に努めます。
- ★ 文化芸術に関する情報を収集し、多様な広報媒体による、多言語化も含めたタイムリーで、わかりやすい積極的な情報発信に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	生活の中で文化的活動（鑑賞と実践のどちらでも可）を行っている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「生活の中で文化的活動（鑑賞と実践のどちらでも可）を行っていますか」という設問に対して、『よく行っている』『ときどき行っている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>生活の中で文化的活動（鑑賞と実践のどちらでも可）を行っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>30.5</td><td>30.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>26.4</td><td>26.4</td></tr> <tr><td>R4</td><td>26.7</td><td>26.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>28.5</td><td>28.5</td></tr> <tr><td>R7</td><td>40</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>50</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	30.5	30.5	R3	26.4	26.4	R4	26.7	26.7	R5	28.5	28.5	R7	40	-	R12	50	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	30.5		30.5																				
R3	26.4	26.4																					
R4	26.7	26.7																					
R5	28.5	28.5																					
R7	40	-																					
R12	50	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) ウイズコロナを意識し、感染症対策を行いながら文化活動を促す事業の継続・拡大を行う。																						

まちづくり指標	文化施設の利用者数																						
算出方法	倉敷市民会館、芸文館、児島文化センター、玉島文化センター、マービーふれあいセンターの利用者総数																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>文化施設の利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (人)</th> <th>実績値 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>450,793</td><td>450,793</td></tr> <tr><td>R3</td><td>432,707</td><td>215,818</td></tr> <tr><td>R4</td><td>432,707</td><td>389,073</td></tr> <tr><td>R5</td><td>432,707</td><td>432,707</td></tr> <tr><td>R7</td><td>645,000</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>690,000</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (人)	実績値 (人)	R1	450,793	450,793	R3	432,707	215,818	R4	432,707	389,073	R5	432,707	432,707	R7	645,000	-	R12	690,000	-
年度	目標値 (人)		実績値 (人)																				
R1	450,793		450,793																				
R3	432,707	215,818																					
R4	432,707	389,073																					
R5	432,707	432,707																					
R7	645,000	-																					
R12	690,000	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) ウイズコロナを意識し、感染症対策を行いながら事業の継続・拡大を進めていく。																						

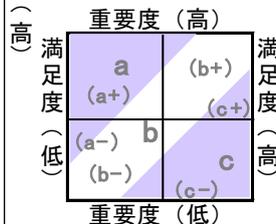
**市民の重要度・満足度**



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	29.90	54.35

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 + : 重要度が平均値より高い部分  
 - : 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

**施策を推進する主な事業の評価**

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
★ 展覧会事業	(I) 市民に様々なジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を提供する。 (II) 音楽や物語を感じさせる豊かな作品世界を展開する斎藤真一ら郷土ゆかりの作家の作品を紹介する「絵は奏で、物語る」展など4回の特別展と「池田遙邨名作展」など5回のコレクション展を開催した(総観覧者数20,189人)。 (III) より多くの市民に鑑賞していただけるよう企画内容を検討して、広報に力を入れ、継続して実施。	10,383
★ 文化活動支援事業	(I) 市民の文化活動を支援する。 (II) 倉敷市文化連盟主催行事は11事業を実施した。学区文化祭は26学区の実施で4,982人の参加があり、市民の文化活動を支援した。 (III) 各支援のあり方等について検討を行いながら、継続して実施する。	18,180
★ 美術館教育普及事業	(I) 講演会や作品制作などの講座を実施し、市民に学習の機会を提供する。 (II) 初心者対象の講座を中心に実技講座を7講座実施したほか、美術教養講座として美術館の建築に関する講演会や展覧会関連事業としてワークショップやギャラリートーク、コンサートを開催した。 (III) 美術館の収蔵品に関する講演会や身近な素材でのワークショップを始め、市民が気軽に参加できる内容を企画し、継続して実施する。	3,141
★ 文化施設管理運営事業	(I) 利用しやすい文化施設運営を行う。 (II) 文化施設(倉敷市民会館、芸文館、玉島文化センター、文化交流会館、大山名人記念館等)の指定管理者制度の継続による利用しやすい施設運営を行った。 (III) 引き続き、各文化施設を維持し、より利用しやすい環境を整備する。	383,314
★ (公財) 倉敷市文化振興財団運営事業	(I) 市民文化を振興するとともに、くらしき文化を全国に発信する。 (II) 倉敷音楽祭、大山名人杯倉敷藤花戦、大山名人杯争奪全国小学生「倉敷王将戦」などを各種事業を実施し、文化振興に寄与した。 (III) 引き続き、各種事業を通じて、市民文化を振興し、倉敷文化を全国に発信する。	272,762
★ 美術館広報活動事業	(I) 美術館の展覧会や収蔵作品について広く情報提供する。 (II) 展覧会や講演会などの情報を掲載した催し物案内を月1回作成・配布するほか、ホームページで情報提供した。また、Instagramに展覧会出品作品の作品解説を掲載して収蔵品に関する情報提供に努めた。 (III) ホームページでの収蔵作品解説の充実やSNSを活用して迅速で広範囲な情報発信を行うなど、継続して実施。	215
倉敷市文化章表彰事業	(I) 文化の向上発展に功績があった者に対し、その功績を称え、表彰する。 (II) 文化の向上発展に関して功績があった者(1人)に対し、文化章を贈呈した。 (III) 継続して実施する。	741

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
美術作品収集活動事業	(Ⅰ) 郷土作家等の作品を収集し、市民の文化的財産を次世代に継承する。 (Ⅱ) 郷土ゆかりの美術家・高橋秀や日本画家・稲葉春生、洋画家・阿藤秀一郎ら13作家による油彩画、日本画など様々なジャンルの作品44件(寄贈38件、管理替6件)を収集した。 (Ⅲ) 郷土ゆかりの作家の作品や関連資料の調査・研究を進めて貴重な美術品の保存に努めるとともに、体系的なコレクションの形成を目指して継続して実施する。	392
倉敷っ子美術展事業	(Ⅰ) 次代を担う子どもたちの造形活動を推進し、創造力と情操を養う。 (Ⅱ) 市内の小中学生が制作した絵画や工作、共同制作を展示する第38回倉敷っ子美術展(令和6年2月2日～2月18日)を開催した(出品点数10,281点、観覧者数15,805人)。 (Ⅲ) さらにより多くの保護者や一般市民に鑑賞してもらえるように広報に力を入れ、継続して実施する。	615

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業〈紡〉

### めざすまちの姿

2-2 世代を超えて受け継がれてきた歴史文化や伝統が大切に継承され、輝いている

### 市の施策

歴史文化や伝統の保存・継承と活用を図る

### 基本方針

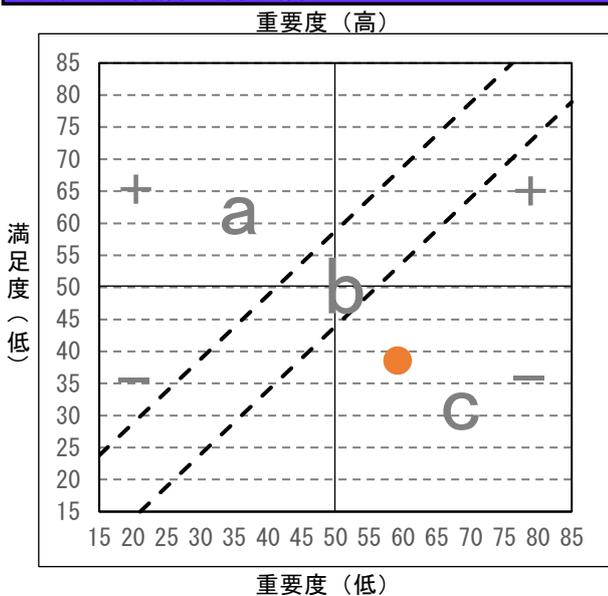
- ★ 地域の歴史的魅力や特色、後世に語り継がれる文化や伝統、そして本市の日本遺産を広く発信するとともに、その活用による地域活性化を図ります。
- ★ 郷土の偉人の研究・顕彰、地域に根ざした文化活動を支援するとともに、その担い手の育成につなげるため、啓発活動や、子どもたちをはじめとして市民が文化財に関わる機会の提供により、地域への愛着と誇りを醸成します。
- ★ 地域の協力のもと、地域に埋もれている文化財の調査を進め、先人達が残した貴重な文化財を後世に引き継ぎます。
- ★ 文化財に関する資料、公文書や古文書などの歴史資料や情報を、市民がより利用しやすくなるよう収集・公開に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	後世に伝えたい歴史文化や伝統が継承されていると思っている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「後世に伝えたいと思う歴史文化や伝統が継承されていると思いますか」という設問に対して、『継承されていると思う』『いくらか継承されていると思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 文化財や史跡公園等の適切な保存と利用しやすい環境の維持を行い、文化財の保護意識の醸成を図っているため。 (II) 引き続き、環境整備や文化財の保護思想の普及に努め、文化財の保存と活用及び継承に取り組む。	

まちづくり指標	子どもと一緒に地域の伝統行事に参加したことがある人の割合	
算出方法	就学前児童をもつ保護者、小学生をもつ保護者へのアンケート調査（倉敷子ども未来プランアンケート）で、「子どもと一緒に地域の伝統行事に参加したことがありますか」という設問に対して『ある』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスによる制限が解除され、以前の水準に戻りつつある状況のためと考えられる。 (II) 新型コロナウイルス感染症などの社会状況を踏まえつつ、継続して目標値達成を目指す。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	38.57	59.20

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域 (c)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)

重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高) a (a+)	b (b+)	c (c+)	d (d+)
e (a-)	f (b-)	g (c-)	h (d-)
満足度 (低)		満足度 (高)	

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度決算額 (千円)
★ 日本遺産推進事業	(I) 本市が認定された日本遺産を生かした地域の魅力向上と活性化を図る。 (II) 本市日本遺産の魅力発信を目的として、日本遺産検定、繊維産業の歴史に係るフォーラム開催、パンフレット多言語化、真備サイクリングマップ改修、PRポロシャツ販売、北前船寄港地フォーラムでの魅力発信など、多岐に渡るプロモーション事業を実施した。 (III) 今後も様々なプロモーションを継続的に実施する。	10,469
★ 郷土文化人顕彰事業	(I) 郷土文化人の顕彰活動を支援する。 (II) 薄田泣菫顕彰会と協働して、忌茶会や詩朗読会、生家開館20周年イベントを開催した。薄田泣菫生家 (入館者数2,712人)、大野昭和高記念資料館 (同15人)、横溝正史疎開宅 (同4,555人) の管理運営を行った。 (III) 継続して実施する。	5,797
★ 埋蔵文化財教育普及事業	(I) 埋蔵文化財を通して地域の歴史を知り、愛着と誇りを醸成する。 (II) 埋蔵文化財や歴史に関する講座の開催、博物館実習の受入れ、講師派遣など延べ29回実施し、合計987人の参加があった。講座等を含め、埋蔵文化財センターの総利用者数は6,351人。 (III) 事業の企画を工夫しながら継続して実施する。	266
★ 文化財保護事業	(I) 文化財や史跡の保存、活用を図り、後世に継承する。 (II) 文化財や史跡の環境整備を行い、適切な保存及び、利用しやすい環境が維持できた。文化財保護審議会・伝統的建造物群等保存審議会を開催し、文化財の保護に努めた。各種講座等に講師として職員を派遣した。 (III) 継続して実施する。	10,665
★ 指定文化財保存事業	(I) 指定文化財の適切な保存活用を図り、後世に継承する。 (II) 指定文化財の環境整備及び調査や修理を行い、適切な保存及び、利用しやすい環境が維持できた。 (III) 継続して実施する。	6,351
★ 埋蔵文化財保護・調査事業	(I) 埋蔵文化財を適切に保護し後世に継承する。 (II) 埋蔵文化財包蔵地内での開発行為の内容に応じて、全面発掘調査1件、確認調査を4件、立会調査を27件実施した。内出1号墳の確認調査と南山北古墳群・竜王塚古墳の測量調査を実施した。 (III) 法定業務として遺漏なく実施する。	8,339
★ 歴史資料調査研究整備経費	(I) 歴史資料として重要な公文書等の保存と利用を適切に実施する。 (II) 所蔵資料に関する来室者、主催展示会・講座の参加者、講師派遣などで1,962人の利用があった。「倉敷の歴史」販売・寄贈冊数は828冊であった。Webサイトアクセス件数は58,713件であった。 (III) より一層市民が利用できる体制となるよう継続して実施する。	9,693

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
歴史民俗資料館管理 運営事業	(Ⅰ) 歴史民俗資料を広く一般に公開し、文化財に親しむ機会を提供する。	2,764
	(Ⅱ) 歴史民俗資料館(倉敷・福田)において、収集した郷土の歴史民俗資料を保存・展示した。施設の管理運営については指定管理者制度により行っている。	
	(Ⅲ) 継続して実施する。	

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-3 生活の中で、日常的かつ気軽にスポーツに親しむことができる

### 市の施策

スポーツ活動を推進する

### 基本方針

- ★ 市民のだれもが、体力や年齢などに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現をめざします。
  - ・ アスリートの発掘や育成、強化を継続的に行うことにより、本市の競技水準の向上を図ります。
- ★ スポーツを通じて、人と人、地域と地域の交流を促進し、活力ある絆の強い地域社会の実現と地域経済の活性化につなげます。
- ★ 施設の長寿命化などにより、だれもが身近に、気軽に、そして安全にスポーツに親しむことができる環境整備を図ります。

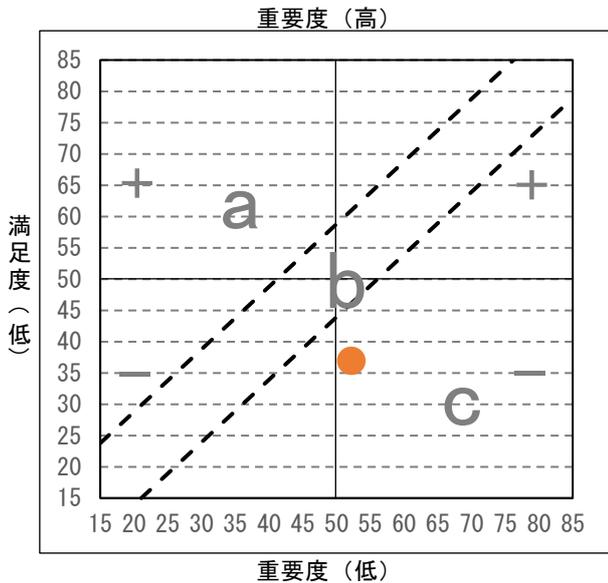
### 数値目標

まちづくり指標	週1回以上スポーツをしている成人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「週1回以上スポーツをしていますか」という設問に対して、『している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100 ※ウオーキングや体操など、健康・体力づくりのための運動を含む																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>週1回以上スポーツをしている成人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>42.9</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>44.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>41.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>40.5</td></tr> <tr><td>R7</td><td>50</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>55</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1		42.9	R3		44.3	R4		41.7	R5		40.5	R7	50		R12	55	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1			42.9																				
R3		44.3																					
R4		41.7																					
R5		40.5																					
R7	50																						
R12	55																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍を経て運動・スポーツを実施する人の割合が減少したと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																						

まちづくり指標	国民体育大会に出場する選手数																						
算出方法	市で集計（年終了時）																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>国民体育大会に出場する選手数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (人)</th> <th>実績値 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>196</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>21</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>205</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>167</td></tr> <tr><td>R7</td><td>200</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>220</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (人)	実績値 (人)	R1		196	R3		21	R4		205	R5		167	R7	200		R12	220	
年度	目標値 (人)		実績値 (人)																				
R1			196																				
R3		21																					
R4		205																					
R5		167																					
R7	200																						
R12	220																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 複数の競技において、中四国ブロック大会で国民体育大会の出場権を獲得できなかったため。																						
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																						

まちづくり指標	倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数																						
算出方法	市で集計（年度終了時）																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (件)</th> <th>実績値 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>438,581</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>332,318</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>572,534</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>711,909</td></tr> <tr><td>R7</td><td>700,000</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>1,000,000</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (件)	実績値 (件)	R1		438,581	R3		332,318	R4		572,534	R5		711,909	R7	700,000		R12	1,000,000	
年度	目標値 (件)		実績値 (件)																				
R1			438,581																				
R3		332,318																					
R4		572,534																					
R5		711,909																					
R7	700,000																						
R12	1,000,000																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) サイトに積極的に情報を掲載するとともに、SNSでの情報発信を強化したためだと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) スポーツ基本計画に掲げる具体的な施策を今後も継続的に推進していく。																						

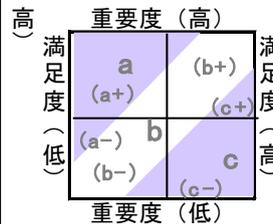
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	36.94	52.23

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域 (c)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 倉敷市民スポーツフェスティバル実施事業	(I) スポーツに興味をもつ機会を提供し、市民のスポーツ活動を推進する。 (II) 市民参加型イベントやスポーツ教室、一般参加型競技会等を開催し、延べ19,351人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	11,274
★ 高梁川流域健康スポーツ推進事業	(I) スポーツ活動への取組を推進し、圏域内のスポーツ実施率の向上を図る。 (II) 総社市、高梁市で開催したウォーキングイベントには延べ179人が、川崎医療福祉大学で開催した大学講座には延べ98人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	1,667
スポーツ選手強化事業	(I) 将来、活躍が見込まれるジュニアアスリートの競技力の向上を支援する。 (II) 倉敷市スポーツ振興協会専門部による、「ジュニアスポーツ強化事業」に補助金を交付し、ジュニア選手の競技力向上を図った。 (III) ジュニア選手の競技力向上に資するため、継続して実施する。	4,900
スポーツ医・科学支援事業	(I) 医・科学的な支援により、ジュニアアスリートの競技力向上を図る。 (II) 令和5年度倉敷市ジュニア強化選手として延べ87名を認定し、スポーツ医・科学の見地から、コンディショニングや栄養、心理面の支援を行った。 (III) ジュニア選手の競技力向上に資するため、継続して実施する。	1,341
★ 瀬戸内倉敷ツーデーマーチ実施事業	(I) 自然に親しみながら、体力や健康づくり、心と心のふれあいを図る。 (II) 5年ぶりの通常開催となり、2日間で延べ7,319人が参加した。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	13,086
★ 倉敷国際トライアスロン大会実施事業	(I) 大会を通じて、本市を全国に発信するとともに、地域の活性化を図る。 (II) 4年ぶりに開催し、426人が参加した。 (III) BR児島改修工事により大会を中止。代替事業を検討する。	18,417
★ スポーツ情報発信事業	(I) 本市のスポーツ情報を一元化し広く発信することで、スポーツ振興を図る。 (II) 誰もが容易にスポーツライフに役立つ情報を取得できるよう、時代のニーズに合った仕様に改善するとともに、WEBサイトの存在を周知できるよう、SNSでの発信を積極的に行い、閲覧数が前年度より約14%増加した。 (III) 今後も閲覧数の増加に努め、本市のスポーツ情報の発信を継続して実施する。	459
★ 運動公園利活用推進事業	(I) 市民ニーズに沿った、機能的で利用しやすい施設づくりを計画的に推進する。 (II) 水島緑地福田公園サッカー・ラグビー場 (天然芝) の整備が完了し、令和6年4月から供用開始した。また、第1駐車場の整備を実施した。 (III) 倉敷市運動公園利活用基本構想に基づき、継続して実施する。	162,915
(仮称) 水島緑地福田公園屋内プール整備事業	(I) 市民に安心・安全で快適なスポーツ環境を提供する。 (II) 水島緑地福田公園に新たな屋内プールを整備するため、基本計画及び基本設計を実施した。また、水島緑地福田公園水泳場の解体工事を実施した。 (III) 令和6年度は実施設計を継続して実施し、工事発注を行う。	162,344

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-4 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている

### 市の施策

家庭や仕事と生活の調和がとれるよう支援する

### 基本方針

- ★ 女性をはじめとした多様な人材が、自分の意志で生き方を選択し社会のあらゆる分野に参画し活躍していくために、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現した社会をめざします。
- ★ 働く人と企業の双方に理解を深めるための情報発信や啓発を推進するとともに、児童・生徒に対して働き方についての意識醸成を図る教育を行い、仕事と生活の調和を考慮した働き方改革への理解を深めます。
- ★ 就労時間や就労場所に柔軟に対応できる労働環境、多様な就労形態を選択できる環境の整備を促進します。
- ★ ハラスメントや障がいのある人、性的少数者、外国人に対する不当な差別の防止など、働く場での人権問題に対して一層の啓発を図るとともに、積極的に改善に取り組む企業を支援します。

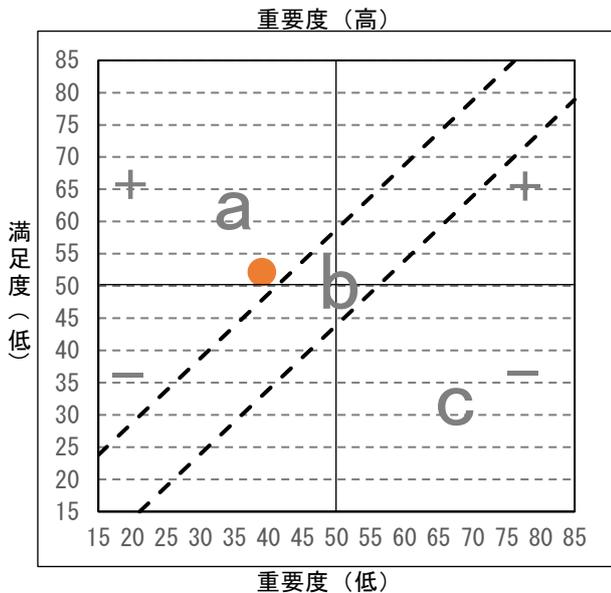
### 数値目標

まちづくり指標	自分や家庭の事情に合った働き方ができていると思っている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「自分や家庭の事情に合った働き方ができていますか」という設問に対して、『できている』『どちらかというどできている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>自分や家庭の事情に合った働き方ができていると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>73.2</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>75.2</td><td>75.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>71.1</td><td>71.1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>73.2</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>R7</td><td>82</td><td>82</td></tr> <tr><td>R12</td><td>85</td><td>82</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	73.2	73.2	R3	75.2	75.2	R4	71.1	71.1	R5	73.2	73.2	R7	82	82	R12	85	82
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	73.2		73.2																				
R3	75.2	75.2																					
R4	71.1	71.1																					
R5	73.2	73.2																					
R7	82	82																					
R12	85	82																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ後、社会活動が再開されていく中、テレワークの縮小や業務量増大が影響したと考えられる。 (II) 高梁川流域女性活躍推進事業を通じ、各人の事情に応じた多様な働き方の啓発を継続する。																						

まちづくり指標	余暇時間を有意義に過ごすことができていると思っている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「余暇時間を有意義に過ごすことができますか」という設問に対して、『できている』『どちらかというどできている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>余暇時間を有意義に過ごすことができていると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>60.6</td><td>60.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>55.9</td><td>55.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>54.9</td><td>54.9</td></tr> <tr><td>R5</td><td>57.2</td><td>57.2</td></tr> <tr><td>R7</td><td>65</td><td>65</td></tr> <tr><td>R12</td><td>70</td><td>65</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	60.6	60.6	R3	55.9	55.9	R4	54.9	54.9	R5	57.2	57.2	R7	65	65	R12	70	65
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	60.6		60.6																				
R3	55.9	55.9																					
R4	54.9	54.9																					
R5	57.2	57.2																					
R7	65	65																					
R12	70	65																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 物価高騰等による生活の不安から、余暇を楽しむゆとりを感じづらいためと考えられる。 (II) リフレッシュできる環境の整備を促進するため、有給休暇取得促進リーフレット等を活用し、企業へ啓発を行う。																						

まちづくり指標	働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「あなたの職場は、子育てに対する理解があると思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというどそう思う』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>働いている職場が、子育てに対する理解があると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>66.1</td><td>66.1</td></tr> <tr><td>R3</td><td>69.1</td><td>69.1</td></tr> <tr><td>R4</td><td>71.1</td><td>71.1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>70.0</td><td>70.0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>70</td><td>70</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>70</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	66.1	66.1	R3	69.1	69.1	R4	71.1	71.1	R5	70.0	70.0	R7	70	70	R12	75	70
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	66.1		66.1																				
R3	69.1	69.1																					
R4	71.1	71.1																					
R5	70.0	70.0																					
R7	70	70																					
R12	75	70																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 育休、短時間勤務制度の整備や、男性の育児参画気運醸成により、職場で協力し合う体制整備が推進されたと考えられる。 (II) 多様な人材の活用・働き方を啓発・推進するため、「高梁川流域ワークエンゲージメント推進事業」を実施する。																						

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	52.16	39.08

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

a	(b+)
(a+)	(c+)
(a-)	b
(b-)	(c-)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
★ 高梁川流域女性活躍推進事業	(I) 高梁川流域圏における女性の活躍を迅速かつ重点的に推進する。 令和5年12月2日(土)にセミナー、ワークショップ等を通じて女性活躍を学ぶイベント「わくワークマルシェ2023」を開催した(来場者数延べ403人)。女性の再就職支援講座はPC、簿記について学ぶ内容で開催した(参加者数延べ319人)。 (II) 女性の再就職支援講座はPC、簿記について学ぶ内容で開催した(参加者数延べ319人)。 (III) 令和6年度はイベント形式の事業はセミナーに改め、女性の再就職支援に関する講座は継続する。	4,994
★ 男女共同参画推進事業所認定事業	(I) 多様な働き方ができる環境整備を推進する。 (II) 令和5年度に3事業所を認定し、累計で45事業所を認定した。 (III) 継続して実施する。	52
★ キャリア教育推進事業	(I) 中学生・高校生に社会人としてのマナーやワークルール等を指導する。 社会保険労務士やキャリアコンサルタントを派遣する「基礎講座」には16校3,020人、企業が学校に出向き行う「企業学び楽舎講座」には18校3,734人の参加があり、中学生、高校生に対し、職業観の育成や将来の地元就職への促進を図った。 (II) 社会保険労務士やキャリアコンサルタントを派遣する「基礎講座」には16校3,020人、企業が学校に出向き行う「企業学び楽舎講座」には18校3,734人の参加があり、中学生、高校生に対し、職業観の育成や将来の地元就職への促進を図った。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	1,575
★ 高梁川流域働き方改革啓発事業	(I) 流域内の企業や労働者に対して、働き方改革の内容を普及啓発する。 「働き方改革セミナー」を8月(参加者延べ57人)及び2月(参加者153人)に、また1月に「働き方フェア」(参加者1,900人)を開催し、企業の働き方改革に係る意識啓発の更なる推進を図った。 (II) 「働き方改革セミナー」を8月(参加者延べ57人)及び2月(参加者153人)に、また1月に「働き方フェア」(参加者1,900人)を開催し、企業の働き方改革に係る意識啓発の更なる推進を図った。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	1,443
★ 人権に関する企業向け啓発活動事業	(I) 労働者が「安心して働き続けられる労働環境づくり」を促進する。 「企業向け人権啓発講座(人権セミナー)」を9・11・1月の3回実施し、延べ115社の参加企業の受講者に対し、人権啓発を行い、「だれもが安心して働き続けられる労働環境づくり」の促進を図った。 (II) 「企業向け人権啓発講座(人権セミナー)」を9・11・1月の3回実施し、延べ115社の参加企業の受講者に対し、人権啓発を行い、「だれもが安心して働き続けられる労働環境づくり」の促進を図った。 (III) より多くの方に参加していただけるよう、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	1,498
★ 中小企業勤労者等福祉厚生事業	(I) 中小企業勤労者、事業主等の福利厚生の増進と充実に努める。 (II) (一財)倉敷市勤労者福祉サービスセンターに補助を行い、中小企業勤労者の福祉向上に寄与した。また、勤労者融資制度として中国労働金庫へ資金を預託し、市内在住の勤務者に対し、生活資金の貸付を57件(48,920千円)行った。 (III) 関係団体と協議しながら、継続して実施する。	257,799
勤労者福祉施設管理運営事業	(I) 勤労者の福祉、健康の増進を図る。 勤労者の福祉増進に資するため、倉敷労働会館(利用者:46,540人)、水島勤労福祉センター(利用者:25,395人)及び倉敷勤労者体育センター(利用者:7,853人)について、必要な修繕(計1,151千円)を行いながら、適切な管理運営を行った。 (II) 勤労者の福祉増進に資するため、倉敷労働会館(利用者:46,540人)、水島勤労福祉センター(利用者:25,395人)及び倉敷勤労者体育センター(利用者:7,853人)について、必要な修繕(計1,151千円)を行いながら、適切な管理運営を行った。 (III) より多くの方に利用していただけるよう、必要に応じて修繕を行いながら、適切な管理運営を継続して実施する。	31,899

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-5 産業競争力が高く、多様な人材が働く機会に恵まれ、将来の暮らしに希望をもつことができている

### 市の施策

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて縮小した経済を早期に復興するため、産業競争力の強化と地場産業の振興、雇用の確保・充実を図る

### 基本方針

- ★ 国・県・民と連携して、水島コンビナートの重要な物流拠点であり、中四国を中心とした西日本の物流のハブとなる水島港の整備を促進し、競争力強化を図ります。
- ★ 水島コンビナートの高効率化、高付加価値化、脱炭素化を進めるとともに、企業の研究開発や新規事業創出に向けた取り組みなどを支援し、アジア有数の競争力をもつコンビナートとしての持続的発展をめざします。
- ★ 次世代産業技術を学ぶ人材が活躍できるよう、イノベーション分野を含めた、地域への経済波及効果の高い企業の誘致・育成に取り組み、持続的な産業力の強化を進めます。
- ★ 繊維などの地場産業や、伝統分野における技術を継承するため、地域資源の魅力発信を行うとともに商品開発や販路開拓を支援し、競争力を強化することで次世代の人材確保に努めます。
- ★ 市の経済と雇用の基盤を支える中小企業・小規模事業者の持続的発展に向けた経営体質の健全化、経営基盤の強化、競争力強化、事業承継などの取り組みを支援します。
- ★ 中小企業・小規模事業者について、危機発生時の事業継続の取り組みを支援します。
- ★ 労働力人口の減少が進むなか、就労意欲と能力をもつ人材の就労促進、潜在的労働力の確保を進め、雇用の確保・創出による労働力の安定を図ります。

### 数値目標

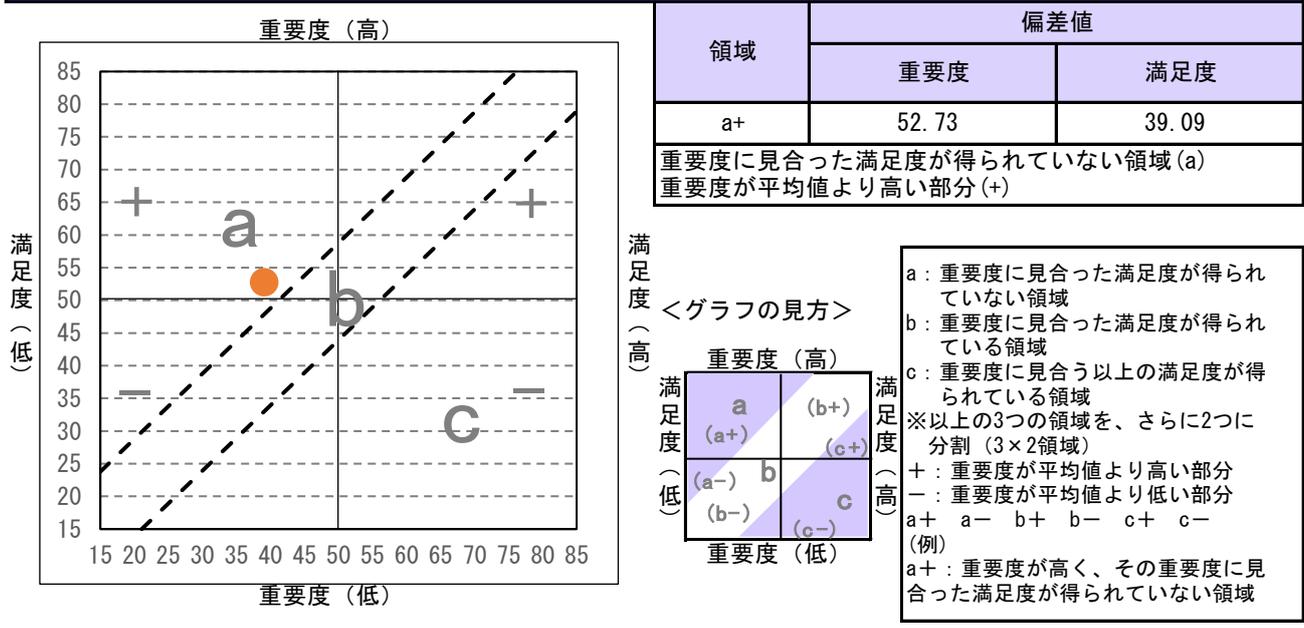
まちづくり指標	自分の仕事にやりがいを感じている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、仕事をしている人で、「自分の仕事にやりがいを感じていますか」という設問に対して、『感じている』『どちらかというと感じている』と回答した人の数／アンケート回答者のうち仕事をしている人の総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>就業満足度（%）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>69.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>65.9</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>-</td> <td>65.2</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>-</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>75</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>80</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	69.3	-	R3	-	65.9	R4	-	65.2	R5	-	70.6	R7	75	-	R12	80	-
年度	目標値		実績値																				
R1	69.3		-																				
R3	-	65.9																					
R4	-	65.2																					
R5	-	70.6																					
R7	75	-																					
R12	80	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	B																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 物価高騰に賃金上昇が追いつかず、仕事を頑張っても生活の豊かさに繋がりがづらい状況であるためと考えられる。</p> <p>(II) ワークエンゲージメントを高める働き方を推進するため、働き方改革の事例等を紹介するセミナーを開催する。</p>																						

まちづくり指標	市内製造業粗付加価値額													
算出方法	経済センサス-活動調査による（H30までは工業統計調査）													
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>市内製造業粗付加価値額（億円）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>6,420</td> <td>7,200</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>6,495</td> <td>5,597</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>7,171</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H30	6,420	7,200	R3	6,495	5,597	R8	7,171	-
年度	目標値		実績値											
H30	6,420		7,200											
R3	6,495	5,597												
R8	7,171	-												
目指す方向性	➡													
進捗状況	-													
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>※令和8年度の調査結果は令和9年に公表予定。</p>													

まちづくり指標	市内高等教育機関（大学・短期大学等）卒業生の市内就職率	
算出方法	市内高等教育機関（大学・短期大学等）の卒業生のうち市内就職者数／卒業生の数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 市内企業で働く魅力を知り、ライフプランやキャリアプランに照らし合わせて考える機会の提供が十分でなかったことが考えられる。 (II) 市内10大学等と連携し、市内就職への理解深化など倉敷市への愛着・定着に繋げる取組を行う。	

まちづくり指標	市内情報通信業売上	
算出方法	経済センサス-活動調査による	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	※令和8年度の調査結果は令和9年に公表予定。 ※調査は5年に1度実施	

### 市民の重要度・満足度



### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 水島コンビナート・水島港競争力強化支援事業	(I) 水島コンビナートの競争力強化を図る。 (II) 県と連携した取組を進め、総合特区において、規制の特例措置等の提案のうち、平成30年度に新たに1項目、現在合計19項目で国との合意が図られるなど、一定の成果が挙げられた。 (III) 総合特区計画の時期認定を受け、継続して実施する。	93,780
★ 企業誘致推進事業	(I) 地域経済の活性化や雇用の維持・創出、税収の増加を図る。 (II) 企業立地促進奨励金1件、物流施設誘致促進助成金1件、本社機能移転等促進奨励金1件、設備投資促進奨励金62件の助成を行った。 (III) 事業内容を見直しながら、継続して実施する。	1,172,816

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ せんいのまち倉敷 人材確保・育成事業	(Ⅰ) 繊維産業の人材確保及び人材育成を目的とする。 高度な能力を有する人材育成及び技能継承を目的に繊維関連事業者597人を対象にした技能研修を実施した。また、繊維マイスター25人の認定を実施した。 (Ⅱ) 繊維産業の人材確保や人材育成の推進に向けて継続して実施する。	9,702
★ 人「財」育成支援事業	(Ⅰ) 専門人材の育成支援により、中小企業の競争力強化を図る。 (Ⅱ) 事業継続力強化を目的とする研修に対して2件、DX推進を目的とする研修に1件、様々な職種の技能検定試験に対して6件の助成を行った。 (Ⅲ) 利用件数が期待していたほど伸びていないので、事業者への周知を強化していく。	558
★ 繊維産業「産地連携」推進事業	(Ⅰ) 産地連携促進による将来を担う人材を育成し、繊維産業の活性化を図る。 創業者向けジーンズ縫製実践講座10人、小学生対象のジーンズをテーマにした出前講座2,046人、デニム・ジーンズ認知度向上イベント等を実施した。また、縦関連事業者と全国の984人の学生等を繋ぐオープンファクトリー事業を実施した。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域と備後圏域にまたがる「三備産地」の産地間連携を推進する事業を継続して実施する。	20,052
★ ぐらしき地域資源情報発信事業	(Ⅰ) 市内5商工団体と連携し、地域資源を広く情報発信することを目的とする。 地域の特産品などの魅力を市内外に向けて発信する「～至極の逸品～ぐらしきフェア」を10月に開催(来場者数 約18,000人)。また11月に感謝状贈呈式を実施し老舗事業者4者を顕彰した。 (Ⅱ) 地域資源を市内外に情報発信するため継続して実施する。	8,107
★ フードマッチング支援事業	(Ⅰ) コロナ禍の影響を受けた市内の農林水産業者等の販路開拓を目指す。 農林水産事業者の新たな販路拡大のため、8月に商談会を実施。ホテルや飲食店をパイヤーとし、29マッチングし、10件商談が成立。令和6年2月～3月に市内飲食店を巡るイベントを開催。 (Ⅱ) コロナ交付金事業であったため令和5年度で終了した。	8,000
★ 金融機関連携型中小企業支援事業	(Ⅰ) 中小企業者の持続的な成長を促進する。 中小企業が金融機関と連携して行う持続的な成長への取組みに係る経費の一部を支援した。補助金上限100万円、補助率2/3、採択件数14件(デジタル化11件、海外販路3件) (Ⅱ) 経営者の相談先である金融機関にしっかりと伴走してもらいながら、今後とも事業を実施する。	11,055
★ 経営力向上セミナー開催事業	(Ⅰ) 新たな経営手法等の普及啓発により、経営者の経営力向上を図る。 「デザイン経営」(受講者:26名、会場:児島)、「ビジョン経営」(受講者:51名、会場:倉敷)、「あらたな資金調達」(受講者:15名、会場:倉敷)をテーマに計3回セミナーを実施した。 (Ⅱ) 開催テーマ等を吟味した上で継続して実施する。	1,550
★ 新分野展開チャレンジ支援事業	(Ⅰ) 事業環境の急速な変化に対応する、新分野への事業展開を支援する。 急速な環境変化への対応を目指す中小企業の新分野への事業展開に係る経費の一部を支援した。補助金上限200万円、補助率2/3、採択件数9件 (Ⅱ) 広報等工夫しながら継続して実施する。	15,379
★ 高梁川流域未来人材育成事業	(Ⅰ) 産業人材の育成、確保のため、キャリア教育の推進を図る。 高梁川流域圏域の産業人材の育成、確保を目的に、高梁川流域圏の高校と商工団体、金融機関、農協等が連携して地域経済活動等にかかわるアクティブラーニングや教育に資する活動に補助金を交付した(補助金交付実績:12校)。 (Ⅱ) 労働雇用政策課へ移管。	3,898
★ キャリア教育指導者育成事業	(Ⅰ) キャリア教育に関わる人材を育成し、地域を担う産業人材の育成につなげる。 キャリア教育に関わる人材の育成や地域を担う産業人材の育成にサポートする体制構築をを目標に、全3回の指導者塾(高梁川流域未来キャリア教育セミナー)の開催(延べ53人参加)や、PBL(=課題探求型学習)を進めるためのスキル習得に向けたプログラム(全5回、15名参加)を実施した。 (Ⅱ) 一部内容を見直した上で労働雇用政策課へ事業を移管し、継続して実施する。	1,691
★ ふるさと就職促進事業	(Ⅰ) 市内への就職希望者の就業促進及び雇用の確保を推進する。 (Ⅱ) 地元企業37社による「倉敷地域就職フェア」を開催し、雇用の確保及び地域活性化を図った。 (Ⅲ) 同時期に実施している他事業と内容が重複するため、事業を一本化し、本事業は令和5年度で完了とする。	587

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 高梁川流域就職面接会等開催事業	(Ⅰ) 高梁川流域内での新卒者、UIJターン就職希望者の就職を促進する。 (Ⅱ) 合同企業説明会を2回開催し、企業と就職希望者との円滑なマッチングに向けた環境整備に取り組んだ。また、学校と企業の就職担当者による「情報交換会」を実施し、学生の流域圏内企業への就職促進を図った。 (Ⅲ) 企業・求職者等からの需要が高いため、事業の見直しを行いながら、継続して実施する。	7,686
★ ぐらしき地域資源販路開拓支援事業	(Ⅰ) 地場産品の販路開拓支援及び地域ブランド化を目的とする。 (Ⅱ) 「繊維のまち」児島の技術力や魅力を発信する体験型デニムイベントを実施(来場者5,000人/2日間)。また特産品の販売促進等のため倉敷特産品ギフト&ノベルティWEBサイト構築。 (Ⅲ) 事業内容を見直しながら、継続して実施する。	5,542
★ 高梁川流域アルチザン(職人)支援事業	(Ⅰ) 圏域全体の工芸・民芸・クラフト等のブランド力底上げを目的とする。 (Ⅱ) 高梁川流域圏の民芸・工芸品の知名度向上と販路開拓のため、美観地区界隈の7つのギャラリー等を周遊するイベントを11月に3日間、開催した(来場者数 約3,200人/3日間)。 (Ⅲ) 周遊型のイベントは伝統的工芸品国民会議全国大会に合わせて実施したため終了。	3,456
★ 高梁川流域クロッシング事業	(Ⅰ) 流域圏内企業の異業種間連携の取組を支援する。 (Ⅱ) 企業間連携やオープンイノベーションの好事例や支援策等の紹介する専用WEBの開設や、行政課題解決に向けたワークショップ(4社参加)、アイデアソン(全2回、延べ40名参加)、高梁川流域オープンイノベーションフォーラム(190名参加)を開催した。 (Ⅲ) 事業内容を見直しながら、継続して実施する。	5,687
★ 高梁川流域次世代経営者塾事業	(Ⅰ) 高梁川流域の次世代経営者の経営能力向上・資産価値増加を図る。 (Ⅱ) 前年度事業にて発掘した事業承継に前向きな事業者4件をオープンネームマッチングプラットフォーム(Web)に掲載。掲載するにあたり事業者ごとのストーリーなどを取材。その他にも事業承継に関するセミナーを開催した。 (Ⅲ) 事業承継における意識醸成を促すためにも継続して事業を実施する。	2,273
★ 高梁川流域地域資源活用推進事業	(Ⅰ) 圏域地域資源を活用し、経済の循環・活性化を図ることを目的とする。 (Ⅱ) 高梁川流域圏内の地域資源の首都圏等への販路開拓のため、セミナー・相談会・商談会等、伴走型の事業を実施。また3月に美観地区内で展示即売会を開催(来場者約7,000人)。 (Ⅲ) 流域圏内の地域資源の知名度向上・販路拡大のため引き続き実施。	14,517
★ 中小企業融資事業	(Ⅰ) 市内中小企業者の経営の安定と設備の近代化又は合理化を図る。 (Ⅱ) 中小企業者の経営の安定化等を図るため、必要な資金の融資を行った。451件、1,643,410千円の融資利用があった。 (Ⅲ) 事業内容を見直しながら、継続して実施する。	37,414
★ 地域おこし協力隊活動推進事業	(Ⅰ) 地域資源の活用や新産業の創出等により地域課題を解決する。 (Ⅱ) 地域おこし協力隊2名を委嘱。1名は玉島みなと朝市を活用した流域内資源の販売などを行い、1名は航空宇宙産業振興支援として(一社)MASCと連携し、空飛ぶクルマの域内での利活用のため、試験運用や広報などを行った。 (Ⅲ) 引き続き地域資源の発掘・活用を図る。	9,586
★ 商工業活性化推進事業	(Ⅰ) 市内商工業者の競争力強化と活性化を図る。 (Ⅱ) 商工団体の経営改善普及事業に対して支援を行うとともに、商工団体主催イベント6件について支援を行った。また、若手技能者の全国大会等の出場に対して奨励金を15件交付した。 (Ⅲ) 商工業の活性化を図る観点から継続して実施する。	43,577
電気・ガス価格高騰緊急経済対策事業	(Ⅰ) 電気・ガス価格高騰の影響を受ける事業者の負担軽減を図る。 (Ⅱ) 補助金を2,381件交付した。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	458,491
エネルギー価格高騰対策省エネ設備導入促進事業	(Ⅰ) エネルギー価格の高騰対策として、事業者の省エネ設備投資を支援する。 (Ⅱ) 補助金を延べ450件(第1期265件、第2期185件)交付した。 (Ⅲ) 第3期を実施する。	508,526

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業＜紡＞

### めざすまちの姿

2-6 商業の活性化が地域に活力を生み、時代の流れに対応したビジネスの創出や起業が進んでいる

### 市の施策

商業振興による地域の活性化を図るとともに、新分野への進出・起業がしやすい環境を整える

### 基本方針

- ★ 市中心部において、JR倉敷駅を中心とした南北の回遊性向上による一体化を促進し、更なる賑わいと活力の創出を図ります。
- ★ 地域の消費や雇用を支えるとともに、まちの拠点や地域コミュニティ形成として重要な商店街の活性化を図ります。
- ★ 経済情勢や社会情勢を踏まえ、感染症などの新たな課題に対応し、事業者が自らの強みを生かしていく多種多様な取り組みを支援します。
- ★ 起業を地域経済の活性化にとって重要な経済活動と捉え、起業を志す人を継続して支援し、起業機運を醸成します。
- ★ 次代の先端技術や地域資源・特産品の活用、農工商連携の促進などにより、新商品・新技術の開発につなげ、新たなビジネスの創出を図ります。

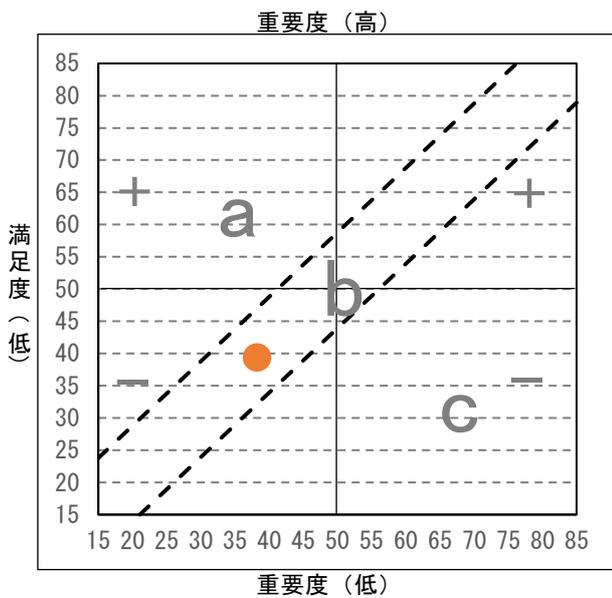
### 数値目標

まちづくり指標	商店街の休日1日当たりの歩行者・自転車通行量	
算出方法	倉敷市商店街等通行量調査（隔年実施）による休日の訪問者の合計を調査期間の祝休日数で除した数（平均値）（笹沖・茶屋町地区除く）※令和5年度から調査方法を、実地調査から民間のビッグデータを活用した分析調査に変更したことに伴い、基準値及び目標値を再設定。	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 令和5年度実績を基準値として設定。R7の目標値は基準値より5%増、R12の目標値は基準値より10%増に設定した。	
(II) 今後の取組方針	(II) 商工団体や商店街組織と連携し、賑わいの創出に向けた取組を行っていく。	

まちづくり指標	創業サポートセンターを活用した創業件数	
算出方法	創業サポートセンター構成団体からの報告をもとに市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 創業サポートセンターの窓口相談やセミナーの周知により、創業支援を行ったため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 商工団体や金融機関等と連携し、事業者支援を行っていく。	

まちづくり指標	商業年間商品販売額	
算出方法	経済センサス-活動調査による（卸売業及び小売業の合計）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業者が休業したためと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 商工団体や金融機関等と連携し、事業者支援を行っていく。	

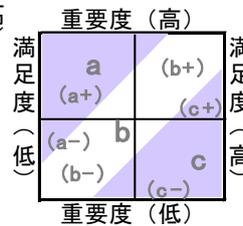
市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	39.38	38.27

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 < グラフの見方 >



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度決算額 (千円)
★ 高梁川流域「倉敷三斎市」	(I) 地域資源推進と駅南北の回遊性向上による中心市街地の活性化を目的とする。 (II) 毎月第3日曜日に実施した。8月には復活祭を行いコロナ前の通常開催移行。奇数月はキッチンカー、偶数月はALL流域デーとテーマを定めて開催 (延べ出店者637店、来場者67,000人)。 (III) 継続して実施する。	10,000
★ パワーアップ商業振興事業	(I) 商店街の活性化を図る。 (II) 商店街の空き店舗における新規出店や、商店街施設の改修などを対象に8件の補助を行った。 (III) 継続して実施する。	5,569
★ 買って応援! 「Made inくらしき」応援事業	(I) 製造・販売元が市内である商品の流通拡大を目的とする。 (II) 地域内での経済循環の活性化と市内製造事業者の販売の促進を目指し、大規模小売店7事業者34店舗が任意の期間、専用売場を設けてメイドインくらしき登録商品を販売した。 (III) コロナ交付金がなくなったため、事業を縮小して継続する。	633
★ 高梁川流域創業サポートセンター広域連携事業	(I) 高梁川流域圏域の創業者支援を行う。 (II) くらしき創業サポートセンターの窓口では、令和5年度中に延べ1,486人の創業相談を実施するとともに、「起業塾」を2期開催し、60人が受講した。くらしきベンチャーオフィスには、令和5年度末現在4人が入居している。 (III) 事業内容を見直しながら継続して実施する。	7,742
★ 創業者支援融資事業	(I) 市内新規創業者の自立企業としての成長と活発な事業活動を支援する。 (II) 低金利、保証料補給付き融資により、新規創業を支援する。令和5年度は創業サポート特別資金について49件、139,750千円、創業等支援資金について105件、392,450千円の融資利用があった。 (III) 創業者の経営安定化のため今後も継続する。	4,469
★ 先端技術を活用した実証実験サポート事業	(I) 時代の流れに対応した新ビジネスの創出や起業を促進する。 (II) 市内から1件の実証実験を誘致した。 (III) 事業内容を見直し、継続して実施する。	0
★ データで紡ぐ高梁川流域連携事業	(I) データ活用を通じた地域課題の解決および経済活性化 (II) オープンデータの更新・追加及びビジュアルライズコンテンツの追加 (データセット新規2件・更新328件、自治体標準オープンデータセット整備支援41件)。 (III) 防災オープンデータの整備・公開の支援やSDGsオープンデータの推進等、継続して取組を実施する。	10,561

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-7 将来にわたり持続可能な魅力ある農業や漁業が営まれている

### 市の施策

活力ある農業や漁業を守り、豊かな資源を次世代に継承する

### 基本方針

- ★ 農業が魅力とやりがいのあるものとなるよう、生産基盤の拡充を図り、担い手の確保・育成に努めて、効率的かつ安定的な農業経営の育成を図ります。
- ★ 農地を維持しつつ地域農業の持続的発展を図るため、農地の集積・集約化を進めます。
- ★ 水田の効率的活用や高収益作物への転換を図るとともに、6次産業化への支援などにより、農業所得向上につなげます。
- ★ 農産物の供給力を強化するとともに品質を均等に高める取り組みを進め、市特産の農産物のブランド力の維持・強化を図ります。
- ★ 消費者が地元農林水産物を消費できる機会を増やし、地産地消に対する市民の理解を深めて、消費拡大を図ります。
- ★ つくり育てる漁業を推進し、水産資源の維持・増大に努めるとともに、新規就業者の確保と漁業施設の近代化を図り、漁獲物の商品価値向上と漁業経営の安定化をめざします。

### 数値目標

まちづくり指標	新規就農者数	
算出方法	毎年の新規就農者調べ（県依頼）による	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 就農相談会における就農希望者と産地のマッチングや新規就農者向け支援制度の効果的な情報提供を実施できたため。 (II) 関係機関との連携により新規就農者向け支援に継続して取り組む。	

まちづくり指標	担い手の農地利用集積率	
算出方法	担い手の農地利用集積状況調査（農林水産省）に基づく認定農業者等担い手への農地利用集積率	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 地域計画の取組や農地利用最適化推進委員の最適化活動により、担い手への農地集積が進んだと考えられる。 (II) 引き続き、認定農業者等担い手への農地の集積に取り組む。	



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
水路新設改良事業	(I) 倉敷市内の水路改良を行い、農業基盤整備を推進する。 (II) 東六間川など49地区の水路整備等を実施した。 (III) 継続して実施する。	687,387
★ 新規就農サポート事業	(I) 意欲ある新規就農者の確保と育成 経営開始した青年農業者に対し、国の給付金制度を活用して支援し、多くの中心的農業者の育成を図った。農業次世代人材投資資金事業26件、経営開始資金10件 (II) 国の中心的農業者の育成を図った。農業次世代人材投資資金事業26件、経営開始資金10件 (III) 国や県の補助制度を活用し、継続して実施する。	72,320
★ 農地耕作条件改善事業	(I) 耕作条件向上による担い手への農地集積・集約化の推進 (II) 要望の取下げにより令和5年度は実績なし。 (III) 国の制度を活用し、継続して実施する。	0
★ 地産地消推進事業	(I) 地産地消の更なる推進と、地域農業の維持・拡大 (II) 関係機関と連携し、イベントを通して市内農産物のPRを実施した(スイートピーJR倉敷駅展示、いちご共進会など)。 (III) 関係機関と連携し、継続して実施する。	310
「米粉の力」普及・啓発応援事業	(I) 小麦粉の代替として、市内で生産される米の消費拡大を図る。 (II) 米粉製粉機の設置・運用により家庭での米粉利用を促すとともに、米粉商品即売会やスタンプラリーの実施により米粉商品に触れる機会を創出することで、米粉の普及啓発を行った。 (III) 米粉のさらなる普及のための事業やイベントを継続して実施していく。	9,832
★ 産地供給力・競争力強化支援事業	(I) 産地の主体的な生産・供給体制の整備支援による供給力・競争力強化 (II) 国の環境保全型農業や産地生産基盤パワーアップ事業、県の園芸総合対策事業等を活用し、23件の補助金を交付し、産地振興を図った。 (III) 国や県の補助制度を活用し、継続して実施する。	71,514
★ ぼっけーうめえ農林水産品事業	(I) 地産地消の更なる推進と、地域農業の維持・拡大 (II) 広く高梁川流域圏域の魅力を発信するため、公式Instagramの運営、レシピコンテスト、圏域の農林水産物を具にしたおにぎりの販売等を行った。農業・漁業体験を実施し、域内の農林水産物の理解を深めるきっかけづくりを行った。 (III) 関係市町・機関と連携し、継続して実施する。	7,714
多面的機能支払交付金事業	(I) 自然環境の保全や農地・農業用施設等がもつ多面的な機能を維持する。 (II) 倉敷地域資源保全会(21団体で構成)が農地維持、長寿命化、共同活動を実施した。 (III) 継続して実施する。	51,086
農業用水管理の省力化・高度化計画策定事業	(I) 農業用水管理の省力化・高度化を図る。 (II) 用水路や樋門等の農業水利施設へ監視カメラや水位計等を整備し、農業用水管理の省力化・高度化を図るための検討や計画策定を行った。 (III) 次年度から施設整備を実施する。	26,500
★ 地域担い手育成総合支援事業	(I) 地域農業の担い手となるべき農業経営者の確保・育成 倉敷市地域農業担い手育成総合支援協議会を通じて補助事業を実施した。 (II) 学童農業体験事業(市内の16小学校)、農産物PR事業(JA晴れの国岡山の各アグリセンター3件) (III) 関係機関と連携し、継続して実施する。	1,442
★ 農業担い手育成支援事業	(I) 農業経営力強化に取り組む担い手の育成 (II) 農業用使用済廃プラスチック処理費補助金を交付した。倉敷市農業後継者クラブなど地域農業の次代の担い手となる団体を支援した。 (III) 関係機関と連携し、継続して実施する。	719
農作物等鳥獣害防止対策事業	(I) 鳥獣による農作物への被害の防止・軽減 (II) 市有害鳥獣駆除班協議会に委託しイノシシ1,356頭などを捕獲。またパンフレット配布等により被害防止対策への意識向上に努めた。農作物を守る防護柵について農地5.3haへの設置を助成した。 (III) より効果的な駆除・防除対策を検討しながら、継続して実施する。	30,604
耕作放棄地対策事業	(I) 農業生産における基礎的な資源である農地の確保 (II) 耕作放棄地対策事業実施者(10件)からの申請に基づき補助金を交付した。 (III) 県の制度を注視しつつ、継続して実施する。	813

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 人・農地問題解決加速化支援事業	(Ⅰ) 持続可能な地域農業を実現するため地域の合意形成の推進 (Ⅱ) 地域計画(人・農地プラン)の策定に向けた話し合いを8地域で開催した。 (Ⅲ) 地域計画(人・農地プラン)の策定に向けた話し合いを通じて、地域の合意形成の推進を継続して実施する。	2,536
★ 農業経営基盤強化促進事業	(Ⅰ) 地域の農業者に対する支援による効率的な農地利用の促進 (Ⅱ) 集積した152,412㎡の農地を担い手に貸し付けた。また、営農が困難な農家から、187,140㎡の農地について、農作業の受託を受けた。 (Ⅲ) 倉敷市船穂農業公社を通じて、継続して実施する。	53,084
市民農園事業	(Ⅰ) 農業と食の重要性に対する理解度の向上や地域交流の場の提供 (Ⅱ) 令和6年3月31日現在での区画稼働率は95.72%(582/608)、農園内では野菜等を親子で協力して栽培したり、利用者同士での情報交換等のふれあいや交流が行われている。 (Ⅲ) 市民の利用要望は多いことから、当面は市直営で事業を継続予定だが、将来的な民間運営への移譲も検討していく。	4,020
★ 赤ワイン用新ブドウ品種開発事業	(Ⅰ) ふなおワイナリーの生産性と売上の向上 (Ⅱ) 今まで育成した系統の中でワイン用ブドウとして有望な新品種候補を選抜し、新梢や成葉、果実の形態などを調べた。また、新品種候補系統で試験醸造を行い、品種登録する1系統を選定した。 (Ⅲ) 品種登録する系統を増殖しつつ、育成条件の検討を行う。また、品種登録の出願を行う。	3,000
★ 漁業経営近代化施設整備事業	(Ⅰ) 漁業者の作業効率や漁獲物の商品価値の向上 (Ⅱ) 漁業協同組合等が共同利用施設を整備する経費(5件)に対し補助金を交付した。 (Ⅲ) 県の補助制度を活用し、継続して実施する。	4,115
★ 稚魚等放流・栽培漁業振興事業	(Ⅰ) 漁獲量を増加させ、漁業経営の安定化を図る。 (Ⅱ) メバルやキジハタなどの稚魚を放流するとともに、漁業協同組合等が行う種苗の育成、放流事業を支援した。 (Ⅲ) 漁業資源回復を目指し、継続して実施する。	5,507

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 文化・産業<紡>

### めざすまちの姿

2-8 倉敷の魅力を国内外にPRし、たくさんの人が訪れるようになっている

### 市の施策

倉敷の魅力を発信し、受入環境を整備して交流人口の増大を図る

### 基本方針

- ★ 多様な情報媒体を効果的に活用し、市の魅力を国内外へ積極的に情報発信します。
- ★ 二次交通の充実など、周遊性を高める観光インフラの整備を推進します。
- ★ 多様化する観光客のニーズや特性を捉え、市全域にひろがる日本遺産の物語も活用し、様々な観点からの観光資源の創出や観光イベントの魅力向上を図り、観光客数と観光消費額の増加をめざします。
- ★ 高梁川流域圏の観光力の強化を図るとともに、新たな地域との連携など更なる広域連携の推進により、周遊性を高めます。
- ★ コンベンション、文化芸術、スポーツなどのイベントを活用した誘客や、オンラインなども含めた国内外の旅行博や商談会への出展等による誘致活動の強化を図ります。また、新型コロナウイルス感染症の流行下においては県内・近県へのプロモーションを強化するとともに、収束後の外国人観光客の誘客に向け、東アジアやヨーロッパ圏などの現地での情報発信を強化します。
- ★ 観光客のニーズや特性を踏まえ、災害時の安全確保や多言語対応、新しい生活様式への対応など、外国人を含めた観光客の受入体制の充実を図ります。
- ★ 活力あふれ、持続可能なまちづくりを実現するため、移住定住を促進します。

### 数値目標

まちづくり指標	市内主要観光地の観光客数	
算出方法	岡山県観光客動態調査での市内主要観光地の入り込み数（暦年）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルスが5類に移行し、観光需要が回復してきたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) 国内外への情報発信、インバウンド誘客に向けた施策に取り組んでいく。	

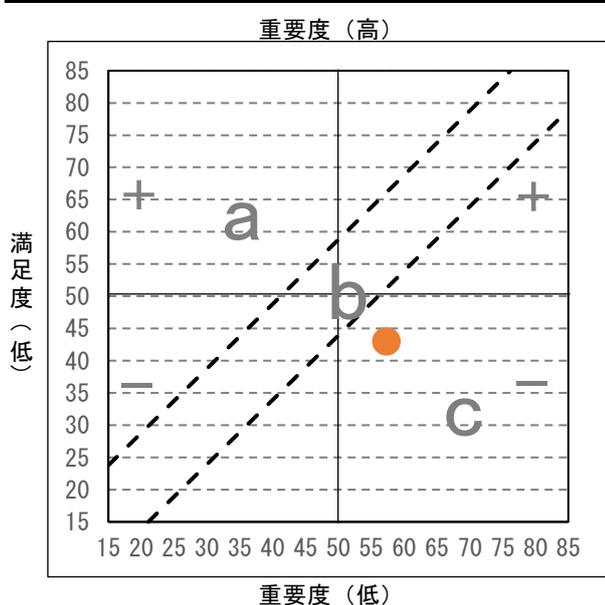
まちづくり指標	市内宿泊客数	
算出方法	倉敷観光コンベンションビューロー加盟宿泊施設からの報告数（暦年）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルスが5類に移行し、観光需要が回復してきたため。	
(II) 今後の取組方針	(II) コンベンション誘致活動の強化、インバウンド誘客に向けた施策に取り組んでいく。	

まちづくり指標	シティセールス・観光・日本遺産関連ウェブサイトへの訪問回数（セッション数）と、シティセールス・観光関連フェイスブックの投稿が届いた人数（リーチ数）の合計	
算出方法	シティセールスサイト「クラシキ文華」・倉敷観光WEB・市日本遺産サイトへのユーザーの年間訪問回数（年間セッション数）と、市公式フェイスブック・倉敷観光情報フェイスブックの投稿が届いた年間ユーザー人数（年間リーチ数）の合計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 依然としてイベント開催等がコロナ流行前の水準に回復していないことから、各サイトへの投稿にも影響している。 (II) 引き続きウェブコンテンツを充実させるとともに、効果的な情報発信を行い、各サイトへの誘導を行う。	

まちづくり指標	シティセールスに関するタグづけをされている投稿回数	
算出方法	市公式インスタグラムにおける、シティセールスに関するタグづけ（#クラシキブンカなど）をされている投稿回数の累計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 要件を満たす秀逸な投稿を積極的にリポストすることにより、フォロワー獲得とともに間接的な拡散が図れた。 (II) 今後もリポスト運用を継続するとともに、本市への観光誘客や移住等を促進するための魅力発信に積極的に努める。	

まちづくり指標	移住促進施策を通じた移住世帯数	
算出方法	お試し住宅利用者のうち、利用後のアンケートなどで移住が確認できた世帯数、就労支援利用者で就労が決定した世帯数等の合計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) WEBサイトやSNSでの情報発信等に加え、移住体験ツアー等の実施により、認知度向上を図ることができた。お試し住宅の稼働状況も堅調に推移しており目標を上回る値となった。 (II) 暮らしの魅力を中心に積極的に情報発信を継続する。また、全国的に高まる移住への関心を本市へ向けられるよう地域団体等と連携を図り効果的な施策を行う。	

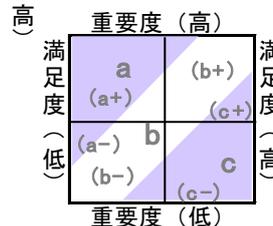
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	42.98	57.33

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
 <グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
★ マスメディアによる 広報事業	(I) 市外を含めた広域を対象に、市政情報・観光情報を広報する。 (II) 新聞は市政広告を85段掲載。テレビは地元5局で番組を制作・放送するとともに一部をYouTubeで配信し、CATV2局では市政情報の24時間放送を実施。FMは市長や各課からのお知らせの他、60秒広告を600回放送。 (III) 市域によらず広く周知できる媒体であり、市の個性と魅力を視覚的に訴えることができるため、制作コンテンツの活用拡大も含めて、継続して実施する。	32,981
★ シティセールス推進 事業	(I) 都市イメージを向上させ、市と交流する人や倉敷ファンを増やす。 (II) 市の個性と魅力をPRするウェブサイトを運営するとともに、サイト上に掲載する特集記事を6本制作・公開。併せて、全国のメディアを対象としたプレスリリース配信サービスを活用し、特集記事のPRを図った。 (III) 同ウェブサイトは注目度も高く反響も良好であることから、Instagram等のSNSを併用した市の個性と魅力の発信を、継続して実施する。	2,110
★ ふるさと納税推進事 業	(I) ふるさと納税を通じて、倉敷の魅力を広く発信する。 (II) 令和5年5月より開始した広告戦略により、ポータルサイトにおける返礼品の露出を強化することで、寄附額の増加を図った。その結果、当初予算見込額を上回る7億3千2百万円を超える寄附を頂いた。 (III) 「ふるさと納税推進検討会」での返礼品開発及び運営代行業者等との連携により、新規協賛事業者の獲得と返礼品の充実を図り、リピーターを含む寄附者の増加に繋げることで、寄附金額の増加、地場産業の活性化及び本市の魅力発信等、事業の拡充に努める。	360,477
★ ビジット・くらし き・キャンペーン事 業	(I) 海外への情報発信を通じて誘客を図る。 (II) タイや韓国での現地PRや欧米圏を対象としたデジタルプロモーション等を実施し、外国人観光客の誘致を図った。 (III) ターゲットを絞った情報発信を今後も継続実施する。	10,510
★ マスメディア等によ るPR事業	(I) マスメディアを活用し、国内外からの多数の観光客誘致を図る。 (II) イベントから倉敷美観地区の日本夜景遺産登録などの最新情報まで幅広く掲載した。 (III) 大阪・関西万博を見据えて、関東・関西在住者へ向けてのプロモーションを継続実施する。	5,946
★ 観光アプリ運用事業	(I) 観光客の利便性の向上と宿泊を含む滞在時間の増加につなげる。 (II) 市観光公式アプリ「倉敷ファンクラブ」を導入して、クーポン情報、最新のイベント情報、混雑情報等を情報提供した。 (III) 観光アプリ制作については令和5年度で完了。保守については今後も継続し、観光アプリを活用した事業を展開していく。	40,772
★ くらしき「個性と魅 力」発信事業	(I) 大都市圏において地域資源の魅力のPRを行うとともに観光客誘致を図る。 (II) 令和5年度中に店舗の内装設計・施工を実施(令和6年3月末に竣工)。倉敷市のアンテナショップの店舗名を「クラシキ」と決定し、令和6年2月に記者発表を行うとともに、メディア等にPRした。 (III) 令和9年3月31日までの契約期間のため継続して実施する。	18,043
★ 観光客誘致事業(政 策事業)	(I) 観光客数を増加させ、町の賑わい創出や、地域経済の活性化を図る。 (II) 周遊型観光キャンペーン(165,000人)や有名建築物を巡る周遊イベント(5,278人)を開催。また、オンライン参加のニコニコバスツアー(視聴者数120,000人)や、大学と連携したワークショップや展示(4,718人)を行った。 (III) 実施事業の見直しを行い、効果性の高いものについて「アートのまち倉敷」事業として継続実施する。	12,560
★ 日本遺産推進事業	(I) 日本遺産をコンテンツとした観光資源を創出し観光客数の増加をめざす。 (II) 「日本遺産マーケット」を、商工課主催の「かわのわマーケット」と同時開催し、高梁川流域の日本遺産認定団体、北前船日本遺産推進協議会の中国四国ブロック団体と合同でPRイベントを実施した。 (III) 今後も、高梁川流域圏における日本遺産認定自治体との連携を模索しながら、継続して実施する。	3,000
★ 観光イベント事業	(I) イベントを通じた観光客の誘致と、地元の魅力を発信する。 (II) 4年ぶりに開催した倉敷天領夏祭りや児島フェス#せんいさい、玉島まつり、ハートランド倉敷、倉敷シティロゲイニング、サンセットフェスタ in こじま、水島港まつり、倉敷春宵あかり等地域の魅力を発信するイベントを実施した。 (III) 市内外からの集客を図り、地域の魅力発信につなげるため、事業内容の見直しを行いながら各種イベントを継続的に実施する。	85,933

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 高梁川流域観光誘客事業	(Ⅰ) 高梁川流域への観光誘客と、圏域内周遊を促進する。 (Ⅱ) 高梁川流域圏を周遊する旅行商品を造成した旅行会社に助成するとともに、旅行博「ツーリズムEXPO2023」に出展しPRを実施。インバウンド需要回復に伴い台湾のインフルエンサーを招聘したPRを実施。 (Ⅲ) 旅行商品造成について成果も上がっていることやインバウンド需要を取り込むためにも継続して実施していきたい。	6,400
★ 高梁川流域地域間観光連携事業	(Ⅰ) 高梁川流域がもつ様々な魅力を地域間連携により発信し、誘客につなげる。 (Ⅱ) 金田一事業はコスプレイベントやスタンプラリー、山田方谷事業は、スタンプラリー等を実施。食とサイクリングを組み合わせ、あんこのスタンプラリーやサイクリストツアーを実施。また、水島臨海鉄道を活用した夜景ツアーを開催。 (Ⅲ) 圏域の観光地・自然・食・ゆかりの人物などに焦点を当て、テーマ別に観光振興施策を継続して実施する。	12,300
★ 高梁川流域誘客環境整備事業	(Ⅰ) 観光客の利便性を向上させ、観光満足度と再来訪意欲を高める。 (Ⅱ) Wi-Fi整備事業は倉敷・児島・玉島の各地区で提供している「倉敷FreeWi-Fi」サービスを適切に運用するため、設備の維持管理を実施。交流人口状況調査事業は高梁川流域圏を訪れる旅行者の実際の滞在時間や動線等のデータを把握するため、交流人口状況調査を実施した。 (Ⅲ) 観光客の利便性及び満足度向上のため、設備の維持管理、情報発信等を継続して実施する。	16,700
★ 他連携中枢都市圏との観光連携事業	(Ⅰ) 近隣圏域と相互に観光誘客を図り、観光交流人口を拡大させる。 (Ⅱ) 高梁川流域圏と備後圏域にまたがる井原鉄道を活用した「地酒・ワイン観光列車」のツアーを計2本実施して、観光コンテンツ造成につなげた。 (Ⅲ) 他の協議会の事業とも内容が重なることも多く、福山市とも協議して令和6年度又は7年度で廃止を検討中。	1,500
★ 「倉敷観光プレミアムクーポン」旅行商品造成支援事業	(Ⅰ) 倉敷市への旅行意欲と観光消費意欲を高める。 (Ⅱ) 市内の飲食店や土産物店等で使える20%のプレミアムが付いたクーポン券を旅行会社と観光客に販売して観光客誘致につなげた(販売枚数: 6,264枚)。 (Ⅲ) コロナ禍の事業継続支援策であったため、令和5年度で終了した。	1,565
★ 岡山DC等と連携した観光客誘致推進事業	(Ⅰ) 多様な主体と連携し、岡山DC( destinations キャンペーン)等を通じた観光誘客効果を最大化させる。 (Ⅱ) 体験コンテンツの開発や観光素材の発掘、新たな夜のイベントの開催、ANAと連携した情報発信などを行った。 (Ⅲ) 令和5年度で岡山DCアフターキャンペーンが終了したことに伴い事業終了。	15,000
★ 観光ウェブサイト情報発信事業	(Ⅰ) WEBやSNS等を活用した情報発信を通じて、観光誘客を図る。 (Ⅱ) 倉敷市観光公式サイト等の運営やSNS広告による情報発信等を実施することで、観光客誘致につなげた。 (Ⅲ) 旬な観光イベント等の発信を継続して実施する。	2,500
★ 観光コンベンションビューロー補助事業	(Ⅰ) 公益社団法人倉敷観光コンベンションビューローに補助を行う。 (Ⅱ) 観光案内マップ等印刷物の作成や観光案内所の管理運営に対する補助を行った。 (Ⅲ) 国内外から観光客やコンベンション誘致を行うため、情報発信事業や、観光案内所の管理等に対する補助を継続して行う。	107,881
★ コンベンション誘致・フィルムコンベンション事業	(Ⅰ) 地域経済の活性化、交流人口の増加、知名度向上を図る。 (Ⅱ) ロケ地の情報提供やロケハンへの同行等、映画・テレビ制作会社への支援を行うことで、計35作品の誘致・支援を実施。 (Ⅲ) PR効果も高いため、今後も事業を継続して実施する。	18,667
★ 修学旅行誘致事業	(Ⅰ) 地域経済への波及効果と将来的な再訪を狙える「倉敷ファン」を生み出す。 (Ⅱ) 官民一体となって旅行会社や学校へのセールスを実施するとともに、「倉敷思い出作りの旅修学旅行助成金」事業により150校、13,620人を誘致した。 (Ⅲ) 国内における事業は継続しつつ、台湾においてもセールスを実施し、更なる修学旅行生を誘致する。	27,348
★ 移住交流推進事業	(Ⅰ) 活力あふれるまちづくりを実現するため移住定住を促進する。 (Ⅱ) 都市圏での相談会を14回実施。市内2か所に整備しているお試し住宅を171世帯が利用。ウェブサイトやSNS等で情報発信を行い、移住体験ツアー等も実施。また、地域おこし協力隊2名を採用し、本市の暮らしに関する情報発信を行った。各種補助事業を含め移住施策を利用した移住者は64世帯101人。 (Ⅲ) 移住者助成や情報発信等、継続して実施する。	66,089

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-1 自然環境が守られ、環境と経済・社会とのバランスが保たれている

### 市の施策

地域の環境と経済・社会が調和した、持続可能なまちづくりを推進する

### 基本方針

- ★ 自然とふれあえる場を整え、機会を提供するなど、自然とのふれあいを促進するとともに、多くの市民が身近なところで、環境学習や環境活動の場や機会が得られるよう充実を図ります。
  - ・ 自然保護への意識啓発を推進するとともに、地域固有の生態系の確保、野生動植物の種の保存など生物多様性の確保を図ります。
- ★ まちの緑化を推進し、潤いと安らぎのある生活空間の充実を図ります。
- ★ 環境をよくすることが経済・社会を発展させ、地域が活性化することによって環境もよくなるといった環境と経済・社会の好循環の創出に努めます。

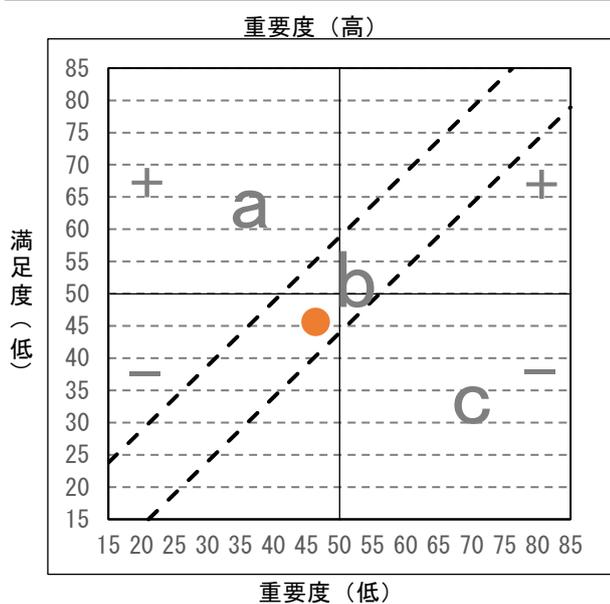
### 数値目標

まちづくり指標	環境学習満足度	
算出方法	体験型講座、出前講座、施設見学の3区分の環境学習アンケートで、『楽しかった』『まあ楽しかった』または『わかりやすい』『まあわかりやすい』など、5項目のうち上位2項目を回答した人の割合を各区分で算出し、平均した値。 ※1区分の満足度は、実施した講座（見学）ごとに満足度を算出し、それらを平均した値	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 出前講座を中心とした講座内容改善の効果が考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 継続して実施する。	

まちづくり指標	身近なところで、生き物（動物、昆虫や植物など）にふれあえる場や機会（イベントを含む）があると考える人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「お住まいの地域（地区）で、生き物（動物、昆虫や植物など）にふれあえる場や機会（イベントを含む）があると思いますか」（※生き物は、ペットや庭木など、家庭内で飼育、植樹・栽培しているものを除く）という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) イベント参加者数などは増加しているため、イベント等の機会を知ることのできる情報が広く届いてないと思われる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 公式アプリや地元メディアの出演などのほか、親子連れをターゲットに関係団体に働きかけるなど、市民への情報発信を工夫し、生き物にふれあえる機会を広報する。	

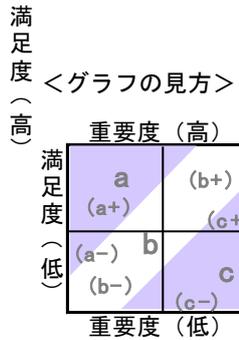
まちづくり指標	身近な地域の緑の量が多いと感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査で「あなたがお住いの身近な地域の緑の量についてどのように感じていますか」の設問に対して、『非常に多い』『多い』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 緑に触れ合う機会の減少や、総量としての緑地の面積は増加しているが、緑の量の増加を実感させるまでには至っていないといった要因が考えられる。 (II) 魅力的な緑化イベントを実施する。公共施設の緑化や民有地緑化補助金を活用した民有地の緑化を推進する。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	45.59	46.44

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)



<グラフの見方>

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
身近な自然と水辺の 保全事業	(I) 身近な自然と水辺の保全 (II) 種松山野草保護移植地の管理及び自然保護監視員の連絡会議・研修、環境配慮型公共事業研修及び探鳥コース維持管理を実施した。 (III) 野草園、探鳥コース等の維持管理や、自然保護監視員の研修を継続する。	746
★ 生物多様性エコツ アー支援事業	(I) 生物多様性の保全を実践する担い手・リーダーの育成 (II) 生物多様性エコツアーを総社市で実施し、流域圏域における担い手・リーダーの育成を図った。また、流域において住民参加型生き物調査を実施した。 (III) 高梁川流域圏域でエコツアーを行い、流域圏内で活動する人材育成を図る。	796
くらしき環境フェア 実施事業	(I) 市民への環境意識啓発 (II) 「リサイクルフェアinくらしき」と「くらしき環境フェスティバル」を統合・リニューアルして、9月17日(日)水島緑地福田公園で実施し、参加者は約5,000人であった。 (III) 継続して実施する。	8,458
希少野生生物の生 息・生育環境の保全 事業	(I) 希少野生生物の生息・生育環境の保全 (II) 公共事業、民間開発におけるスイゲンゼニタナゴ、カワバタモロコ、ナゴヤダルマガエル等希少野生生物の保護対策、ミズアオイ自生地の保護管理を実施した。 (III) 希少野生生物の生息状況の把握に努め、必要に応じて保護を実施する。	588
★ 花と緑あふれるまち づくり事業	(I) 市民による緑化活動の推進 (II) 緑化推進員や花の銀行、地区花いっぱい団体等を通して、地域の道路緑化(フラワーロード)やもてなし花壇の植栽等の市民の緑地活動を支援した。 (III) 継続して実施する。	28,848
★ 緑化推進事業	(I) 市民の緑化意識の向上 (II) くらしき都市緑化フェア等のイベントを開催した。また記念樹の配布や緑のリサイクルを実施した。更に小・中学生を対象とした緑化ポスターコンクールを実施し、優秀作品を表彰した。 (III) 継続して実施する。	3,935
★ ふれあい収集事業	(I) ごみ出しの支援、環境・社会の相乗効果を狙う。 (II) 制度の対象となる一般家庭で、自らごみステーションに持ち出すことが困難な世帯の戸別収集及び希望者の安否確認を実地した(令和5年度末現在118世帯が対象)。 (III) 継続して実施する。	2,720
★ 環境意識啓発事業	(I) 環境意識啓発、環境・経済・社会の好循環の創出 (II) 閲覧、読み聞かせ、貸出用として、高梁川流域の自治体や幼児教育課程のある大学に絵本を提供した。 (III) 令和5年度で終了した。	-
高梁川流域 瀬戸内 ★ 海ブルー・オーシャ ン事業	(I) 海ごみの発生抑制等 (II) 高梁川流域の市町で環境イベントへの参加、パネル展示で啓発活動を5回行った。 (III) 引き続き、高梁川流域市町で、学習プログラムの実施、イベント参加等の啓発活動を実施する。	46
★ 環境学習推進事業	(I) 市民への環境学習の推進 (II) 環境NPO・企業等と連携・協力し、座学形式・体験形式など各種講座を64講座実施し、2,488人の参加があった。 (III) 継続して実施する。	4,270
環境学習センター運 営事業	(I) 環境学習の拠点運営 (II) 環境関連図書・環境学習用機材の貸出、会議室の貸出等、環境学習センターを本市の環境学習の拠点施設として運営し、施設利用者は3,676人であった。 (III) 継続して実施する。	12,563

## 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



### 生活環境・防災・都市基盤<繋>

#### めざすまちの姿

3-2 水と空気と大地がきれいで、環境負荷の少ないまちがつけられている

#### 市の施策

安心と安らぎがあり、環境負荷の少ない美しく快適な生活環境の確保を図る

#### 基本方針

- ・ 大気環境、水環境などの状況を的確に把握し、市民へのわかりやすい情報提供や生活排水対策の啓発を行うとともに、排出事業者等への指導を強化することにより汚染物質の排出を抑制します。
- ・ 下水道、合併処理浄化槽などの汚水処理施設の整備や既存施設の維持管理などを適切に行い、公共用水域における良好な水環境を継続的に実現します。
- ・ 全市一斉ごみ0（ゼロ）キャンペーンなど、市民や市民公益活動団体、事業者による自主的な地域の環境美化活動を支援します。
- ・ 不法投棄監視員による巡回・監視活動を強化し、未然防止や早期発見により不法投棄のないきれいなまちをめざします。

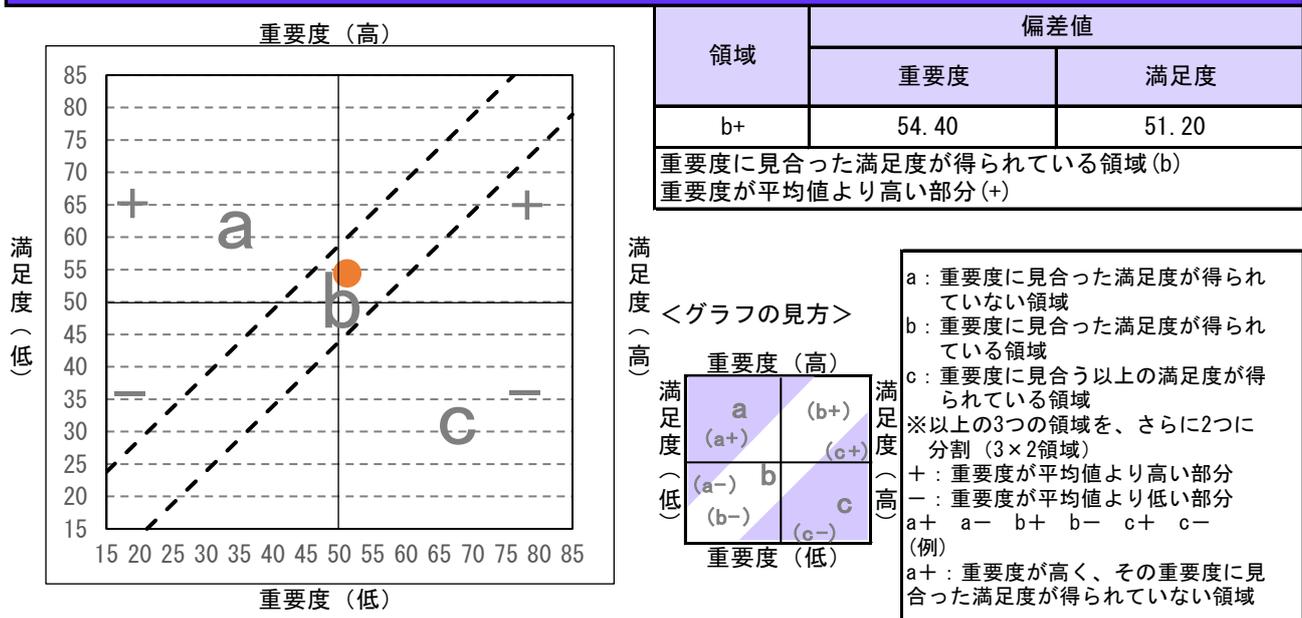
#### 数値目標

まちづくり指標	大気環境基準達成率	
算出方法	基準値達成局数／有効測定局数（二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、二酸化窒素、微小粒子状物質、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、ダイオキシン類）×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 大陸の大気環境が改善傾向にあることから、越境するPM2.5が減少したと推測される。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き大気環境を的確に把握し、市民にわかりやすい情報提供を行う。	

まちづくり指標	汚水処理人口普及率	
算出方法	(公共下水道処理区域内人口＋農業集落排水処理区域内人口＋浄化槽汚水処理人口)／住民基本台帳人口×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 合併処理浄化槽設置基数は微増しているが、世帯当り人口の減少の方が上回っているため、浄化槽汚水処理人口が減少した。	
(II) 今後の取組方針	(II) 下水道、浄化槽共に継続実施する。	

まちづくり指標	清掃活動に参加している人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「清掃活動に参加していますか」という設問に対して、『積極的に行っている』『義務的に行っている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性		
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の流行を受け一時、各種清掃活動が中止・規模縮小し、依然としてその影響があると考えられる。 (II) 引き続き、関係協力団体と連携し、参加を呼びかけるなどの活動によって参加意思のある人々の掘り起こしを図る。	

### 市民の重要度・満足度



### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
大気調査事業	(I) 大気環境の監視、市民へのわかりやすい情報提供 市内23地点の測定局で常時監視を行い、情報提供を実施した。7地点で有害大気汚染物質調査を実施した。光化学オキシダントを除く大気汚染物質と有害大気汚染物質は、環境基準を達成した。 (III) 今後も大気汚染物質の常時監視及び有害大気汚染物質の調査を実施し、大気の汚染状況を把握する。	88,832
水質調査事業	(I) 水環境の監視、市民へのわかりやすい情報提供 (II) 河川(18地点)、海域(21地点)の公共用水域の水質監視を実施し、環境基準適合率は、河川で98.8%、海域で91.1%であった。 (III) 今後も工場等の排水の測定及び公共用水域等の水質監視を実施し、水質の汚濁状況を把握する。	16,839
大気汚染対策事業	(I) 大気汚染の発生抑制 工場及び事業場に対し、ばい煙発生施設の届出状況等の確認のため、延べ89事業場に立入調査を実施した。このうち、排出ガス等の測定を延べ21事業場で実施し、全ての施設で排出基準を満足していることを確認した。 (III) 今後も継続して工場及び事業場に対して立入調査を実施し、大気汚染物質の排出状況を把握する。	5,464

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
ダイオキシン類対策事業	(Ⅰ) ダイオキシン類対策 (Ⅱ) 大気1地点、公共用水域等26地点で環境調査を実施し、地下水の1地点を除き、環境基準を満足していることを確認した。発生源に対して立入測定を実施し、7検体全てにおいて排出基準を満足していることを確認した。 (Ⅲ) 今後も継続して環境調査及び発生源に対する立入調査を実施し、ダイオキシン類の実態を把握する。	9,159
水質汚濁防止対策事業	(Ⅰ) 水質汚濁の防止 (Ⅱ) 工場や事業場に立入し、115事業場、366検体について排水の調査を実施した。また、児島湖流域清掃大作戦や環境保全推進員制度等により、水環境保全の啓発活動を推進した。 (Ⅲ) 今後も継続して工場及び事業場への立ち入り調査を実施するとともに、生活排水対策の実施を推進することにより公共用水域の汚濁防止を図る。	4,075
騒音・振動・悪臭対策事業	(Ⅰ) 騒音・振動・悪臭対策 (Ⅱ) 8地点で実施した自動車騒音測定結果を基に面的評価を実施した。生活環境及び発生源の騒音振動悪臭を測定するとともに、市民からの相談に対して、発生源への調査指導を行った。 (Ⅲ) 今後も継続して調査を実施し、生活環境及び発生源の騒音振動悪臭の状況を把握する。	5,326
合併処理浄化槽設置費助成事業	(Ⅰ) 公共用水域の水質汚濁の防止、生活環境・公衆衛生の向上 (Ⅱ) 合併処理浄化槽281基の設置に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 今後も公共下水道未整備区域において合併処理浄化槽設置に対して補助金を交付し、浄化槽設置を推進する。	115,679
下水道事業	(Ⅰ) 公共用水域の水質汚濁の防止、生活環境・公衆衛生の向上 (Ⅱ) 面積25haを対象に下水道管整備を行い、下水道人口普及率は、82.0%（令和4年度末）から82.1%（令和5年度末）へ0.1%アップした。 (Ⅲ) 今後も引き続き下水道未普及地区の整備を継続して実施する。	8,015,755
地域社会ボランティア「アダプト・プログラム」事業	(Ⅰ) ボランティア活動を通じて公共施設への愛着を深め協働の機運を高める。 (Ⅱ) 道路、水路、公園などの公共施設の清掃美化活動を年4回以上行うボランティア団体に対し、ほうき・ごみ袋などの消耗品の支給やボランティア活動保険加入などで活動を支援した（令和5年度末時点で65団体1,570人の登録）。 (Ⅲ) ボランティア活動の促進と協働の機運を高めるため、継続して実施する。	1,138
環境美化啓発事業	(Ⅰ) 環境美化の促進 (Ⅱ) 市内全域から倉敷市地域美化推進員181人を選任している。犬のふん放置対策「イエローカード作戦」を市内10団体が実施した。また、9月の第1日曜日を「清掃祭日」として、「全市一斉ごみ0キャンペーン」を行った。 (Ⅲ) きれいで快適なまちづくりを推進するため、市民や地域の団体と連携し、様々な環境美化推進を継続して実施する。	4,615
用排水路の清掃委託事業	(Ⅰ) 農業用水路が適正に維持管理されるため、地域の清掃活動を支援する。 (Ⅱ) 市内全域において、地元管理組合等が水路清掃活動を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	115,871
不法投棄対策事業	(Ⅰ) 不法投棄物の情報収集、回収及び防止対策 (Ⅱ) 市内一円の不法投棄要注意箇所に重点を置き、監視パトロールを実施し、年間24,253kgの投棄物を回収した。また、不法投棄の未然防止を図るため、移動式監視カメラを不法投棄多発箇所へ設置している。 (Ⅲ) 不法投棄の総合窓口として、情報の収集、防止のための啓発等を関係部署と連携を図りながら不法投棄対策を継続して実施する。	1,975
不法投棄監視事業（不法投棄防止対策事業）	(Ⅰ) 不法投棄の早期発見、未然防止 (Ⅱ) ヘリコプターによる上空監視を市内全域で年間4回、休日夜間監視パトロールを年間167回（平日夜間49回、休日昼間100回、指定日18回）実施。 (Ⅲ) 今後も継続して、上空監視や監視パトロールにより不法投棄の未然防止を図る。	16,789
リフレッシュ瀬戸内事業	(Ⅰ) 美しい瀬戸内海を守るため、地域環境美化意識の向上を図る。 (Ⅱ) 6月25日（日）に沙美海岸（東浜・西浜）の清掃活動実施。地元小・中・高校生や地域の方、企業や学校のボランティアグループ総勢約500人が参加。回収したごみの量は、計540kg（燃やせるごみ520kg、資源ごみ20kg）。 (Ⅲ) 海の環境保全啓発に寄与するため継続実施する。	144

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-3 リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（ごみの再生利用）が徹底され、環境に配慮した循環型社会が形成されている

### 市の施策

資源を有効に活用し、環境に配慮した循環型社会の実現を図る

### 基本方針

- ・ 環境教育を推進するとともに、市民・事業者・行政のそれぞれが相互に連携・協働してその役割を果たしながら、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に徹底して取り組み、なかでもリデュース、リユースを優先し、環境に配慮した循環型社会の形成をめざします。
- ・ 生ごみの水切りやごみの分別などの徹底を啓発することにより、家庭ごみの更なる減量化・資源化を進めます。
- ・ 事業者への指導強化などにより、事業活動で生じるごみの減量化・資源化及び適正処理を進めます。
- ・ 環境に配慮し、安全で安定したごみ処理施設の整備を推進します。

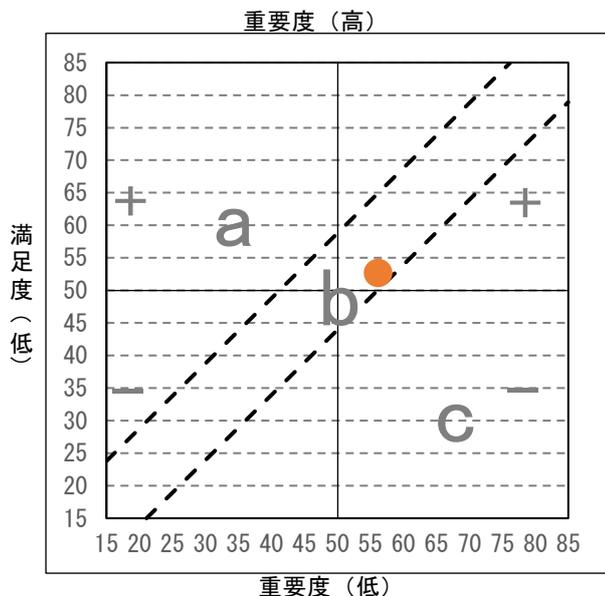
### 数値目標

まちづくり指標	1人1日当たりの家庭ごみ排出量	
算出方法	家庭ごみ総排出量（集団回収量と資源ごみを除く家庭ごみの総排出量）／年度末人口／年度内日数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 広報くらしきや各種チラシ等による周知啓発により、ごみ減量に向けた住民意識が醸成されたものとする。 (II) 引き続き、広報くらしきや各種チラシ、ホームページ等を活用してごみの減量化に向けた意識の醸成を図る。	

まちづくり指標	事業ごみ（一般廃棄物）年間排出量	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けた飲食店や商業施設等の経済活動が依然として完全に回復していないことによる影響と考えられる。 (II) 事業ごみ排出状況がどう変化していくのかということにも着目し、効果的な事業ごみ減量化の取組を進める。	

まちづくり指標	リサイクル率	
算出方法	$\frac{\text{総資源化量}}{\text{ごみ総処理量}} \times 100$ 総資源化量とは、資源ごみ量+使用済乾電池量+施設資源化量+集団回収量+小型家電回収量	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の流行を契機に協力団体の活動が停滞し、依然として感染症流行前の水準に戻っていないためと考えられる。 (II) 引き続き、様々な媒体を活用した広報やイベント等を通じて分別の徹底を推進し、リサイクル率向上に努める。	

## 市民の重要度・満足度

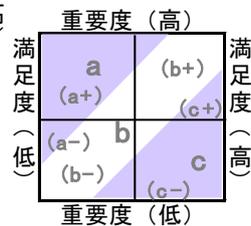


領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	52.67	56.19

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
ごみの適正処理・減量・リサイクル啓発事業	(I) ごみの減量、適正処理、リサイクルの啓発 (II) 暮らし環境フェア (約5,000人)、暮らしとごみ展 (ポスター146点・標語78点の応募) の開催や出前講座などによりごみ減量について、啓発を行った。 (III) 暮らし環境フェア及び暮らしとごみ展の継続開催、マイボトル協力店の拡大。	8,479
ペットボトル回収事業	(I) ペットボトルの回収、資源化 (II) スーパーなどに設置した市内92拠点回収量379t、ステーション回収量266tを資源化した。 (III) 拠点回収、ステーション回収を継続する。	80,350
ごみ減量化対策事業	(I) 家庭ごみの減量化・資源化 ごみ減量化協力団体905団体が報奨金制度を活用し、7,387tの資源ごみを回収した。また、193基の生ごみ処理容器等の購入費に対して補助金を交付した。 (II) 事業を継続し、引き続き資源回収の協力、ごみ減量を啓発する。 (III)	48,016
事業ごみ適正処理指導事業	(I) 事業ごみの適正処理の指導 清掃工場での搬入検査を年53回行い、また、一般廃棄物減量資源化計画書の提出があった218事業者の内、43事業者 (内、本部2事業者) に対して現地又は事業所での個別訪問指導を行い、適正処理の指導を行った。 (II) 事業者へ指導強化などにより、事業活動で生じるごみの減量化・資源化及び適正処理を進めていく。 (III)	-
倉敷西部クリーンセンター整備事業	(I) ごみ処理施設等の整備 (II) 機器承諾図書と施工図の確認を中心に、プラント及び建築工事の監理業務を行った。 (III) 継続してプラント及び建築工事の監理業務を行う。	9,868,480
玉島環境センター整備事業	(I) ごみ処理施設等の整備 (II) 建築、電気設備、機械設備の各工事において、仮設等準備工事に着手した。 (III) 継続して各工事を進める。	0
倉敷衛生センター等整備事業	(I) 汚泥再生処理センター等の整備 (II) 地階から地上階における建築工事及びプラント設備工事とその監理業務を行った。 (III) 継続して整備工事及び旧施設撤去工事とその監理業務を行う。	2,572,048

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざまちの姿

3-4 脱炭素社会の実現に向け、だれもが地球温暖化対策を推進している

### 市の施策

脱炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策を推進し、地域特性に応じた適応策を実施する

### 基本方針

- ・事業者の省エネルギー機器・設備や、太陽光発電システムをはじめとした再生可能エネルギーの導入などを促進します。
- ・暮らしの中での省エネルギーへの取り組みや、公共交通機関や徒歩・自転車によるエコ移動など、脱炭素型ライフスタイルへの転換を促進します。
- ・再生可能エネルギーや環境性能に優れた自動車などを行政が率先導入します。また、電力の地産地消を推進するため、ごみ処理施設等で自家発電した電力を他の公共施設で消費できる仕組みを構築します。
- ・気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策）について、市民・事業者などの理解を深めるため、情報提供や普及啓発を行います。また、本市の地域特性に応じた適応策を効果的に推進します。

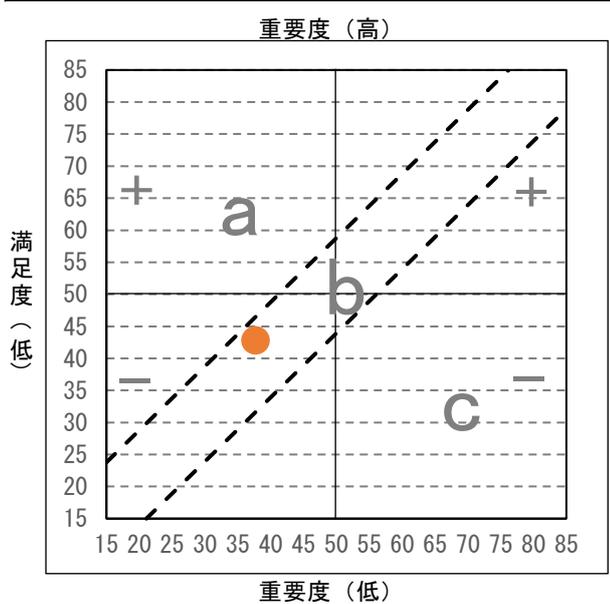
### 数値目標

まちづくり指標	市全体から排出される温室効果ガスの削減割合（平成25年度34,519千t-CO2比）																						
算出方法	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき毎年度公表する市全体からの温室効果ガス排出量で、（平成25（2013）年度の排出量-その年の排出量）／平成25（2013）年度の排出量×100 ※3年前の実績値となる																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>削減割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>5.0</td> <td>9.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>8.3</td> <td>11.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>8.3</td> <td>22.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>8.3</td> <td>22.8</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>8.3</td> <td>23.2</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>23.2</td> <td>23.2</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H29	5.0	9.7	H30	8.3	11.4	R1	8.3	22.8	R2	8.3	22.8	R4	8.3	23.2	R9	23.2	23.2
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
H29	5.0		9.7																				
H30	8.3	11.4																					
R1	8.3	22.8																					
R2	8.3	22.8																					
R4	8.3	23.2																					
R9	23.2	23.2																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ禍による需要減少を起因とした、鉄鋼業や化学工業など産業部門における排出量の減少が大きく寄与したと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 再生可能エネルギー設備や環境性能に優れた自動車の導入促進を進め、温室効果ガス排出量の削減に努める。																						

まちづくり指標	世帯当たりの年間温室効果ガス排出量																						
算出方法	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき毎年度公表する市全体からの温室効果ガス排出量より、家庭における温室効果ガス排出量を算出 ※3年前の実績値となる																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>世帯当たりの年間排出量の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (kg-CO2)</th> <th>実績値 (kg-CO2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>5,100</td> <td>5,037</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>4,300</td> <td>4,337</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>4,300</td> <td>4,083</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>4,300</td> <td>4,083</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>4,300</td> <td>4,083</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>2,828</td> <td>2,828</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (kg-CO2)	実績値 (kg-CO2)	H29	5,100	5,037	H30	4,300	4,337	R1	4,300	4,083	R2	4,300	4,083	R4	4,300	4,083	R9	2,828	2,828
年度	目標値 (kg-CO2)		実績値 (kg-CO2)																				
H29	5,100		5,037																				
H30	4,300	4,337																					
R1	4,300	4,083																					
R2	4,300	4,083																					
R4	4,300	4,083																					
R9	2,828	2,828																					
目指す方向性	⬇️																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 暖冬による暖房時のエネルギー需要の低減が大きく寄与したと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 再エネ設備の導入を促す補助事業の実施とともに、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発を行う。																						

まちづくり指標	太陽光発電システムの導入件数（10kW未満）	
算出方法	市内の戸建住宅に導入された太陽光発電システムの件数（10kW未満）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性		
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 太陽光発電への理解が広がることに加え、当市の補助事業における導入促進効果も大きく寄与したと考えられる。 (II) 太陽光発電によるエネルギーコストの削減効果を中心に、補助制度の更なる拡充や啓発に努めていく。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	42.81	37.69

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)

<グラフの見方>

重要度 (高)	a (a+)	(b+)
満足度 (低)	(a-)	b
重要度 (低)	(b-)	(c-)
		c

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
中小企業への省エネ設備導入促進事業	(Ⅰ) 事業者の省エネ設備導入促進 (Ⅱ) CO2削減効果が一定以上見込まれる設備更新への補助を8件実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	13,738
地球温暖化対策実行計画推進事業	(Ⅰ) 市全域からの温室効果ガス排出量の削減 (Ⅱ) 市域全体から排出された令和3年度の温室効果ガス排出量(速報値)は、基準年度(平成25年度)と比較して、13.3%減少した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
エコアクション21推進事業	(Ⅰ) 中小企業の環境経営システムの推進 (Ⅱ) エコアクション21を認証取得している市内事業者1社に対して、認証更新のための費用を補助した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	100
道路照明維持管理事業	(Ⅰ) 道路照明等のLED化により電気使用料削減を図る。 (Ⅱ) 粒江トンネル・新古城池トンネル照明のLED化を行い243台をLED器具に更新した。 (Ⅲ) 継続して実施。令和6年度以降は道路照明のLED化予定。	128,728
脱炭素型ライフスタイル普及啓発事業	(Ⅰ) 環境に配慮したライフスタイルの普及啓発 (Ⅱ) イベントや出前講座など機会を捉えて啓発冊子を配布するなど、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
ZEH・太陽光発電等導入促進事業	(Ⅰ) ZEH・太陽光発電等の導入促進 (Ⅱ) 戸建住宅を対象として、太陽光発電システム306件、太陽熱利用システム7件、ZEH40件、燃料電池システム32件、定置型リチウムイオン蓄電池401件に対し補助を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	65,935
高梁川流域カーボンニュートラル研究事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域でのカーボンニュートラルの実現 (Ⅱ) 自治体担当者による研究会や親子向け連載講座「おうちでできるゼロカーボン」の開催、また家庭向け普及啓発パンフレットを作成し市民向けの普及啓発を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	11,972
倉敷西部クリーンセンター整備事業	(Ⅰ) 電力の地産地消の推進 (Ⅱ) 自営線供給の設計が完了した。 (Ⅲ) 継続して工事及び工事の監理を行う。	-
電気自動車等導入費補助事業	(Ⅰ) 電気自動車等の導入促進 (Ⅱ) 電気自動車(EV)294件、プラグインハイブリッド自動車(PHV)100件、V2H充放電設備20件の導入補助を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	56,100
エネルギー使用量削減推進事業	(Ⅰ) 市の施設のエネルギー使用量と温室効果ガスの排出量の削減 (Ⅱ) 市役所から排出された令和4年度の温室効果ガス排出量は、基準年度(平成25年度)と比較して、30.1%減少した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	3,151
適応策普及啓発事業	(Ⅰ) 適応策の普及啓発 (Ⅱ) 適応策についての情報提供、普及啓発を行ったほか、市が実施している適応策についての調査を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-5 行政と市民、企業などが連携し、防災・減災対策や感染症対策などを積極的に進めるとともに、だれもが命を守る意識をもっている

### 市の施策

防災・減災意識を高め、災害に強いまちをつくる

### 基本方針

- ★ 平成30年7月豪雨災害からの1日も早い復興に取り組むとともに、災害での経験を踏まえ、行政と市民、企業などが連携して、将来の災害に備えるための防災・減災対策に努め、市全体の防災力の向上をめざします。
- ★ 国や県と連携し、河川や水路及び排水機場の改修や急傾斜地の対策を行うとともに、総合的な浸水対策を推進し、避難場所となる公共施設の防災機能の充実、無電柱化の推進、公共施設や住宅等建築物及び大規模盛土造成地の耐震化の推進など、災害に強いまちづくりを進めます。
- ★ 消防体制や、備蓄・配送などの防災拠点の充実を図ることで、災害発生時の的確で迅速な対応をめざし、市民が安心して住み続けられるまちづくりを進めます。
- ★ 「自助」「共助」「公助」の防災理念のもと、防災訓練や防災教育などを通じて、市民の更なる防災・減災意識や知識の向上を図ります。市民一人ひとりが災害に備え、まずは自分の命を守る「自助」の意識を高めるとともに、近隣や地域において市民が助け合い、かつ、支え合う「共助」の取り組みに参加します。
- ★ 市民に防災情報を迅速かつ的確に知らせるとともに、災害時の情報を集約して的確な判断ができるように災害対応機能の充実強化を図り、防災力の向上をめざします。
- ★ 災害時における鉄道輸送の経路を維持することで、安全・安心に人や物が輸送できるまちをめざします。
- ★ 新たな感染症や、大規模災害などの緊急時に市民の健康被害が最小限に抑えられるよう、健康危機管理体制の強化を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	自主防災組織カバレッジ	
算出方法	自主防災組織の組織されている地域の世帯数／管内全世帯数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 継続的な出前講座等の啓発事業により、自主防災組織の必要性への理解が進んでいるものと考えられる。 (II) 出前講座等を活用して自主防災組織のさらなる結成促進と活動活性化を支援するため、継続して啓発を行う。	

まちづくり指標	地区防災計画の取組件数	
算出方法	自主防災組織等が地区防災計画の策定に着手している件数＋策定済の件数	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍で組織の活動が途切れた後、これまで取り組み中だった組織の多くが計画を最初から立て直すことになったため。 (II) 参考となる事例の紹介や、地域に向いて話し合いに参加するなど、作成支援を行う。	



事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
被災者見守り・相談 支援等事業	(Ⅰ) 被災者がそれぞれの環境の中で安心した日常生活を送ることができる。 (Ⅱ) 平成30年10月以降、延べ約47,910世帯を訪問(令和6年3月31日現在)。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。電話、来所での相談は、社協で引き続き対応。	20,992
★ 真備地区産業復興推 進事業	(Ⅰ) 真備地区の産業復興に向けた支援を行う。 (Ⅱ) 地域おこし協力隊1名を委嘱し、真備地区の地域資源の発掘・活用への取組 を行った。また、真備地区で創業する6件の事業者に、創業支援として補助 を行った(補助金上限50万円、補助率3/4)。 (Ⅲ) 真備地区復興計画の移行に伴い、創業支援事業については令和5年度完了 し、地域おこし協力隊については廃止を検討する。	7,276
住宅災害復旧等資金 利子補給金	(Ⅰ) 被災した住宅の復旧等のために受けた融資の金利負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 利子補給金交付件数531件 (Ⅲ) 被災者の申請に基づき、利子補給金を交付する。	10,019
災害復興推進事業	(Ⅰ) 真備地区復興計画を推進する。 (Ⅱ) 真備地区復興計画推進委員会や復興記念行事を開催するなど、真備地区復 興計画を推進した。 (Ⅲ) 令和5年度の復興計画期間終了に伴い、事業の見直し(縮小)を行う。	1,681
被災高齢者向け住宅 再建支援事業	(Ⅰ) 被災高齢者世帯の持家再建を支援する。 (Ⅱ) 確認書交付件数3件 (Ⅲ) 令和5年度末で新規の申請受付は終了。令和6年度以降は、各年度内に融資 実行された分の補助金を金融機関に対して支払う。	2,039
民間賃貸住宅家賃助 成事業	(Ⅰ) 災害公営住宅等の抽選に外れた世帯の住まいの確保を支援する。 (Ⅱ) 12世帯分の補助金を交付した。 (Ⅲ) 新規の申請受付は終了したので、現在補助を受けている世帯を対象として 今後も継続して実施する。	3,902
★ 復興防災公園整備事 業	(Ⅰ) 小田川沿いにおける災害時の防災拠点や一時避難所の確保 (Ⅱ) まびふれあい公園の公園整備工事及び建屋建築工事に着手し、そのうち、 駐車場整備工事、階段整備工事、園路整備工事等が完了した。 (Ⅲ) 令和6年度完成予定。	445,966
スクールカウンセ ラー配置事業	(Ⅰ) 真備地区の児童生徒等を支援し、心のケアを図る。 (Ⅱ) 真備地区の児童生徒の心のケアのため研修会やカウンセリング等を行っ た。 (Ⅲ) 令和5年度で終了した。	582
海岸堤防等総合対策 事業	(Ⅰ) 浸水被害から、市民の生命・財産を守る。 (Ⅱ) 小原漁港堤防の耐震対策工事と勇崎漁港水門の詳細設計を実施した。 (Ⅲ) 小原・勇崎・通生漁港海岸について、順次工事を実施していく。	96,357
★ ため池防災減災事業	(Ⅰ) 農業用水の確保と決壊による災害への防災・減災を図る。 (Ⅱ) 別曾池、森池などの工事・業務委託を実施した。 ため池ハザードマップを9地区で作成。水位計を6池に設置し、ため池の安 全確保を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	227,926
★ 田んぼダム普及啓発 事業	(Ⅰ) 大雨時での内水被害の軽減を図る。 (Ⅱ) 実施面積が令和4年度の29haから、令和5年度は37haに拡大した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,859
★ 宅地耐震化推進事業	(Ⅰ) 宅地耐震化事業を推進し、災害に強い都市づくりをめざす。 (Ⅱ) 早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土造成地1か所について、今後 の対応策の検討を行った。 (Ⅲ) 令和6年度は早期に第二次スクリーニングを実施すべき盛土造成地1か所に ついて地元調整を行い、令和7年度詳細調査を実施する。	-
★ 宅地造成・特定盛土 等規制区域指定事業	(Ⅰ) 危険な盛土等を規制し、安全・安心な都市づくりをめざす。 (Ⅱ) 規制区域の指定に必要な基礎調査を実施し、宅地造成等工事規制区域 等の検討を行った。 (Ⅲ) 令和6年度に設定した区域を管理システムに反映させる。	14,802
★ 真備緊急治水対策事 業	(Ⅰ) 小田川の安全性向上及び災害時等の緊急車両の通行等を確保する。 (Ⅱ) 小田川の堤防強化に伴う、用地測量業務委託および樋管補強工事を行っ た。 (Ⅲ) 令和5年度で完了した。	302,972

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
避難経路等確保事業	(Ⅰ) 避難時に支障となる狭あい道路を解消し、安全な避難道路等を確保する。 (Ⅱ) 真備町箭田81・108号線の拡幅工事を行い、安全な避難経路の確保を図った。 (Ⅲ) 継続して実施予定。	29,240
★ 無電柱化推進計画事業	(Ⅰ) 無電柱化による市内の防災力の強化、安全かつ円滑な交通の確保、及び景観の向上を図る。 (Ⅱ) 駅前古城池霞橋線の設計業務が完了した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	16,705
★ 建築物耐震診断等助成事業	(Ⅰ) 建築物の耐震診断を促進することによって、地震による人的被害及び経済的被害を軽減する。 (Ⅱ) 木造住宅、その他の建築物の耐震診断に要する費用の一部を補助した。交付件数：木造住宅耐震診断53件（内、現況診断37件、補強計画16件）、一般建築物耐震診断2件 (Ⅲ) 耐震化の必要性や補助制度の内容について、広報活動を頻繁に行い継続して実施する。	3,496
★ 建築物耐震改修等助成事業	(Ⅰ) 建築物の耐震改修を促進することによって、地震による人的被害及び経済的被害を軽減する。 (Ⅱ) 木造住宅、その他の耐震改修等に要する費用の一部を補助した。交付件数：木造住宅10件（全体改修）、危険ブロック除去22件、要緊急建築物耐震改修工事1件 (Ⅲ) 耐震化の必要性や補助制度の内容について、広報活動を頻繁に行い継続して実施する。	103,311
★ 浸水対策事業	(Ⅰ) 浸水被害から、市民の生命・財産を守る。 (Ⅱ) 【土木課】排水ポンプの修繕を実施した。これにより、内水排除の能力が増した。 【耕地水路課】大西排水機場、松江生姫第2排水機場などの工事・業務委託を実施した。 (Ⅲ) 【土木課・耕地水路課】継続して実施する。	2,091,393
★ 浸水対策事業（内水）	(Ⅰ) 施設整備等により、浸水被害の予防及び軽減を図る。 (Ⅱ) 令和6年度供用開始に向けて吉岡川雨水ポンプ場の建設工事を進めている。 (Ⅲ) 継続して実施する。	642,203
★ (仮称)都市防災公園及び複合施設整備事業	(Ⅰ) 山陽ハイツ跡地に自然や地形を生かした多世代が集う場を確保する。 (Ⅱ) 旧山陽ハイツの解体業務及び基本・実施設計業務が完了した。また、令和7年度の完成に向け、公園整備工事に着手した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	431,560
★ 防災備蓄倉庫整備・維持管理事業	(Ⅰ) 防災備蓄倉庫の新設により防災体制の一層の強化を図る。 (Ⅱ) 令和6年3月29日に有城防災備蓄倉庫が完成した。令和6年6月から随時、災害時備蓄品を搬入し、防災体制の強化を図る。 (Ⅲ) 防災備蓄倉庫完成により令和5年度で完了。今後は、災害時備蓄品の充実等を図る。	380,656
★ 災害備蓄品整備事業	(Ⅰ) 防災協定や災害時備蓄品の充実等により防災体制の一層の強化を図る。 (Ⅱ) 備蓄の在り方等の基本的な方針を示した「倉敷市備蓄計画」に基づき、避難所開設時における避難生活用品（水、アルファ化米、乾パン、生理用品等）や、災害対応資機材（ブルーシート、コードリール等）を購入し、各避難所や防災倉庫等に配備した。また、災害時等における物資提供に関する協定を新たに締結した。 (Ⅲ) 引き続き、「倉敷市備蓄計画」に基づき、避難生活用品、災害対応資機材を整備する。また、防災体制の強化を図るため、協定の見直し、新規防災協定の拡大に努める。	6,814
★ 水防センター整備事業	(Ⅰ) 高梁川流域の大規模水害発生時に、水防活動等を円滑に行う。 (Ⅱ) 船穂町柳井原地区水防センターの建築工事を令和5年9月に完了し、令和6年3月23日に開設した。 (Ⅲ) 地域の防災力向上を図るため、水防活動の拠点や防災学習の場として活用する。	197,669
★ 備中地区消防相互支援事業	(Ⅰ) 高梁川流域6消防本部全体の消防力を高める。 (Ⅱ) 「備中地区消耗品リスト」及び「備中地区消防訓練・教養予定表」を作成し、各消防本部と情報共有した。浸水地区を想定した水難救助訓練に6消防本部40人が参加した。模擬家屋を用いた放水訓練を行い、6消防本部31人が参加した。消防資機材の相互賃借に関する調整を実施した。花火大会主催者対象保安講習を行い、47団体59人が受講した。備中地区消防本部予防・危険物担当課長会議を実施し、6消防本部20人が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施し、備中地区6本部の消防力強化を図る。	-

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 災害予防事業 (防災推進課分)	(Ⅰ) 市民の防災意識向上を図る。 (Ⅱ) 「令和5年度版 洪水・土砂災害ハザードマップ」を185,000部、「高潮ハザードマップ」を179,200部印刷し、広報くらしきとともに配布した。また、地区防災計画作成については、地域が主催する会合や訓練などに参加し、地域が自主的に作成できるよう支援を行った。その結果、3地区で計画を策定した。 (Ⅲ) 地区防災計画作成については、参考となる事例の紹介や、地域に出向いて話し合いに参加するなど、作成支援を実施する。	19,840
★ 自主防災組織育成事業	(Ⅰ) 自主防災組織の結成促進と活動の活性化を図る。 (Ⅱ) 出前講座を106件実施するとともに、自主防災組織の活動に必要な資機材を18団体に交付した。また、地域の集会所等を届出避難所(8施設)として認定し、備蓄品を配布した。 (Ⅲ) 自主防災組織のさらなる結成促進と活動活性化を支援するため、事業を継続して実施する。	2,783
★ 高梁川流域防災力強化事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域の一体性を醸成し、圏域内の防災力強化を図る。 (Ⅱ) 高梁川流域圏の住民を対象に、子どもを対象とした防災訓練の効果的な手法を学ぶための研修を実施した。また、フリーアナウンサーの奥村奈津美氏を講師として招聘し、地震への備えについて一般向けと自主防災組織対象とした防災講演会を実施した。 (Ⅲ) 引き続き、流域圏域の防災力強化を目的に、住民の自主的避難を促すための防災講演会等を計画する。	6,816
★ 要配慮者避難支援事業	(Ⅰ) 災害に備えた避難支援体制を整え、配慮を要する方の支援の充実を図る。 (Ⅱ) 避難行動要支援者名簿を更新し、避難支援等関係者へ情報提供を行った。また、自主防災組織に加え、福祉事業所、地区社会福祉協議会、コミュニティ協議会に対して制度や作成方法についての説明会、出前講座を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施予定。また名簿掲載者について、個別避難計画の作成を推進していく。	568
★ 学校防災教育推進事業	(Ⅰ) 防災に関する知識や実践力を身につけるとともに防災意識の向上を図る。 (Ⅱ) 小学校で避難行動を考えるマイ・タイムライン検討ツールの逃げキッドを作成したり、小中学校においてハザードマップを活用して地域の災害リスクを学習することができた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,919
★ 災害予防事業 (危機管理課分)	(Ⅰ) 頻発する災害に備えるため、災害対策本部機能を強化する。 (Ⅱ) 災害時の被害情報、避難情報及び気象情報を集約し、災害対策本部の迅速な意思決定を支援する総合防災情報システムの運用や、市民に対して緊急情報等を倉敷防災ポータルで提供する等多様な手段を用いての情報伝達を行った。 (Ⅲ) 災害対策本部機能の充実強化を継続して実施する。	24,261
★ 緊急情報提供事業	(Ⅰ) 災害時、緊急情報を迅速・確実に市民提供する。 (Ⅱ) 災害発生時に緊急情報を迅速・確実に提供する緊急情報提供無線システムの維持管理のほか、緊急告知FMラジオの購入費補助を行った。 (Ⅲ) 緊急情報提供無線システムは代替手段の充実により令和7年度末廃止。	33,550
★ 安全・安心な施設情報の発信事業	(Ⅰ) 安全・安心な施設情報を利用者に発信することで安全体制を確立する。 (Ⅱ) 「安全・安心な施設情報の一覧」として、ホームページ上で倉敷市内の施設7か所を紹介している。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
★ 鉄道施設緊急耐震対策事業	(Ⅰ) 大規模な地震発生時に、安心・安全な鉄道輸送を確保する。 (Ⅱ) 【水島臨海鉄道】千鳥町高架橋及び中畝高架橋の耐震補強工事に対して補助金を交付した。 【井原鉄道】令和5年度耐震対策事業に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 【水島臨海鉄道】令和5年度で完了した。 【井原鉄道】継続して実施する。	32,515
★ 地域健康危機管理体制推進事業(関係機関との調整)	(Ⅰ) 緊急時に迅速かつ有効な対応ができるよう健康危機管理体制を強化する。 (Ⅱ) 災害時医療体制構築のため医師会との会議を開催または参加し、災害対策について情報交換を行った。また新型コロナウイルス感染症に関して、診療体制検討会議等へ継続参加し、関係機関との連携強化を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	455
★ 新型コロナウイルスワクチン接種事業	(Ⅰ) 新型コロナウイルスワクチンの接種体制を構築する。 (Ⅱ) 対象者への個別通知や広報紙、市ホームページ等で啓発を行い、190,146件の予防接種を実施した。 (Ⅲ) 令和6年度から高齢者等を対象とした、定期接種として実施。	1,963,617

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-6 常に安全でおいしい水が届き、安心して暮らすことができる

### 市の施策

安全でおいしい水を安定的に届ける

### 基本方針

- ・ 水質管理体制を強化し、新たな浄水処理方法の検討なども進めることで、水道水の更なる水質向上を図り、「おいしい水道水」をめざします。
- ・ 水道施設などの効率化や耐震化を含めた整備を進めるとともに、広域での連携強化も含めて多発する自然災害への対応を強化し、災害時の水道被害を最小限に食い止めることをめざします。
- ・ 健全な水環境を守るため、啓発活動を進めるとともに、水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの利用にも取り組み、自然環境に配慮した事業運営を行います。
- ・ 様々な媒体を利用した新たな情報発信、情報収集に取り組み、水道利用者の求めるニーズを的確に捉え、水道事業サービスの向上を図ります。

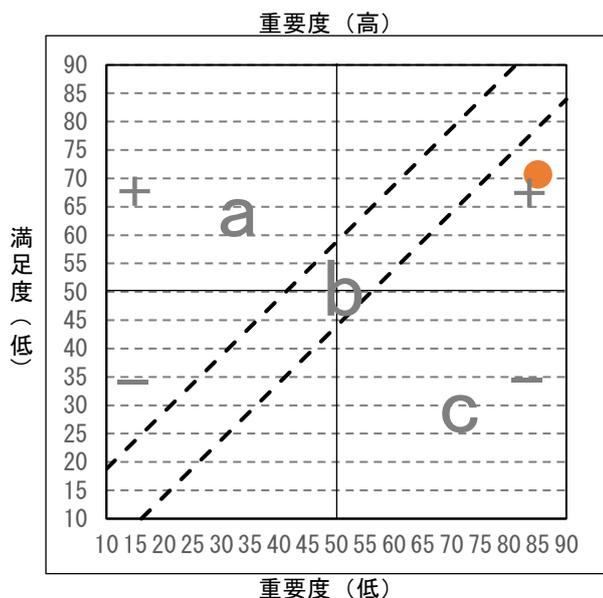
### 数値目標

まちづくり指標	水道基幹管路の耐震適合率	
算出方法	$(\text{基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 基幹管路の耐震化の優先的な実施	
(II) 今後の取組方針	(II) ダウンサイジングや管路DB方式導入といった更新手法や発注方式の検討により効率的な基幹管路の耐震化を目指す。	

まちづくり指標	水道水を飲料水として直接飲んでいる人の割合（直接飲用率）	
算出方法	水道週間アンケート調査で、「ご家庭ではどのようにして水道水を飲んでいますか」という設問に対して、『そのまま飲んでいる』『冷やしたり、沸騰させたりして飲んでいる』『お茶やコーヒーなどで飲んでいる』『浄水器を利用して飲んでいる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 広報紙やホームページでの周知や小学校等での出張授業の実施、貯水槽を經由しない水飲み場を整備、イベントでの利き水体験の実施	
(II) 今後の取組方針	(II) 上記の取組を継続するとともに、より効果的な啓発方法を検討する。	

まちづくり指標	残留塩素濃度のばらつき（標準偏差）	
算出方法	毎日検査で測定した残留塩素濃度の年間データから算出した標準偏差 ※注：数値が小さいほど毎日検査の対象となっている末端給水栓の残留塩素濃度のばらつきがなく、一定の濃度範囲内になっていることを示す	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	⬇️	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 浄水場での塩素注入量の調整や配水途中での追塩調整等の実施	
(II) 今後の取組方針	(II) 適正な残留塩素濃度となるよう監視に努める。	

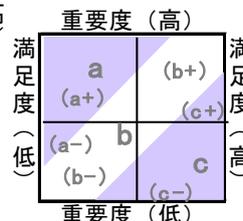
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c+	70.69	85.09

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
残留塩素濃度の適正管理	(I) 安全な水を送り届ける。 (II) 毎日検査のデータを基に浄水場での塩素注入量や配水途中での塩素を追加する装置による追塩等の調整を行い、残留塩素濃度のばらつき(標準偏差)は昨年度から減少し0.061mg/Lとなった。 (III) 毎日検査のデータに基づき浄水場での塩素注入量や配水途中での塩素の追加による調整等により適正な管理を実施する。	30,054
管路の計画的更新と耐震化	(I) 災害による被害を最小化する。 (II) 倉敷地区での配水本管の更新等により、基幹管路の耐震適合率は2.0ポイント上昇し44.3%となった。管路全体での耐震適合率は0.9ポイント上昇し、24.8%となった。 (III) 管路DB方式を導入するなど、倉敷市水道施設第一期基盤強化計画に基づき、今後も効率的に管路の耐震化を進める。	2,858,576
環境負荷の低減	(I) 省エネルギー化の推進等により環境負荷の低減を図る。 (II) 水質試験センターについて、照明器具166灯をLED照明器具に更新し照明関係のエネルギー消費率を約4割削減した。省エネ管理業務委託では、水道局の省エネ研修会を主催し省エネに関する意識啓発を行った。 (III) 空調機の更新や照明器具のLED化、ポンプ更新時のダウンサイジングを継続して実施することで、さらなる省エネルギーの推進に取り組む。	10,259
(仮称)水循環イベントの開催	(I) 水循環の大切さを利用者とともに考える気運の醸成を図る。 (II) 水道水の水源や水循環を考えるイベントとして8月1日水の日にあわせて、小学4~6年生を対象に小阪部川ダム見学を中心とした啓発活動を実施した。また、小阪部川ダムや高梁川の清掃活動に参加した。 (III) ダム見学に限らず水循環の啓発活動を検討していくとともに、水源の清掃など保全活動にも引き続き取り組む。	483
水道水の利用促進事業	(I) 直接飲用率の向上を図る。 (II) 出張授業を小学校等9校で行い、貯水槽を経由しない水飲み場を小学校等4校で整備した。また、イベントで利き水体験を行い、水道水のおいしさをPRした。直接飲用率は97.1%で高い水準を維持できている。 (III) 小中学校で貯水槽を経由しない水飲み場を令和6年度も整備予定。また、小学校や幼稚園への出張授業を継続して実施する。	11,786

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-7 だれもが安全で快適に移動できる道路環境となっている

### 市の施策

安全で快適な道路環境を確保する

### 基本方針

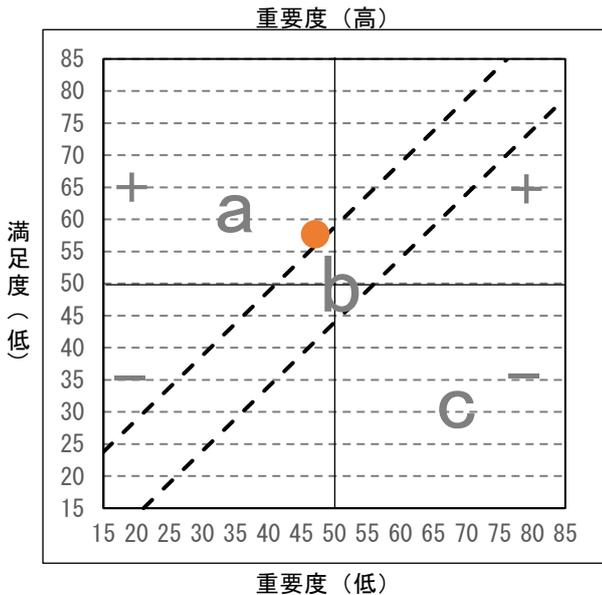
- ・ 交差点、水路沿いの道路などの危険個所で、交通安全施設の整備の充実に努めます。また、歩道のバリアフリー化を進め、道路の安全で快適な通行を確保します。
- ・ 市民一人ひとりが交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践できるよう、幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージに合わせて交通安全教育を行うなど啓発活動の充実に努めます。
- ・ 橋りょう・トンネル・横断歩道橋・道路などの道路ストックの点検や補修による長寿命化を図り、維持管理費の縮減に努めるとともに、道路利用の安全・安心の確保を推進します。
- ・ 啓発活動や街頭指導などの継続により、通行の妨げとなる車の路上駐車や放置自転車の防止を推進します。

### 数値目標

まちづくり指標	交通事故（人身）発生件数	
算出方法	市町村別交通事故（人身）発生状況（岡山県警察本部交通部交通企画課）（暦年）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) コロナ5類移行に伴う行動制限の緩和が微増に繋がったと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き警察等関係機関・団体とも連携し、交通安全運動や交通安全教室等を実施し、交通安全活動を推進していく。	

まちづくり指標	歩道のバリアフリーが進んでいると思う人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「市内の歩道のバリアフリーが進んでいると思いますか」という設問に対して、『思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 順次バリアフリー化を進めているが、市民が改善している実感できるレベルまで達していないと思う人が多いと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き道路の新設及び既存の歩道部分の修繕について、順次バリアフリー化の工事を行い、誰もが安全で快適な通行を確保できるよう努める。	

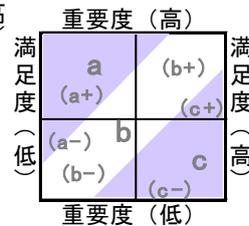
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	57.66	47.14

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
カーブミラー整備事業	(I) 道路の安全な通行を確保し、快適な交通環境づくりを行う。 (II) カーブミラー総点検を行い、全14,156基についての点検を完了した。また、市民及び交通安全団体等からの要望により117基を新規に設置し、334基を修繕した。 (III) 継続して実施する。	52,798
障がい者や高齢者にやさしい公共施設改修事業	(I) すべての人々が暮らしやすいまちづくりの推進を図る。 (II) 玉島支所中央東出入口の階段に手すりを設置した。 (III) 継続して実施する。	603
交通安全施設整備事業	(I) 交差点等での交通事故や用水路等の転落事故の減少を図る。 (II) 松島24号線防護柵設置工事ほか31本の交通安全施設整備工事を実施した。 (III) 継続して実施する。	192,009
交通安全対策関連事業	(I) 交通安全意識の普及と高揚により、交通事故防止の徹底を図る。 (II) 交通安全教室を645回(37,158人)実施した。また、警察や交通安全関係団体等と連携して啓発活動等を実施し、交通安全意識の普及・高揚を図り交通事故防止に努めた。 (III) 継続して実施する。	41,295
道路ストック長寿命化事業	(I) 効果的な老朽化対策の推進を図る。 (II) 橋梁点検1,176橋、トンネル点検10本、橋梁設計9橋、歩道橋設計1橋、橋梁補修工事58橋、トンネル補修工事1本、歩道橋工事1橋を実施した。 (III) 継続して実施する。	737,037
違法駐車対策事業、 放置自転車対策事業	(I) 円滑で安全な通行を確保し、快適な生活環境の保持を図る。 (II) 倉敷駅前交差点から倉敷東交差点までの区間において年間157日街頭指導を実施し、956台を指導した。倉敷駅周辺の自転車放置禁止区域において月2回撤去作業を行い、75台の自転車を撤去し、14台を返還した。 (III) 継続して実施する。	18,945

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-8

市中心部の拠点性が高まるとともに、各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりが行われている

### 市の施策

各地域・地区の中心部の利便性が向上するまちづくりを推進する

### 基本方針

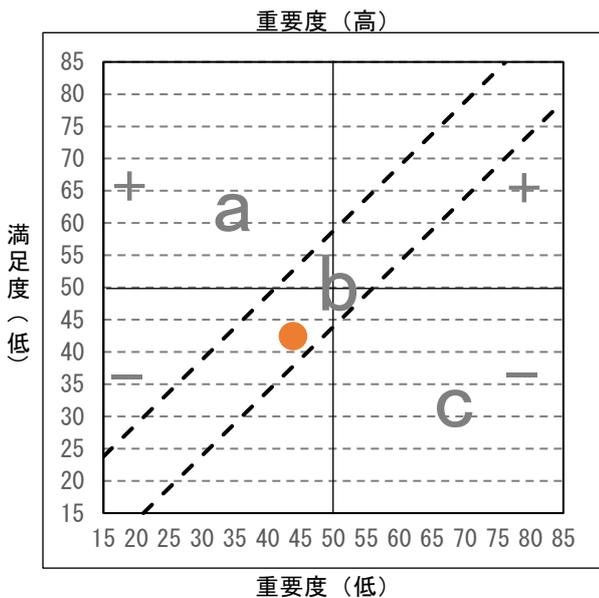
- ★ 各地域・地区の拠点の役割に応じた都市機能の集積強化や官民連携での土地の有効活用などを図ることにより、暮らしを支え、活気を生み出す魅力的な市街地を形成します。
- ★ 国道2号や主要地方道、都市計画道路などの幹線道路網の整備を進め、拠点間相互の連携により、まち全体としての総合力を強化します。
- ★ 市中心部の都市基盤整備を推進するとともに、地域の実情に応じた市街地整備を図ります。また、まちなかを車中心からひと中心の魅力ある空間へと転換していきます。
- ★ 倉敷駅付近の鉄道を連続して高架化し、交通円滑化を図るとともに、安全性や防災性の向上、市街地の分断解消を図ることにより、市中心部の拠点性を高めます。

### 数値目標

まちづくり指標	倉敷駅を中心とする中心市街地における歩行者・自転車通行量	
算出方法	中心市街地エリア内27か所における、休日1日の午前10時から午後6時までの歩行者及び自転車通行量（人／日）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	-	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和6年8月に調査。	

まちづくり指標	自分の住んでいる地域に魅力があると感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「自分の住んでいる地域・地区に魅力を感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100※「地域・地区」とは、倉敷・水島・児島・玉島・庄・茶屋町・船穂・真備の各地域・地区をさす	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	<p>(I) 60歳代以上において、魅力があると感じている人の割合が他世代と比べて低くなっているため、高齢者が地域の魅力を再発見できるような機会が不足していると考えられる。</p> <p>(II) 地域の魅力を生かした事業を引き続き展開し、あらゆる世代の地元住民が魅力を再発見する機会を創出する。</p>	

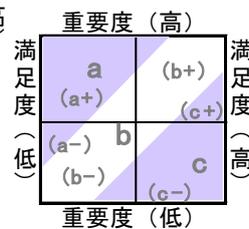
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	42.42	43.86

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 都市計画道路整備事業	(I) 幹線道路のネットワークの強化、渋滞緩和による利便性や安全性の向上を図る。 (II) 西阿知矢柄線の事業完了。 (III) 継続して実施する。	224,719
★ 倉敷駅周辺第二土地区画整理事業	(I) 都市基盤整備を着実に進め、都市的土地利用への転換を図る。 (II) 移転計画に基づき、補償額算定のための建物調査及び建物の除却等に係る補償を行い、道路改良工事及び宅地造成工事を実施した。 (III) 継続して実施する。	2,203,802
★ 中心市街地活性化事業	(I) JR倉敷駅南北の回遊性を向上させ、中心市街地内の賑わい創出を図る。 (II) JR倉敷駅南北エリアでのイルミネーション装飾やまち歩き等のイベント開催、市民の主体的なまちづくり活動に対する支援 (5件) 等、賑わい創出や回遊性向上に繋がる事業に官民連携して取り組んだ。 (III) 令和3年度から令和7年度までを計画期間とする倉敷市中心市街地活性化基本計画 (第3期計画) に掲げる目標の達成に向けて、継続して実施する。	20,202
まちづくり基金事業	(I) 貴重な町並みを守るとともに、市民主体のまちづくり活動を支援する。 (II) 平成26年度から事業を実施し、令和5年度までに87件の採択を行い新たな賑わい創出の支援を行ってきた。 (III) 令和6年度より新たに補助金交付要綱を制定し、対象者の要件緩和や支援の拡充を図る。申請件数の更なる増加を図りながら継続して実施していく。	20,463
★ 倉敷駅付近連続立体交差事業	(I) 交通の円滑化、安全性や防災性の向上、市街地の分断解消を図る。 (II) 岡山県事業評価監視委員会での再評価に向けて、県等と協力し協議、検討、調査を行った。 (III) 事業主体である岡山県及び鉄道事業者と連携し、継続して事業推進に取り組む。	4,658

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-9 便利に公共交通が利用でき、その周辺に住まいや生活に必要な施設が集まっている

### 市の施策

公共交通を便利に利用することができる環境をつくる

### 基本方針

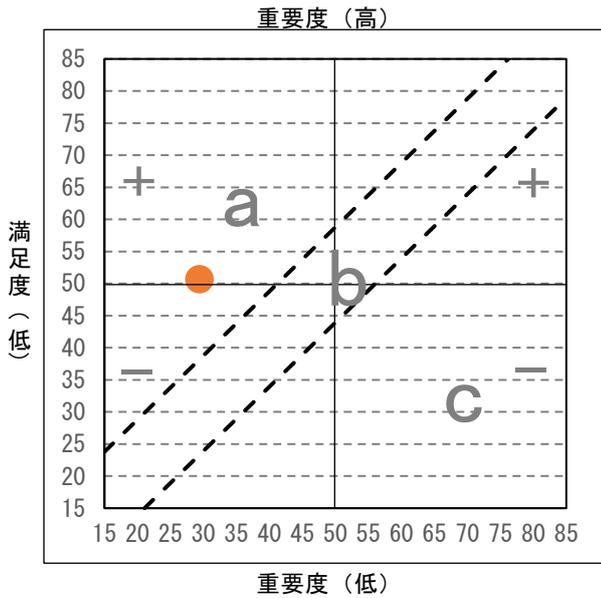
- ・公共交通により、各地域・地区の拠点にアクセスできる環境を整備していくとともに、その沿線での暮らしを支える日常生活サービス施設や居住を誘導します。
- ・主要な駅とその周辺の病院・福祉・商業施設などのあるエリアについて、一体的にバリアフリー化を推進することで、高齢者や障がい者など、すべての人が便利で快適に利用できる環境整備を進めます。
- ・公共施設などの最適な配置の実現に向け、コンパクトなまちづくりの取り組みと併せて、総合的な管理運営を進めます。

### 数値目標

まちづくり指標	水島臨海鉄道・井原鉄道・路線バス・コミュニティタクシーの年間利用者数	
算出方法	①と②の合計①鉄道の年間利用者数：年間乗降客数÷2（乗って降りるため）②路線バス、コミュニティタクシーの年間利用者数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) マイカーへの過度な依存や少子高齢化の進行、鉄道や路線バスなどの減便や廃止 (II) 利用促進や財政支援を行いながら、改善を目指す。	

まちづくり指標	交通弱者（移動手段がない人）が不便なく移動できていると思っている人の割合	
算出方法	「公共交通について」の市民モニターアンケートで、「過去3か月間の主な外出手段は」（複数回答）という設問に対して、『市内の鉄道、路線バス、コミュニティタクシー、介護・福祉タクシー、福祉有償運送の車両』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) マイカーへの過度な依存や少子高齢化の進行、鉄道や路線バスなどの減便や廃止 (II) 利用促進や財政支援を行いながら、改善を目指す。	

## 市民の重要度・満足度

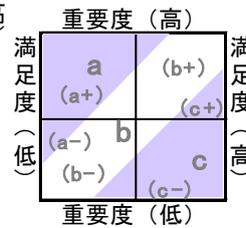


領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	50.65	29.44

重要度に見合った満足度が得られていない領域(a)  
重要度が平均値より高い部分(+)

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
バス路線維持費補助事業	(I) バス路線の維持及び幹線等の利便性を確保する。 (II) 市内を運行する路線バス事業者に対し運行経費の一部を補助することで、バス路線の維持及び幹線等の利便性が確保された。 (III) 継続して実施する。	61,045
井原線補助事業	(I) 井原鉄道の安定した運行を確保する。 (II) 井原鉄道が行った線路や車両など輸送のための施設管理費 (インフラ部分) に対し補助金を交付することで、安定した運行が確保された。 (III) 継続して実施する。	13,061
コミュニティタクシー事業	(I) 交通不便地域の解消を図る。 (II) コミュニティタクシーの運営主体である地域等に対し、補助金を交付することで、交通不便地域の移動手段が確保された。 (III) 継続して実施する。	28,368
路線バス・水島臨海鉄道利用促進事業	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により利用が大幅に減少している公共交通の利用を促進するとともに、外出機会の創出による経済活動の活性化を図る。 (I) 路線バス・水島臨海鉄道の無料デーを休日に6回実施し、利用者が普段の1.8~2.4倍に増加した。 (II) 事業の見直しを行う。 (III)	20,776
ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業	(I) 誰もがタクシーを快適に利用できる環境の整備を図る。 (II) 実績なし。経営環境や物価高騰の影響が考えられる。 (III) 継続して実施する。	0
交通バリアフリー推進事業	(I) 改正バリアフリー法に対応した駅のバリアフリー化を促進する。 (II) 事業が概成しているなか、今年度は、柱などがあるため、幅員の確保が困難であるなど、バリアフリー化が難しい箇所について、今後の取組の方向性を検討した。 (III) 道路管理者と連携し、通行しやすい経路の案内に努める。	-



生活環境・防災・都市基盤<繋>

めざすまちの姿

3-10 地域の特徴が生かされ、自然と調和した、だれもが住みやすい生活環境となっている

市の施策

地域の特徴が生かされ、だれもが住みやすい生活を支援する

基本方針

- ・ 各地域・地区の拠点や公共交通沿線での便利な暮らしから郊外部でのゆとりある暮らしまで、様々なライフスタイルやワークスタイルに合わせて、居住地が選択できるまちづくりを進めます。
- ★ 市内全域での活性化を推進するため、まちづくりに取り組む組織への支援を行い、各地域の個性や魅力、資源などを生かしつつ、それぞれの実情に応じたまちづくりを進めます。
- ・ 生活の基本となる住環境整備に向け、身近な道路や橋りょう、公園などの整備・維持管理に努め、安全性と利便性の向上を図ります。
- ・ 市営住宅の効果的な長寿命化を計画的に進めるとともに、高齢者や被災者など、住まいの確保に配慮が必要な方向けの住宅の供給を促進します。
- ・ 空き家などの発生を抑制するとともに管理不十分な空き家などを減らし、生活環境の保全を図ります。

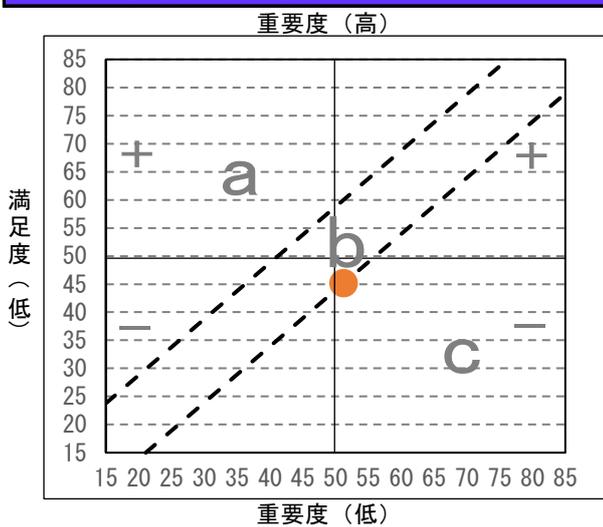
数値目標

まちづくり指標	現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「現在住んでいるところが住みやすいと感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 生活環境の向上につながる事業の効果が概ね表れていると考えられる。 (II) 生活環境の向上につながる事業を今後も継続して行っていく。	

まちづくり指標	地域の歴史やまちづくりに関心をもっている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「あなたの住んでいる地域の歴史やまちづくりに関心をもっていますか」という設問に対して、『もっている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の歴史・文化・特産品などの地域資源に触れる機会が少なく、まちに興味・関心を抱ききかけが不足していると考えられる。 (II) 出前講座や地域の魅力を体験できる場づくりなどを通じ、まちに目を向けるきっかけを作るとともに、地域の特徴を生かした住民主体のまちづくり活動を支援する。	

まちづくり指標	身近な都市公園等に歩いて行ける地域の割合	
算出方法	都市公園等（遊園・街区公園・近隣公園・地区公園・子ども広場）の各公園を中心とした半径250m（一般的な徒歩圏域）の円で囲まれた区域の合計面積／工業専用地域を除く市街化区域の面積×100。基準値はH30の値。令和元年度は79.2%。	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 街区公園をはじめとした都市公園等の整備を着実に進めてきたため。 (II) 今後も同様に都市公園等の整備を進めて行く。	

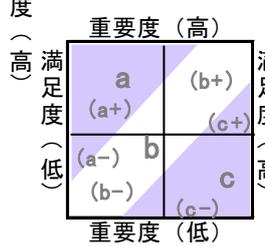
市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	45.16	51.24

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 児島のまちづくり	(I) 児島地域内に新たな集客拠点を整備し、賑わいと活力の創出を図る。 (II) 「鷺羽山・下津井まちづくり推進協議会」において、アーティストインレジデンス事業(松島)などを通じてエリアの魅力向上を図った。 (III) 協議会が中心となり、鷺羽山・下津井地区と松島を一体として活用することで地域の賑わいと活力の創出に繋げていく。	1,265
★ 玉島のまちづくり	(I) お茶文化と町並みを玉島地域の魅力として賑わいと活力を創出する。 (II) 「玉島湊まちづくり推進協議会」において、お茶文化の継承・育成のため、お茶栽培を開始したほか、お茶会初心者用パンフレットや玉島の旬カレンダーを作成するとともに、SNSを活用した情報発信を行った。 (III) お茶文化と町並みを玉島の魅力として、今後も協議会を中心に、賑わいと活力を創出する取組を継続して実施する。	501
★ 水島のまちづくり	(I) 水島地区の新たな魅力を発掘し、賑わいや活力を創出する。 (II) 住民や地元団体、事業者など地域の多様な担い手で組織する「水島まちづくり協議会」にて、テーマごとに部会を設置し、活発な議論をしながら、視察や地区調査などの活動を行った。 (III) 協議会がまちづくりのプラットフォームとなり、持続可能なまちづくりにむけて活動を継続する。	544
町家・古民家で紡ぐ ★ 魅力拠点づくりと技術伝承事業	(I) 高梁川流域圏内の町家・古民家を活用し、新たな魅力拠点を創出する。 (II) 高梁川流域圏に数多く残る町家・古民家の保全・伝承・活用を促すことを目的に、伝統的建物の意匠等を調査・図面化するプロセスや町家・古民家に焦点を当てたマップの製作プロセスの共有、歴史を生かしたまちづくりに関する議論を行うシンポジウムを開催した。 (III) 町並み保存の意識付けを行うとともに、町家・古民家の持続的な活用策や保全策を検討する場を提供するため、今後も継続して実施する。	1,899
公園整備事業	(I) 心身の健康維持・増進に寄与する緑とオープンスペースの確保を図る。 (II) 西阿知南ふれあい公園ほか1園の施設整備(新設)、水島緑地福田公園ほか5公園の施設改善等を進めた。 (III) 継続して実施する。	177,164
都市公園長寿命化再整備事業	(I) 公園における安全・安心の確保と維持管理費の平準化を図る。 (II) 小川公園ほか4公園21施設の更新を完了するとともに、玉島の森ほか6公園29施設の更新に着手した。 (III) 継続して実施する。	85,382
市営住宅長寿命化維持管理事業	(I) 市営住宅等の延命化を図るとともに、施設の維持管理コストを削減する。 (II) 市営宮前(改良)団地(101~110号)屋根ほか修繕、向山北団地(1~30号)水道参考メーター取替修繕、中山団地(3~11棟)外壁塗装修繕、中庄団地25棟、26棟給水設備修繕を行った。 (III) 倉敷市営住宅等長寿命化計画に基づき、市内の老朽化した市営住宅等に対し、計画的な修繕及び改修工事を今後も継続して実施する。	94,486
空家等対策事業	(I) 空家等対策計画に基づく施策を総合的かつ計画的に実施する。 (II) 司法書士等による空き家に関する相談会やセミナーの実施、略式代執行による特定空家の解体の実施(1件)、特定空家等の除却工事等の費用の一部補助(交付数30件)、居住誘導区域の空家等に居住するための改修工事費用の一部補助(交付数1件) (III) 継続して、セミナーの実施や補助金の利用を促すことで、空き家等の発生予防に向けた意識啓発や空き家等の活用及び特定空家等の除却の促進に取り組む。	25,329

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざすまちの姿

3-11 先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている

### 市の施策

歴史的・魅力的な景観の形成を推進する

### 基本方針

- ★ 伝統的建造物群保存地区などの建物の保存や修理などへの支援を継続して行うとともに、市民の意識を高めて、歴史ある町並みや景観の保存に努めます。
- ★ 景観づくりに関する市民や事業者の参加意識の醸成を図り、市民団体の活動を支援するとともに、空き家などの活用も含めた景観保全を進めます。
- ★ 本市のこれまで培ってきた自然、歴史・文化、市街地などに区分した類型別の方針のもと、地域それぞれの貴重な景観資源を守り、地域の特性を生かした良好な景観形成を推進します。

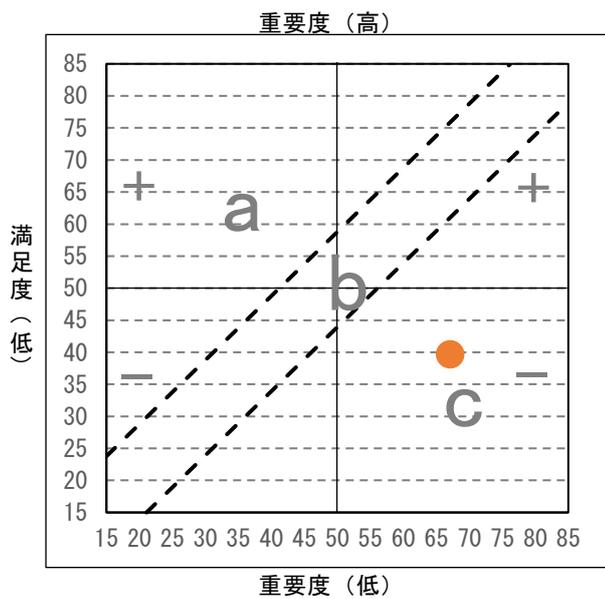
### 数値目標

まちづくり指標	歴史的・魅力的な景観が保全されていると感じている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「市内では、歴史的・魅力的な景観が保全されていると感じていますか」という設問に対して、『感じている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>48.8</td><td>48.8</td></tr> <tr><td>R3</td><td>48.8</td><td>42.7</td></tr> <tr><td>R4</td><td>48.8</td><td>45.6</td></tr> <tr><td>R5</td><td>48.8</td><td>45.8</td></tr> <tr><td>R7</td><td>53</td><td>53</td></tr> <tr><td>R12</td><td>58</td><td>58</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	48.8	48.8	R3	48.8	42.7	R4	48.8	45.6	R5	48.8	45.8	R7	53	53	R12	58	58
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	48.8		48.8																				
R3	48.8		42.7																				
R4	48.8	45.6																					
R5	48.8	45.8																					
R7	53	53																					
R12	58	58																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 伝統的な建物の修理や歴史的景観の維持などの取組について、広報や周知が充分ではなかったため。 (II) 今後も引き続き、伝統的建造物群保存地区などの建物を修理、修景に対する支援を行っていくとともに、広報、周知を図る。																						

まちづくり指標	倉敷市の景観がよくなったと感じている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「倉敷市のまちなみや自然の風景は、全般的にどうなったと感じますか」という設問に対して、『よくなった』『少しよくなった』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>42</td><td>35.8</td></tr> <tr><td>R3</td><td>42</td><td>40.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>42</td><td>43.4</td></tr> <tr><td>R5</td><td>42</td><td>43.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>42</td><td>42</td></tr> <tr><td>R12</td><td>49</td><td>49</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	42	35.8	R3	42	40.9	R4	42	43.4	R5	42	43.7	R7	42	42	R12	49	49
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	42		35.8																				
R3	42		40.9																				
R4	42	43.4																					
R5	42	43.7																					
R7	42	42																					
R12	49	49																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 倉敷市都市景観条例に基づく届出、支援事業等の成果が出ているものと考えられる。 (II) 今後も引き続き届出、支援事業等を活用した景観誘導を継続する。																						

まちづくり指標	倉敷市の景観をよくする取組に関わりたいと思う人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「倉敷市の景観をよりよくしていく取組に関わりたいと思いますか」という設問に対して、『積極的に関わりたい』『どちらかと言えば関わりたい』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100（現状値は市民モニターアンケートによる）																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>景観取組に関わりたいと思う人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>44.1</td><td>32.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>31.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>31.6</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>33.5</td></tr> <tr><td>R7</td><td>50</td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>57</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	44.1	32.2	R3		31.6	R4		31.6	R5		33.5	R7	50		R12	57	
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	44.1		32.2																				
R3			31.6																				
R4		31.6																					
R5		33.5																					
R7	50																						
R12	57																						
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 生活環境の多様化等により、時間を割いてまで景観の取組に携わりたいと思う人が少ないと考えられる。 (II) 景観に配慮した建築計画となるように誘導し、良好な景観整備を進めることで、まちをより良くしたいという気運を醸成する。																						

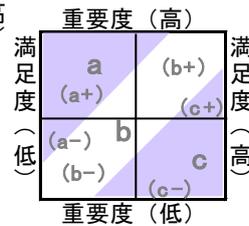
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	39.66	67.13

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c-  
 (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I)／令和5年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
★ 伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業	(I) 伝建地区・伝美地区・町並み保存地区内の歴史的な町並みを保存する。 (II) 建物の外観の修理・修景に対して伝統的建造物群保存地区で6件の補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	43,747
★ 市民参加による景観づくりの促進	(I) 歴史的・文化的な建造物を後世に引き継ぎ、地域の愛着や誇りを醸成する。 (II) 条例で定める届出制度により、建築物に係る31件のうち、17件について事前協議が行われた。 (III) 継続して実施する。	-
★ 景観形成重点地区景観向上推進事業	(I) 倉敷市の広域的な玄関口にふさわしい風格ある景観形成を促進する。 (II) 地区指定に伴う新しい基準に適合していない建築物や広告物の改修等7件について、補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	9,302
★ 旧街道景観整備事業	(I) 美観地区につながる旧街道沿いの歴史的な町並み景観の保全を図る。 (II) 旧街道から望見できる建築物の外観修景の3件について、補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	4,000
★ 美観地区景観整備事業	(I) 美観地区内の歴史的な町並み景観の保全を図る。 (II) 美観地区内の市道から望見できる工作物や屋外広告物の改修等8件について、補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	1,639

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 生活環境・防災・都市基盤<繋>

### めざまちの姿

3-12 犯罪が少なく、安心して暮らしている

### 市の施策

安心して暮らせるよう各種相談体制や防犯対策の充実を図る

### 基本方針

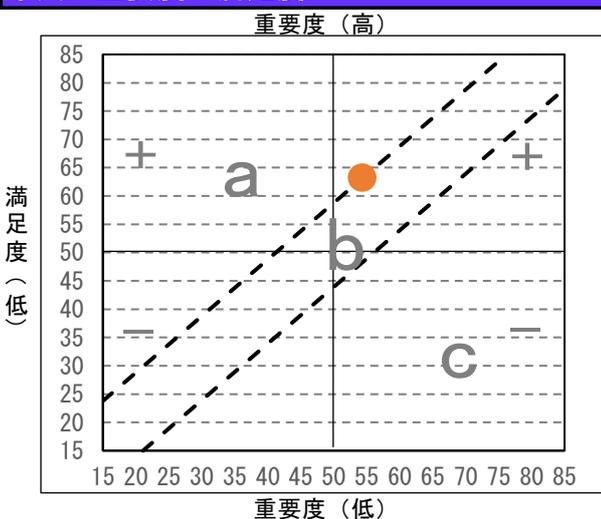
- ・ 地域住民や教育機関、警察などの関係団体と連携し、地域住民を主体とした自主防犯組織などの地域防犯体制の充実を図るとともに、「地域の安全は地域で守る」という自主防犯意識の啓発に努めます。
- ・ 警察をはじめとした関係機関との連携により、犯罪の手口や街頭犯罪、消費トラブルの情報を迅速に収集・提供し、犯罪や被害の未然防止に努めます。
- ・ 市民生活相談窓口の周知に努めるとともに、市民の抱える問題に早急かつ確に対応できる相談体制の充実を図ります。
- ・ 商品表示の適正化を進め、安心して暮らせる消費生活環境を整えます。

### 数値目標

まちづくり指標	刑法犯認知件数
算出方法	刑法犯認知件数（岡山県警察本部生活安全部生活安全企画課）（暦年）
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	C
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 全国的に増加しており、新型コロナウイルス5類移行に伴う行動制限の緩和が微増に繋がったと考えられる。
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き、啓発や活動支援を行っていく。

まちづくり指標	法律相談や消費生活相談など、問題を相談できる市の窓口を知っている人の割合
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「法律相談や消費生活相談など、問題を相談できる市の窓口を知っていますか」という設問に対して、『知っている』『おおむね知っている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	B
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 広報紙やHP、各課SNS等での広報活動により、実績値の上昇があったものと考えられる。
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き広報紙やHP、SNS等を活用した情報発信を行い相談窓口の周知を行う。

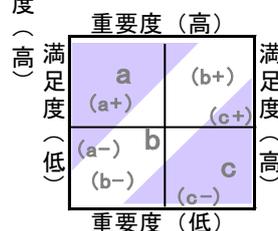
### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	63.21	54.35

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 <グラフの見方>



- a：重要度に見合った満足度が得られていない領域
- b：重要度に見合った満足度が得られている領域
- c：重要度に見合う以上の満足度が得られている領域
- ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割（3×2領域）
- +：重要度が平均値より高い部分
- ：重要度が平均値より低い部分
- a+ a- b+ b- c+ c-
- (例)
- a+：重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
「地域安全パトロール」関連事業	(Ⅰ) 安全かつ安心して暮らすことのできるまちづくりを推進する。	192
	(Ⅱ) 自主防犯パトロール隊1団体に補助金を交付した。青色防犯パトロールを100回実施した。	
	(Ⅲ) 継続して実施する。	
「犯罪のない地域社会づくり」関連事業	(Ⅰ) 犯罪のない明るく住みよい地域社会の実現を図る。	17,597
	(Ⅱ) 防犯連合会等に補助金を交付し、地域防犯活動を支援した。コロナウイルス感染拡大防止の観点から、状況を考慮しつつ、防犯活動や啓発活動を再開した。	
	(Ⅲ) 継続して実施する。	
特殊詐欺等被害防止対策事業	(Ⅰ) 自宅への架電による高齢者の特殊詐欺被害等を未然に防止する。	497
	(Ⅱ) 迷惑電話防止機能付き電話機等購入補助(申請73件、補助総額496,500円)及び通話録音装置貸出(申請14件)を行った。	
	(Ⅲ) 固定電話への架電による特殊詐欺を未然に防止することは、高齢者の経済的・心理的財産を守ることにつながるため、継続して実施する。	
消費者啓発事業	(Ⅰ) 消費生活に関する情報提供、教育、学習機会の充実を図る。	2,580
	(Ⅱ) 消費生活学級(学級生871人)の消費者知識普及に関する自主的な活動への支援を行った。また、出前講座(1,167人参加)、SNS、ホームページ、広報紙別冊の全世帯配布等の実施により消費者啓発を行った。	
	(Ⅲ) 消費者啓発と地域での消費生活に関する自主的な活動を支援することは、市民の消費生活の安定と向上につながるため、継続して実施する。	
地方消費者行政活性化事業	(Ⅰ) 消費者知識の普及・啓発及び消費生活センターの機能強化を図る。	1,401
	(Ⅱ) 主に若年者への消費者啓発として、市内中学3年生、高校3年生、大学入学生に対し啓発用リーフレット等を約15,400部を配付した。	
	(Ⅲ) 契約知識が不足している若年者、合理的な配慮を必要とする高齢者等への消費者知識の普及啓発は重要性が高いため、継続して実施する。	
市民相談事業	(Ⅰ) 市民の抱える様々な問題を解決に導き、市民生活の安定向上を図る。	9,584
	(Ⅱ) 相談件数は4,255件で令和4年度と比較して21件増加した。相談会を中止することなく開催することができたことで前年度から微増となり、コロナ以前の件数に戻つつある。	
	(Ⅲ) 継続して実施する。	
消費生活相談事業	(Ⅰ) 市民の消費生活の安定及び向上を図る。	13,191
	(Ⅱ) 消費生活相談件数は3,127件。令和4年度と比較して67件減少した。	
	(Ⅲ) 消費者トラブルを解決に導くには早期相談が効果的である。インターネット等の普及により今後ますます複雑な契約トラブルが増加するため、継続して実施する。	
消費者行政執行事業	(Ⅰ) 適正な商品表示の実施及び適正消費者取引の確立を図る。	33
	(Ⅱ) 商品の表示に関する相談や疑義情報を受け付け、適正な表示に関する情報提供やアドバイスを60件実施した。	
	(Ⅲ) 適正表示が付された商品が流通することは、安全・安心な消費生活の確立につながるため、継続して実施する。	
計量取締事業	(Ⅰ) 適正計量に対する消費者の信頼及び利益の確保、計量知識の普及啓発を行う。	8,570
	(Ⅱ) 特定計量器定期検査(1,070器)、燃料油メーター立入検査(392器)、商品量目検査(試買69個、立入267個)、消費生活モニター内容量調査(1,575個)を実施した。	
	(Ⅲ) 正確な計量器の使用による、適正に計量された商品等の市場への提供は、消費者利益の確保につながるため、継続して実施する。	

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-1 だれもが自分の健康に関心を持ち、健康づくりに自ら取り組んでいる

### 市の施策

だれもが取り組める健康づくりを支援する

### 基本方針

- ★ 広報活動の強化や未受診者への働きかけなどにより、各種健康診査の充実や、受診の重要性の周知徹底を図り、健康管理の支援によって、市民の生活習慣の見直しや病気の早期発見と治療、健康寿命の延伸につなげます。
- ★ 新たな感染症の出現やその感染症に対する新たな予防法など、的確な情報が効果的に提供できる体制づくりを進め、予防接種の勧奨なども含めた感染症予防の普及啓発によって、予防対策を進めます。
- ★ 健康づくりボランティアの地域での活動支援や、企業との協働による職場での健康づくりの支援によって、生活習慣病に関する知識の普及啓発や健康教育、健康づくり活動の機会を充実し、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを促進します。
  - ・ 産業保健、教育、地域保健分野などの関係機関や地域との連携を一層強化し、心の健康づくりについての講座や健康相談の充実など自殺予防対策を推進するとともに、災害被災者への心のケアを行います。
  - ・ 情報機器を活用するなどし、子ども自身が自分の健康に興味をもち、健康を保つための正しい生活習慣や、生涯を通じて運動に親しむ習慣を身につける契機となるよう、時代に合った教育に取り組みます。

### 数値目標

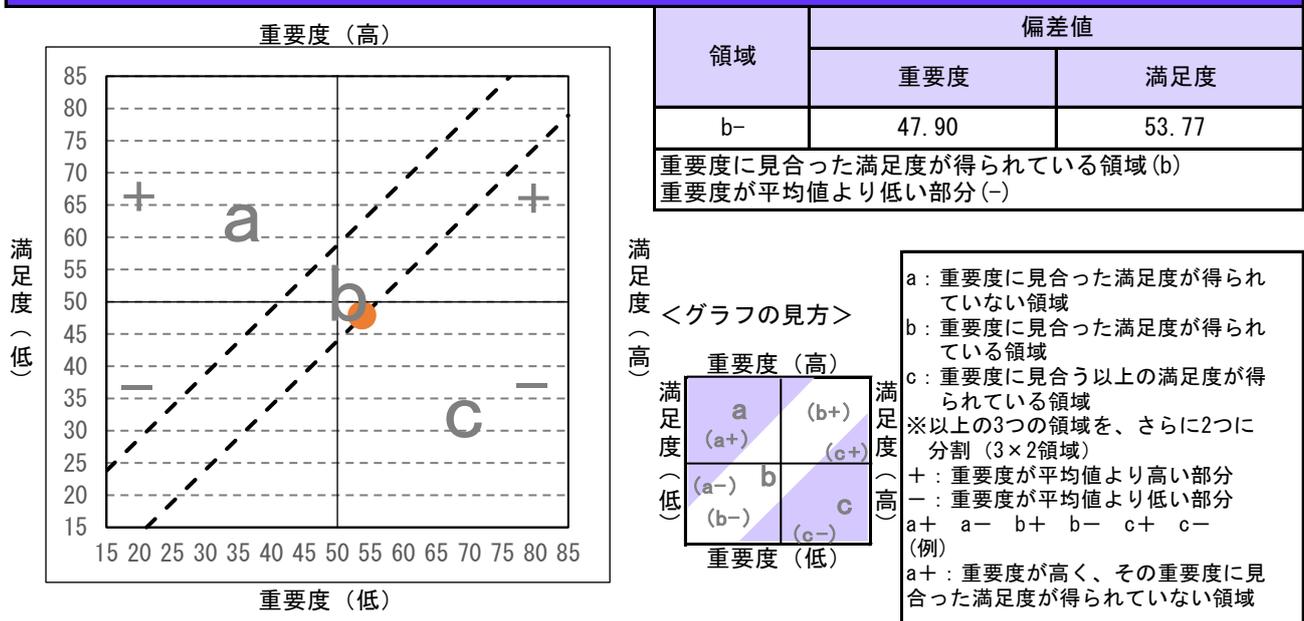
まちづくり指標	健康寿命 【男性】
算出方法	日常生活動作が自立している期間の平均KDB（国保データベースシステム）データより、介護保険の要介護度2～5を『不健康』、それ以外の状態を『健康』と規定して算出
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	A
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 国平均は延伸。厚労省はがん・心臓病・脳卒中等の発生率低下をあげる。喫煙率低下や高齢者社会参加拡大も一因と考えられる。 (II) 新計画においても市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取組強化を継続、庁内外関係機関と連携し推進する。</p>

まちづくり指標	健康寿命 【女性】
算出方法	日常生活動作が自立している期間の平均KDB（国保データベースシステム）データより、介護保険の要介護度2～5を『不健康』、それ以外の状態を『健康』と規定して算出
みらい創生戦略	★
目指す方向性	➡
進捗状況	A
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	<p>(I) 国平均は延伸。厚労省はがん・心臓病・脳卒中等の発生率低下をあげる。喫煙率低下や高齢者社会参加拡大も一因と考えられる。 (II) 新計画においても市の健康課題である糖尿病と高血圧症への取組強化を継続、庁内外関係機関と連携し推進する。</p>

まちづくり指標	1回に30分以上運動する日が週2日以上ある人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「1回に30分以上の運動をする日が、1週間に何日ありますか」という設問に対して、『2日～3日』『4日以上』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 働き盛り・子育て世代の30～50歳代で運動習慣者の割合が低く、日常生活での運動の取り入れにくさがうかがえる。 (II) 健康ポイントアプリ等をきっかけとし仕事や子育てをしながらでも運動習慣が継続しやすい環境づくりを強化する。	

まちづくり指標	国保特定健診受診率	
算出方法	特定健康診査受診者数／特定健康診査対象者数×100（法定報告値）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 特定健診の自己負担を500円に減額したことや、AIを活用した受診勧奨通知等の効果により受診率が向上した。 (II) ワンコイン（500円）健診を継続し、対象者に合った受診勧奨事業を実施することにより受診率の向上を図る。	

### 市民の重要度・満足度



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
国保特定健診・保健指導事業	(Ⅰ) 生活習慣病予防に着目して事業を実施し、被保険者の健康増進を図る。 (Ⅱ) メタボリックシンドロームに着目した健診・保健指導を医療機関や地区会場で実施し、約17,200人が受診した。保健指導対象者約1,700人に保健指導利用券を送付し利用勧奨した。 (Ⅲ) 糖尿病等の生活習慣病の予防に向け、継続して実施する。	233,294
国保特定健診受診率向上推進事業	(Ⅰ) 被保険者の健康意識の向上と特定健康診査実施率の向上を図る。 (Ⅱ) 未受診者への通知やSMSによる受診勧奨、新規加入者への電話勧奨、人間ドック・職場健診結果提供依頼、治療中患者の診療情報勧奨依頼等の事業を実施した。 (Ⅲ) 国民健康保険特定健診の受診率向上に向け、継続して実施する。	17,820
健康増進事業	(Ⅰ) がんなどの生活習慣病を早期発見・予防する。 (Ⅱ) 胸部レントゲン検診等各種がん検診を市内医療機関や地区会場で実施した。 (Ⅲ) がんなどの生活習慣病の早期発見や予防のため、各種健診を継続して実施する。	759,229
★ 女性の健康づくり推進事業	(Ⅰ) 職場健診等の機会の少ない若い女性に、健康診査の受診機会を提供する。 (Ⅱ) 該当年齢の女性全員にがん検診と併せたけんしん受診券を送付し、2,094人が一般健康診査を受診した。 (Ⅲ) 健康診査を受診することで、やせ・貧血・生活習慣病等の早期発見、早期治療に繋がるため、継続して実施する。	10,787
★ 健康診査受診率向上推進事業	(Ⅰ) 各種健(検)診を周知し、健康への関心を高め、受診率向上を図る。 (Ⅱ) 倉敷市内約181,000世帯へ「倉敷けんしんガイド」を送付し、3月末には翌年40才になる市民5,581人にがん検診の受診勧奨通知を送付した。 (Ⅲ) 各種健(検)診を周知する機会を多く持つことが受診率向上に繋がるため、継続して実施する。	5,031
★ 感染症対策事業	(Ⅰ) 感染症を予防する。 (Ⅱ) 新型コロナウイルス感染症への対応をふまえ、市民や社会福祉施設等に対して予防啓発や研修等を行い、あわせて感染症発生時には迅速に積極的疫学調査と保健指導、健康診断、移送等を実施し、まん延防止と患者支援に努めた。 (Ⅲ) 感染症対策は平時の予防啓発と発生時の迅速なまん延防止対策が重要であり、継続的に実施する。	401,965
高齢者インフルエンザ等予防接種事業	(Ⅰ) 高齢者のインフルエンザや肺炎球菌等の感染予防及び重症化予防を図る。 (Ⅱ) インフルエンザ予防接種82,671件、高齢者肺炎球菌予防接種3,966件を実施した。 (Ⅲ) 高齢者の感染予防及び重症化防止を図るため、継続して実施する。	359,865
★ 風しん対策事業	(Ⅰ) 胎児の先天性風しん症候群の予防を図る。 (Ⅱ) 抗体検査受検者数968件、予防接種費用助成者数478件を実施した。 (Ⅲ) 胎児の先天性風しん症候群の予防を図るため、継続して実施する。	8,911
★ 暮らしき健康応援事業	(Ⅰ) 健康意識の向上や健康行動の実践に向けたきっかけづくりを行う。 (Ⅱ) 暮らしき健康応援団講座(50回1,092人)、暮らしき健康応援ガイドの発行(年2回各3,000部)、測定体験(141回延べ10,008人)、暮らしき健康応援ポイント事業(WEB・アプリ参加者累計5,193人) (Ⅲ) 市民の健康意識の向上に向け、より多くの市民に参加してもらえるよう、実施方法を見直しながら継続する。	1,602
★ 「健康暮らしき21」推進事業	(Ⅰ) 市民の主体的な健康づくりを促進し、よりよい生活習慣へと導く。 (Ⅱ) 倉敷市健康増進計画「健康暮らしき21・Ⅱ」に基づき、地域住民、関係団体、産学官連携を図り、自然に健康になれる地域の環境づくりの推進や、市の健康課題である糖尿病・高血圧症予防を強化し啓発等を実施した。また、市健康増進計画と食育推進計画を統合し、「暮らしき健幸プラン」を策定した。 (Ⅲ) 「暮らしき健幸プラン」について、地域の関係団体や産学官と連携し、継続して推進する。	3,125

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 「運動で健康づくり」推進事業	(Ⅰ) 手軽に取り組める運動としてウォーキング等を推奨し実践を促す。 (Ⅱ) マップは55学区完成しており、希望があった学区は防災の視点を取り入れたものに改訂した。また、マップを活用したウォーキング大会を29回(1,142人)開催した。 (Ⅲ) マップを活用したウォーキング大会を継続して実施する。希望がある学区は、随時マップの改訂を行う。	370
★ 健康づくり事業	(Ⅰ) 市民が自ら心身の健康を維持・増進し健康寿命を伸ばす。 (Ⅱ) ヘルスチェック：372人、健康づくり実践セミナー：10回・128人、栄養セミナー：11回・141人、休養セミナー：12回・271人、おでかけ健康教室：91回・1,341人、出前健康教室：104回・4,240人 (Ⅲ) 事業内容及び事業形態について、見直しを行いながら継続して実施する。	77,264
自殺対策事業	(Ⅰ) 誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざす。 (Ⅱ) ゲートキーパー養成研修の開催(24回2,470人)、自殺未遂者支援事業(個別支援計29事例、事例検討会2回、事業評価会議2回開催)、自殺対策ネットワーク会議(2回)にて、庁内外関係機関と連携強化を図った。 (Ⅲ) 関係機関の連携強化を図りながら、自殺対策を総合的に継続して実施する。	10,258
精神保健総合対策事業	(Ⅰ) 心の健康づくりの推進及び精神障がい者に対する偏見除去を図る。 (Ⅱ) 暮らしき心ほっとサポーター9期生フォローアップ研修の開催(3回延べ46人)、暮らしき心ほっとサポーター121人(令和5年4月1日時点)と共に、心の健康づくり講座を開催(6回397人)し、精神障がい及び心の健康づくりについて啓発を行った。 (Ⅲ) 心の健康づくりや精神障がい者に対する偏見除去の取組を継続する。	1,399
精神保健相談、訪問指導事業	(Ⅰ) 精神保健一般及び精神障がい者の社会復帰等についての相談対応を実施する。 (Ⅱ) 精神科医師による健康相談を保健所で月1回実施し、32人の相談を受けた。保健師等による訪問は延べ1,396件、電話相談は延べ3,369件、面接相談は延べ990件実施した。 (Ⅲ) 本人及び家族が安心して相談できるよう今後も継続する。	389

## 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



### 保健・医療・福祉<結>

#### めざすまちの姿

4-2 豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている

#### 市の施策

市民の健全な食生活を支援する

#### 基本方針

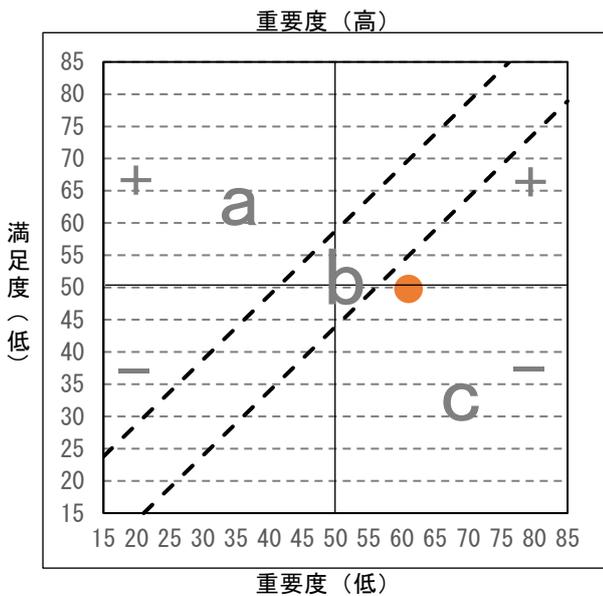
- ・ 食品の安全性をはじめとする食に関する正しい情報の提供に努めるとともに、食品関連事業者に対する監視指導や食品の検査を実施し、年間を通して食品の安全性を確保していきます。
- ・ 学校、企業、健康づくりボランティアなどとの連携により、生涯を通じて健全な食生活を送れる環境整備を進めるとともに、食育の推進により、子どもの頃からバランスのとれた食生活の意識づけを図ります。
- ・ 学校給食への地場産物の安定供給と情報提供に努めるとともに、生産者との交流を進めるなど、食に関する指導・啓発を行い、地域の特色や農林水産物への理解を深めます。
- ・ 食の循環や環境を意識した食育を推進し、豊かな自然の恵みによって得られる食を大切に作る心の育成に取り組みます。

#### 数値目標

まちづくり指標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている人の割合																						
算出方法	市民モニターアンケートで、「主食、主菜、副菜をそろえて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ですか」という設問に対して、「毎日」、「週に4～6日」と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>80</td><td>72.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>80</td><td>70.1</td></tr> <tr><td>R4</td><td>80</td><td>70.4</td></tr> <tr><td>R5</td><td>80</td><td>69.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>80</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>80</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	80	72.6	R3	80	70.1	R4	80	70.4	R5	80	69.7	R7	80	-	R12	80	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	80		72.6																				
R3	80	70.1																					
R4	80	70.4																					
R5	80	69.7																					
R7	80	-																					
R12	80	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 生活環境の多様化、多忙、食材料費・光熱費高騰、主食・主菜・副菜の定義の認識不足、健康に対する意識の格差によるものと考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 新計画に基づき、市内外関係機関と連携しながら、バランスの良い食事を普及啓発するとともに食育を推進する。																						

まちづくり指標	食品の安全性について十分な情報をもっている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「食品の安全性について十分な情報を得られていますか」という設問に対して、『得られている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>26</td><td>22.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>26</td><td>27.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>26</td><td>21.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>26</td><td>26.3</td></tr> <tr><td>R7</td><td>26</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>30</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	26	22.2	R3	26	27.3	R4	26	21.5	R5	26	26.3	R7	26	-	R12	30	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	26		22.2																				
R3	26	27.3																					
R4	26	21.5																					
R5	26	26.3																					
R7	26	-																					
R12	30	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 講習会や広報誌、ホームページ等を通じた普及啓発により、情報を入手できたと考える。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き、市民への食品衛生に関する情報提供に努める。																						

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	49.77	61.04

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域 (c)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

		重要度 (高)		重要度 (低)	
満足度 (高)	満足度 (低)	a	(b+)	b	c
		(a+)	(c+)	(a-)	(c-)

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
食品衛生等指導・食の安全推進事業	(I) 食品衛生上の危害発生を未然に防止し、市民の食の安全を確保する。 (II) 食品等関連事業者等の監視指導を1,419回実施した。また、消費者等を対象とした衛生講習会を24回実施し、956人の参加があった。 (III) 今後も倉敷市食品衛生監視指導計画に基づき、継続して実施する。	9,864
残留農薬・動物用医薬品検査事業	(I) 迅速かつ正確な検査により市民の食の安全・安心を確保する。 (II) 市内を流通する農産物等22件について、残留農薬等延べ7,576項目を検査した。 (III) 引き続き検査を継続するとともに、分析法の妥当性に関する検証試験を実施する。	26,789
食育推進事業	(I) 市民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育む。 (II) 関係団体・機関との連携協働における「くらしき3ベジプロジェクト」の推進をした主なイベント等は、10回13,246人。 (III) くらしき健幸プランに基づき、継続して実施する。	1,356
学校における食育の推進	(I) 学校教育活動全体を通じて、児童生徒が望ましい食習慣を身につけることができるようにする。 (II) 食育動画をはじめとする指導資料を活用し、各校で食に関する指導を継続的に行った。また令和6年度に学校給食で使用する地場産物についてや環境保全や食品ロスの視点をもった指導教材を作成した。 (III) 継続して実施する。	511

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-3 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けられている

### 市の施策

だれもが安心して利用することができる救急・医療環境を整える

### 基本方針

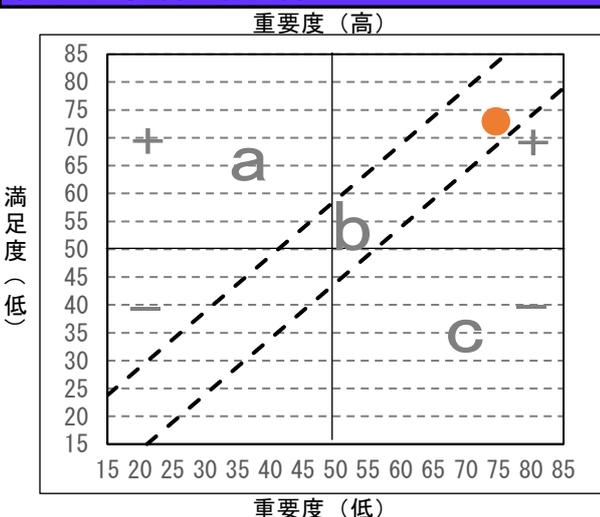
- 倉敷市立市民病院においては、働きやすい環境整備などにより医療体制を強化し、地域の中核病院として、引き続き安全・安心な医療を提供していきます。
- 医師会などとの連携をさらに強化し、救急医療体制の確保・充実に一層努めるとともに、かかりつけ医制度の普及啓発を行い、救急医療機関の適正な利用について市民の理解を深めます。
- 応急手当講習を継続的に開催し、救急車が来るまでの応急手当ができる市民を増やします。また、車両及び資器材の整備を推進するとともに、質の高い救急救命士と救急隊員を育成し、救命率の向上をめざします。
- ★新たな感染症や大規模災害などの非常時に備えて健康危機管理体制の強化を図り、平常時から自分の健康を守るための意識啓発を行うとともに、適切な受診行動につながるよう正確な情報の発信・伝達に努めます。

### 数値目標

まちづくり指標	身近にかかりつけ医がいる人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「あなたは身近にかかりつけ医がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナウイルス感染症の流行が、かかりつけ医に対する意識の高まりに寄与したものと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) 地域医療普及啓発事業等を通じ、引き続きかかりつけ医に対する意識を高める。	

まちづくり指標	応急手当講習会（AEDの使用を含む心肺蘇生法、止血法等）を受講した人の割合	
算出方法	応急手当講習会の受講者数／市の人口×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナ流行による市民生活の変化で、受講者数がコロナ流行前に回復せず目標値を下回ったと考えられる。	
(II) 今後の取組方針	(II) インターネット、SNS等を活用した広報を進め、応急手当講習会の受講者数増加を目指す。	

### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	72.92	74.63

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高) <グラフの見方>

満足度 (高)	a	(b+)
満足度 (低)	(a-)	b
	重要度 (低)	重要度 (高)

- a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
  - b: 重要度に見合った満足度が得られている領域
  - c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域
- ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)
- + : 重要度が平均値より高い部分
  - : 重要度が平均値より低い部分
- a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
市民病院医療体制の充実	(Ⅰ) 働きやすい環境整備などにより医療体制充実を図り、安定的な医療を提供する。 (Ⅱ) 退職者があった場合等にも、速やかに新たに医師、看護師等の必要な人材を確保することで、安定した医療を提供した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
休日夜間在宅当番医等運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における初期救急診療を確保する。 (Ⅱ) 休日診療18,525人、夜間診療692人、休日歯科診療762人の診療を各地区で行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	57,057
病院群輪番制病院運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における二次救急診療を確保する。 (Ⅱ) 病院群輪番制病院運営事業、小児救急医療支援事業、協力病院当番制病院運営事業を実施し、医療体制を確保した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	48,576
休日夜間急患センター運営事業	(Ⅰ) 休日夜間における初期救急診療を確保する。 (Ⅱ) 休日診療7,268人、夜間診療4,687人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	102,807
★ 高梁川流域地域医療普及啓発事業	(Ⅰ) 医療の機能分化に対する知識を深め、適切な地域医療環境の構築を図る。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域において、地域医療の普及啓発を行う団体に助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	345
高梁川流域救急隊員合同研修事業	(Ⅰ) 救急隊員の質の向上を図る。 (Ⅱ) 備中地区救急隊員研修会を2回開催し、「大動脈緊急症」、「救急隊員による研究、学会発表及び論文作成について」をテーマに、備中地区の救急隊員計66名が参加した。また、消防職員安全管理教育研修会を2回開催し、「ヒューマンエラーについて」、「消防の現状と課題～より良い職場環境を目指して～」をテーマに、備中地区の消防職員計70名が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	41
救急高度化推進整備事業	(Ⅰ) 救命率の向上を図る。 (Ⅱ) 救急救命士67人を再教育のために実習へ派遣し、6人を技術取得のために実習へ派遣した。また、高規格救急自動車を2台更新した。応急手当の講習を226回開催し、3,405人が受講した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	117,718
指定難病医療支援事業	(Ⅰ) 国が指定した難病の医療費助成に係る各種申請・届出の受付を行い、難病患者へのサービスの質の向上を図る(岡山県からの移譲事務)。 (Ⅱ) 各種申請・届出の受付を行い、岡山県への進達を行った。また申請・届出時に保健師等が面接を行い、患者の情報収集を行うとともに、個別の相談に応じた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,140
小児慢性特定疾病医療支援事業	(Ⅰ) 長期間にわたる治療が必要な小児慢性特定疾病患児について、その医療費を公費負担することにより、患者家族の負担を軽減する。 (Ⅱ) 指定医療機関における医療支援事業の一部を公費で負担するとともに、児童等自立支援員を配置し、相談支援事業等を行った。また、自立支援事業の一環として、児童や保護者の交流会を開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	157,764
難病患者家族支援事業	(Ⅰ) 保健・医療・福祉の分野にわたる総合サービスを提供し、難病患者の安定的療養生活の確保とその家族の生活の質の向上を図る。 (Ⅱ) 在宅療養支援計画を作成し、療養生活に関する情報提供を行うとともに、保健師・看護師等が患者宅を訪問し、相談・指導・助言等を行った。また、療養上の不安解消を図るため、医療福祉相談会や患者・家族交流会を開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	978
骨髄バンク推進事業	(Ⅰ) 骨髄移植等に関する正しい知識の普及啓発を行うことで、市民の理解を深め、骨髄バンク事業の推進を図る。 (Ⅱ) 保健所だよりや広報くらしきによる市民への周知活動を行った。また、ドナーや事業所への助成金を支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	812
★ 地域健康危機管理体制推進事業(情報提供)	(Ⅰ) 緊急時に迅速かつ有効な対応ができるよう健康危機管理体制を強化する。 (Ⅱ) 平時の保健活動において、地区組織の活動の場等で、関連するリーフレット等を活用する等し、住民の災害に対する意識の向上や自ら命を守るためにとるべき行動の理解、さらに住民間の互助につながるよう働きかけを行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-4 障がい者が積極的に社会参加でき、地域の人と安心してともに暮らせるようになっている

### 市の施策

障がい者が社会参加でき、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる生活を支援する

### 基本方針

- ・介護者の負担の軽減も踏まえ、在宅生活を支援するサービスの充実に努め、障がい者の生活ニーズに応じた適切なサービスの提供をめざします。
- ★一般就労が困難な障がい者にとって、重要な役割を担っている福祉的就労を行う事業所・作業所への支援を強化し、職業訓練に関する情報提供を充実させるなど、障がい者の就労訓練の場の充実を図ります。
- ★障がい者やその養護者への理解を広げる周知・啓発活動に努めるとともに、障がい者への虐待防止、養護者に対する相談支援体制を強化し、すべての障がい者が人権を護られ、安心して暮らすことのできるまちをめざします。
- ★医療機関や入所施設から地域生活への移行を促進するために、居宅介護の支援や、生活の場のひとつとして有効なサービスであるグループホームの充実を図るなど、希望する障がい者が地域で生活できる環境づくりを進めます。
- ★障がい者が障がいの状況に応じた多様な形態での勤務ができるよう、企業や事業所に一層の理解・協力を求めるなど、障がい者の就労定着をめざします。
- ・障がい者自身が気軽に相談でき、福祉制度や生活に関してニーズに沿った適切な情報を必要なときに入手できるよう、関係機関との連携を強化するなど、相談支援体制の充実を図ります。

### 数値目標

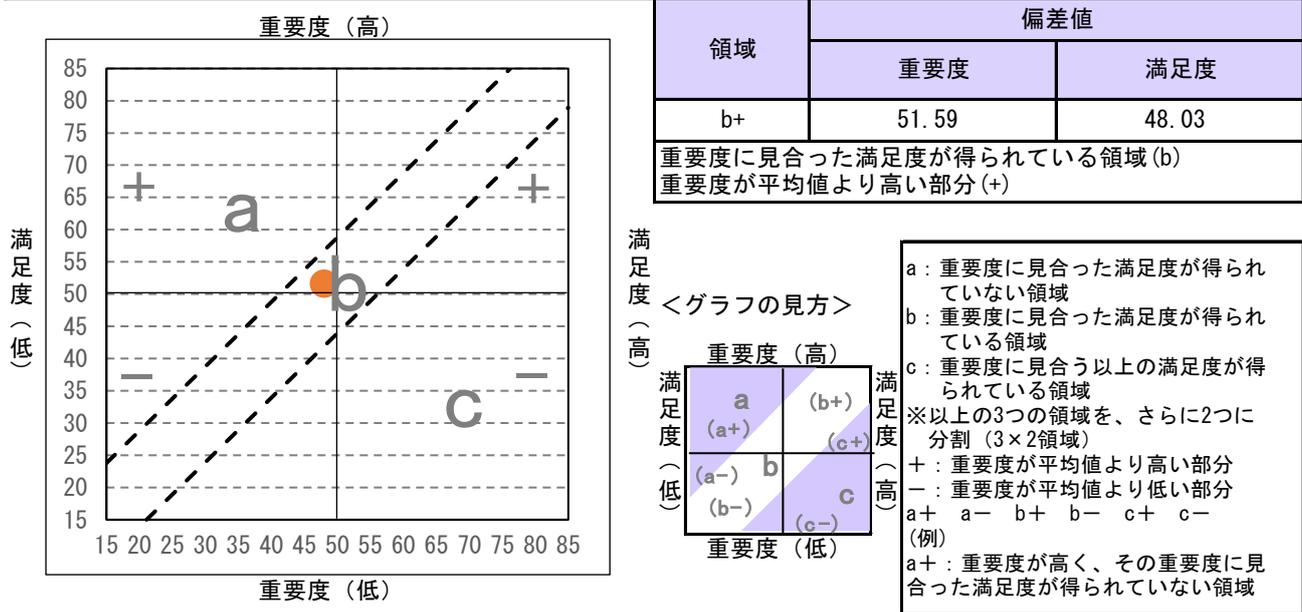
まちづくり指標	障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思っている障がい者や家族の割合																						
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、倉敷市の障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思いますか」という設問に対して、『そう思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>障がい福祉サービスにより地域全体で支えられていると思っている障がい者や家族の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>27</td> <td>22.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>27</td> <td>25.3</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>27</td> <td>28.3</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>32</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>32</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>32</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H30	27	22.5	R2	27	25.3	R5	27	28.3	R7	32	-	R9	32	-	R12	32	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
H30	27		22.5																				
R2	27	25.3																					
R5	27	28.3																					
R7	32	-																					
R9	32	-																					
R12	32	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 各事業所の相談支援体制が機能していると考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 関係機関の連携を図りながら、身近な窓口の充実と専門的な支援へとつなげる体制づくりを推進する。																						

まちづくり指標	生活の場所に満足している障がい者の割合																						
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、現在の生活の場所に満足していますか」という設問に対して、『満足している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>生活の場所に満足している障がい者の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>82</td> <td>78.7</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>82</td> <td>80.8</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>82</td> <td>80.1</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>85</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>85</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R12</td> <td>85</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H30	82	78.7	R2	82	80.8	R5	82	80.1	R7	85	-	R9	85	-	R12	85	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
H30	82		78.7																				
R2	82	80.8																					
R5	82	80.1																					
R7	85	-																					
R9	85	-																					
R12	85	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	B																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 地域生活支援拠点等の整備を推進している一定の成果と考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 必要に応じたサービスが受けられる環境づくり、その人らしく生活するための日中活動の場の充実に努める。																						

まちづくり指標	社会参加できていると思う障がい者の割合	
算出方法	障がい者アンケート調査（隔年実施）で、「あなたは、社会に参加できていると思いますか」という設問に対して、『参加できている』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症による制限の影響が残っているとみられる。 (II) 建築物等のバリアフリー化、意思疎通支援体制の充実等、あらゆる施策をより一層進め、社会的障壁の除去を図る。	

まちづくり指標	一般企業の障がい者雇用率	
算出方法	岡山労働局が毎年調査する「一般企業の障がい者雇用率」	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症による雇用状況の悪化の影響が残っているとみられる。 (II) 公共職業安定所や倉敷障がい者就業・生活支援センター等と連携することにより、就業機会の拡大に努める。	

### 市民の重要度・満足度



### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
居宅介護等訪問系サービス事業	(I) 障がい者の日常生活の充実を図る。 (II) 障がい者の居宅に訪問し、食事・入浴等の身体介護や家事援助等日常生活全般にわたる援助を行った。訪問入浴事業利用者数34人、身体介護・家事援助等利用者数15,896人、重度訪問介護利用者数528人 (III) 障がい者の生活を総合的に支えるために必要な事業であり、継続して実施する。	828,641

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
日中活動系サービス事業	(Ⅰ) 障がい者の日中活動の場を確保し、介護者の一時的な休息を図る。 (Ⅱ) 日中活動系サービスを実施し、障がい者の生活能力の向上及び介護者の負担軽減を図った。生活介護事業利用者数14,389人、日中一時支援事業利用者数1,623人、短期入所利用者数2,768人 (Ⅲ) 障がい者の生活能力の向上及び介護者の負担軽減を図るために必要な事業であり、継続して実施する。	3,736,587
短期入所サービス拡大促進事業	(Ⅰ) 医療的ケア児者、重症心身障がい児者の介護者の負担を軽減する。 (Ⅱ) 医療的ケア児等の介護を行う家族の負担軽減を図った。10事業所、利用者76人、延べ1,528日 (Ⅲ) 医療的ケア児の増加が見込まれるため必要な事業であり、継続して実施する。	16,678
★ 就労継続事業所経営支援事業	(Ⅰ) 就労継続支援A型事業所の経営改善を図る。 (Ⅱ) 就労継続支援事業所の経営者、幹部などに対して、経営改善に向けたセミナーを開催した。第1回(令和5月12月6日)25名参加、第2回(令和6年3月22日)85名参加。A型事業所の新規指定に伴う審査会は、事前協議依頼が無かったため、未開催。 (Ⅲ) 障がい者の就労を適切に支援するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	616
★ 地域活動支援センターⅢ型等事業	(Ⅰ) 一般就労が困難な障がい者の社会的自立の促進を図る。 (Ⅱ) 障がい者の社会復帰及び自立並びに社会経済活動への参加の促進を図るため、地域活動支援センターⅢ型等に対し、運営費等を助成した。地域活動支援センターⅢ型5か所、作業所2か所 (Ⅲ) 障がい者の就労及び社会参加を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	61,968
★ 就労継続支援事業	(Ⅰ) 障がい者が働くために必要な知識や能力の習得を図る。 (Ⅱ) 一般企業等での就労が困難である者に就労の場を提供することで、就労についての能力、意欲の増進を図った。就労継続支援事業利用者数22,981人 (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	3,113,041
★ 障がい者権利擁護事業	(Ⅰ) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し障がい者の権利擁護を図る。 (Ⅱ) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し障がい者の権利擁護を図る。関係機関や専門職団体と連携し、障がい者虐待に対応する。成年後見制度の相談21件、市長申立23件、支援に必要な会議等を行い、制度利用を促進する。 (Ⅲ) 障がい者やその養護者が権利擁護について継続的に相談できるよう、中核機関として関係各機関と連携し、周知啓発や支援体制整備を進める。	23,988
★ 地域移行支援事業	(Ⅰ) 入所施設や病院に入所している障がい者の地域移行を推進する。 (Ⅱ) 入所施設や病院に入所している障がい者に対し、入所施設や精神科病院への訪問し、地域における生活に移行するための相談支援等を行った。地域移行支援事業利用者数10人 (Ⅲ) 入所施設や病院に入所している障がい者の地域移行を促進するため必要な事業であり、継続して実施する。	2,732
★ 地域定着支援事業	(Ⅰ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者の地域定着を図る。 (Ⅱ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者に対し、地域での生活の安定を図るため、常時の連絡体制を確保し緊急の事態等に相談、訪問等の対応を行った。地域定着支援事業利用者数62人 (Ⅲ) 入所、入院から地域で生活するようになった障がい者の地域での生活の安定を図るため必要な事業であり、継続して実施する。	2,618
★ 共同生活援助事業	(Ⅰ) 地域で生活する障がい者の生活の場を提供する。 (Ⅱ) グループホームでの生活を望む知的、精神障がい者等に対し、生活の場を提供し、居住における相談や日常生活上の援助を行った。共同生活援助利用者数5,597人 (Ⅲ) 共同生活援助は障がい者の地域移行を推進するために必要なサービスであり、継続して実施する。	1,049,801
★ 就労移行支援事業	(Ⅰ) 障がい者の就労移行支援を行う。 (Ⅱ) 就労を希望する障がい者に対し、一定期間就労支援を行うことで、必要な知識や能力の向上を図った。就労移行支援事業利用者数1,488人 (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	281,529

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 就労定着支援事業	(Ⅰ) 障がい者の就労定着支援を行う。 (Ⅱ) 一般就労に移行した障がい者に対し、就労の継続を図るため、関係機関への連絡調整や相談、指導及び助言等の必要な支援を行った。就労定着支援事業利用者数754人 (Ⅲ) 障がい者の社会生活を支えるサービスであり、継続して実施する。	22,871
★ 障がい者就業・生活支援センター事業	(Ⅰ) 障がい者の就労支援・就労定着支援を行う。 (Ⅱ) 障がい者の雇用の促進と職場定着を図るため、就労に関する相談・情報提供、登録利用者の就業及び生活に対する支援、助言等を行った。利用者延べ人数6,601人 (Ⅲ) 障がい者の就労を促進するうえで必要な事業であり、継続して実施する。	5,534
障がい者に対する相談支援事業	(Ⅰ) 障がい者が地域で生活するために必要な情報提供等を行う。 (Ⅱ) 地域の障がい者等に対し、地域生活を行う上での諸問題について、訪問等により状況の把握、必要な情報の提供や援助を行った。利用者数：児島14,272人、玉島13,222人、水島12,537人、倉敷7,938人、倉敷西部11,827人、真備10,239人、倉敷発達障がい者支援センター2,562人、ゆめばる4,281人 (Ⅲ) 障がい者児の生活を総合的に支えるために必要な事業であり、継続して実施する。	347,256
高梁川流域障がい児保護者支援事業	(Ⅰ) 障がい児の保護者を継続的に支援する。 (Ⅱ) 障がい児の保護者を継続的に支援するため、支援者を育成した。相談支援ファイル実施者養成講座修了者21名、出前茶話会(11回、参加者75人)、草の根講座(10回、参加者146人) (Ⅲ) 障がい児の保護者を継続的に支援するため継続して実施する。	3,600
★ 高梁川流域障がい者フォーラム開催事業	(Ⅰ) 障がい者の地域生活を支えるための障がいに対する理解の普及啓発 (Ⅱ) 障がい当事者や家族、障がい福祉関係者が障がい者の地域生活をテーマに、有観客での対談フォーラムや展示等を実施した(参加者数：162名)。FMくらしき及びYoutubeで対談内容を配信した(動画再生回数：667回)。 (Ⅲ) 障がい者に対する理解を深める必要があり、継続して実施する。	1,486
★ 意思疎通支援事業	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 (Ⅱ) 手話通訳者の派遣等により、聴覚、音声、言語機能等の障がいを有する者が他者とのコミュニケーションを図る支援を行った。手話通訳・要約筆記利用件数859件、専任手話通訳者対応件数2,315件 (Ⅲ) 聴覚障がい者等のコミュニケーションを継続して支援するために必要な事業であり、継続して実施する。	18,302
生活支援事業(視覚障がい者生活訓練等事業)	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 (Ⅱ) 視覚障がい者の自立更生と社会参加を促進するため、必要な相談・指導・訓練を行った。延べ利用者数258人 (Ⅲ) 視覚障がい者に日常生活を支える事業であり、継続して実施する。	1,909
★ 社会参加促進事業	(Ⅰ) 障がい者の社会参加の促進 (Ⅱ) 障がい者の自立と社会参加の促進を図るため、障がい者の自動車運転免許証の取得や自動車改造等への助成を行った。介護用自動車改造費補助27件、本人運転用自動車改造扶助費28件、運転免許証取得扶助費47件 (Ⅲ) 障がい者の社会参加を促進する必要があり、継続して実施する。	13,607
送迎用バス等安全装置導入支援事業	(Ⅰ) 送迎用バス等への子ども置き去り事故の防止。 (Ⅱ) 障害児通所支援事業所において、置き去り事故の防止等子どもの安全を守るため、送迎用車両への安全装置等の設置に係る経費の補助を行った。補助件数：22事業所、39台 (Ⅲ) 令和6年度からの装置設置の完全義務化に向けて、国の補助制度を活用し、既存車両への設置が令和5年度に完了した。	5,770
精神保健福祉手帳・医療支援事業	(Ⅰ) 精神障がい者の自立、社会復帰の促進及び適正な医療、通院治療の促進 (Ⅱ) 精神障がい者保健福祉手帳所持者4,945人、自立支援医療(精神通院)受給者数9,678人 (Ⅲ) 県事業であり、今後も継続して実施する。	1,644

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-5 様々な事情により困窮している人が、自立できるよう地域で支え合っている

### 市の施策

困窮している人が自立できるよう地域で生活を支援する

### 基本方針

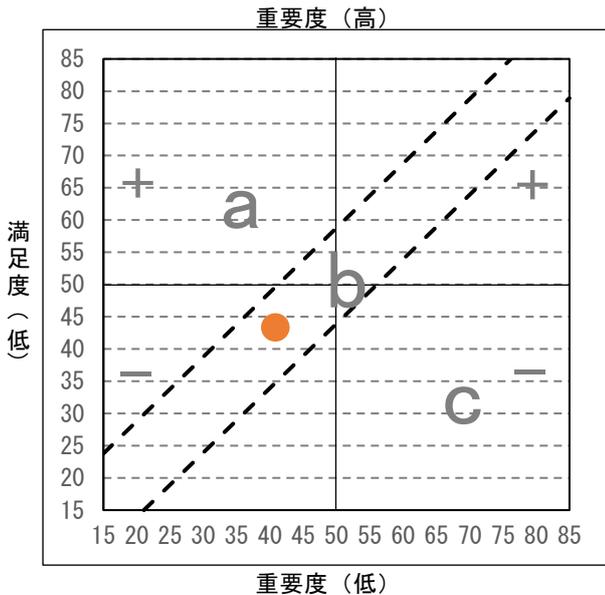
- ・生活に困窮している人が、抱える問題を複雑化・深刻化させる前に身近な地域住民が気づき、支援機関等へつなぐことで、孤立を防ぎ自らの意思で自立への行動がとれるよう、地域全体で見守り支える体制を図ります。
- ・様々な困窮の状況に応じて生活支援と合わせた就労支援に取り組み、生活困窮者が安定した職業に就くことをめざします。
- ・生活保護制度の円滑な運用に努め、自立・就労に向けた支援を強化し、だれもが健全でその人らしく生活できるまちづくりにつなげます。

### 数値目標

まちづくり指標	倉敷市生活自立相談支援センターの新規相談受付件数																						
算出方法	市で集計																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>新規相談受付件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>2,000</td><td>997</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2,000</td><td>12,839</td></tr> <tr><td>R4</td><td>2,000</td><td>11,933</td></tr> <tr><td>R5</td><td>2,000</td><td>6,737</td></tr> <tr><td>R7</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	2,000	997	R3	2,000	12,839	R4	2,000	11,933	R5	2,000	6,737	R7	2,000	2,000	R12	2,000	2,000
年度	目標値		実績値																				
R1	2,000		997																				
R3	2,000		12,839																				
R4	2,000	11,933																					
R5	2,000	6,737																					
R7	2,000	2,000																					
R12	2,000	2,000																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 社会経済の動向が主に影響しており、近年の一時的な急増は新型コロナ及び物価高騰等に起因すると考えられる。 (II) 事業の基幹業務は継続し、経済動向や国の生活困窮者支援対策を注視しながら事業規模の見直しを検討する。																						

まちづくり指標	倉敷市生活自立相談支援センターの就労支援対象者の就労・増収率																						
算出方法	市で集計																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>就労・増収率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>75</td><td>49.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>75</td><td>52.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>75</td><td>58.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>75</td><td>74</td></tr> <tr><td>R7</td><td>75</td><td>75</td></tr> <tr><td>R12</td><td>75</td><td>75</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	75	49.6	R3	75	52.2	R4	75	58.7	R5	75	74	R7	75	75	R12	75	75
年度	目標値		実績値																				
R1	75		49.6																				
R3	75		52.2																				
R4	75	58.7																					
R5	75	74																					
R7	75	75																					
R12	75	75																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) コロナ禍の離職者支援のため就労支援員を増員したこと及び有効求人倍率の回復傾向が要因と考えられる。 (II) 世帯全体の課題の解決を図ることで、稼働能力のある方の就労の機会を確保できるよう支援を継続する。																						

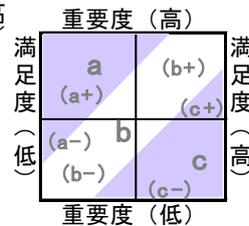
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	43.34	40.84

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)  
<グラフの見方>



a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
民生児童委員活動の促進	(I) 地域でお困りの方と福祉をつなぐパイプ役となる、民生委員・児童委員の活動を促進する。 (II) 高齢者に関する相談支援: 7,781件、障がい者に関する相談支援: 552件、子どもに関する相談支援: 3,599件、その他の相談支援3,146件と合計15,078件の相談支援を行った。 (III) 今後も地域福祉の増進に必要なため継続して実施する。	52,874
生活困窮者自立支援事業	(I) 生活に困窮している方に対して、個々の状況に応じた支援を行い、自立の促進を図る。 (II) 新規相談6,737件、プラン作成3,968件、就労支援対象者2,720件、就労・増収者2,007件、就労準備支援事業の新規利用者は48人、住居確保給付金は26人が利用決定。一時生活支援事業は33人が利用した。 (III) 支援の充実を図りながらセンターを相談窓口とし、就労、住居確保、家計支援等、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を継続して実施する。	82,879
総合的就業・生活支援事業、生活相談員事業	(I) 離職を余儀なくされた方々などの、生活の安定及び再就職の促進を図る。 (II) 「職業情報提供コーナー」は、2,409人が利用し、1,393件の職業相談、291件の職業紹介を実施した。また、「ワークプラザたましま」は、6,907人の利用があり、職業相談・紹介は、それぞれ4,981件、1,333件となった。 (III) より多くの方に利用していただけるよう、広報等に努め、継続して実施する。	7,065
生活保護適正実施推進事業	(I) 生活保護制度を適正に実施することで、生活困窮者の自立につなげる。 (II) 面接相談員、就労支援相談員、レセプト点検員、年金調査専門員を配置。生活困窮者への面接相談を1,558件実施し、保護受給者等に対しては就労支援を実施。レセプトの過誤確認により医療扶助費を66,586千円、年金受給権の調査・判明により生活扶助費を2,969千円削減。健康管理支援事業として医療機関への受診勧奨等を実施。 (III) 継続して実施する。	68,686

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-6 高齢者が地域で安心して暮らすことができる

### 市の施策

高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことのできる環境を整える

### 基本方針

- ★ 高齢者の実態を把握し、専門的な介護予防プログラムの実施や地域での介護予防の普及啓発を図り、一人ひとりの高齢者の心身の状態や生活環境などに応じた総合的な介護予防を推進します。
  - ・ 各支援機関と連携協力して相談体制や支援体制を充実させ、高齢者の虐待防止を進めます。
- ★ 認知症に対する理解の促進や予防・早期発見のための知識の普及を図るとともに、認知症早期から本人や家族を支援するなどサポート体制の整備を進め、認知症のある人が地域で安心して幸せに暮らせることをめざします。
  - ・ 成年後見制度や相談窓口の周知を図るなど、高齢者の権利利益を擁護する体制の整備を進めます。
- ★ 地域で暮らす高齢者への支援を強化し、市民、団体などの協力のもと、地域全体で高齢者を見守り支えるネットワークを構築します。
- ★ 在宅医療・介護の連携強化を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して医療や介護を受けられる環境づくりを進めます。

### 数値目標

まちづくり指標	高齢者実態把握調査者数																						
算出方法	高齢者支援センターの「介護予防把握事業」の実施延べ数																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>高齢者実態把握調査者数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>20,000</td><td>18,862</td></tr> <tr><td>R3</td><td>20,000</td><td>19,280</td></tr> <tr><td>R4</td><td>20,000</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>R5</td><td>20,000</td><td>21,231</td></tr> <tr><td>R7</td><td>20,000</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>R12</td><td>20,000</td><td>21,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	20,000	18,862	R3	20,000	19,280	R4	20,000	20,000	R5	20,000	21,231	R7	20,000	20,000	R12	20,000	21,000
年度	目標値		実績値																				
R1	20,000		18,862																				
R3	20,000	19,280																					
R4	20,000	20,000																					
R5	20,000	21,231																					
R7	20,000	20,000																					
R12	20,000	21,000																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 高齢者支援センターの重点取組方針の中に高齢者実態把握調査の強化を掲げ、各センターが把握に努めたため。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 支援が必要な高齢者の早期発見及び健康状態の把握のため、継続実施する。																						

まちづくり指標	高齢者支援センターの相談件数																						
算出方法	高齢者支援センターの「総合相談」の件数																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>高齢者支援センターの相談件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>102,500</td><td>101,230</td></tr> <tr><td>R3</td><td>102,500</td><td>108,102</td></tr> <tr><td>R4</td><td>102,500</td><td>104,195</td></tr> <tr><td>R5</td><td>102,500</td><td>110,395</td></tr> <tr><td>R7</td><td>102,500</td><td>102,500</td></tr> <tr><td>R12</td><td>102,500</td><td>103,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1	102,500	101,230	R3	102,500	108,102	R4	102,500	104,195	R5	102,500	110,395	R7	102,500	102,500	R12	102,500	103,000
年度	目標値		実績値																				
R1	102,500		101,230																				
R3	102,500	108,102																					
R4	102,500	104,195																					
R5	102,500	110,395																					
R7	102,500	102,500																					
R12	102,500	103,000																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	A																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 高齢者支援センターが身近な総合相談窓口として定着してきたため。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 引き続き地域の高齢者や家族などからの介護・健康・医療に関する総合相談窓口として、周知を図っていく。																						



施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 介護予防把握事業	(Ⅰ) 支援が必要な高齢者を把握し、必要な医療や介護サービスにつなげる。 (Ⅱ) 支援が必要な高齢者の早期発見・早期支援や地域ごとの課題を把握のために、在宅の高齢者を訪問した(令和5年度実績: 21,231件)。 (Ⅲ) 継続して実施する。	60,926
★ 介護予防・生活支援サービス事業	(Ⅰ) 要支援者等に対して、介護予防を目的に、生活機能の改善等を図る。 (Ⅱ) 要支援者等の利用者に対し、訪問型サービス費13,971件、通所型サービス費(短期集中健幸アップ教室を含む。)30,016件等を支給した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,156,469
★ 介護予防普及啓発事業	(Ⅰ) 介護予防の観点から身体機能の向上や健康意識の啓発を図る。 (Ⅱ) 総合福祉事業団では、転倒予防教室等を1,148回、18,912人に実施。高齢者支援センターでは介護予防・転倒骨折予防教室: 528回、6,139人、栄養改善教室を83回、1,048人に実施。 (Ⅲ) 継続して実施する。	119,318
いきいきポイント推進事業	(Ⅰ) 社会参加を通じた健康増進や地域貢献につなげる。 (Ⅱ) ボランティア活動に取り組んだ251人に対し、活動実績に応じてポイントを付与し、そのうち申請者には転換交付金を交付した。 (Ⅲ) 広報やマッチングを強化し、継続して実施する。	5,587
訪問看護師確保対策事業	(Ⅰ) 訪問看護ステーションの運営を強化する。 (Ⅱ) 在宅医療・介護のサービス提供を行う訪問看護ステーションの運営強化を目指し、訪問看護師の人材確保や定着支援のための職場体験を行った。学生等向けの職場体験参加者23人。看護有資格者の職場体験参加者19人、内7人就職 (Ⅲ) 在宅医療・介護サービスの提供を現場で担う訪問看護師を一人でも多く確保し定着させるため、継続して実施する。	1,374
★ 認知症初期集中支援事業	(Ⅰ) 認知症の早期発見や早期支援につなげる。 (Ⅱ) 初期の認知症や疑いのある方、その家族9名に対し早期診断、早期対応に繋げるための支援として延べ13回の訪問を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,186
★ 認知症サポーター養成事業	(Ⅰ) 認知症の正しい理解の促進と、ともに生きる地域づくりを推進する。 (Ⅱ) 地域での見守り等を担う認知症サポーター・マイスターを養成した。実績: 認知症サポーター3,722人、マイスター19人 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,483
★ 認知症カフェ・認知症地域支援推進事業	(Ⅰ) 認知症の人の社会参加を促進するとともに、家族の介護負担軽減を図る。 (Ⅱ) 認知症カフェ26か所。運営者同士の交流会を開催し、日頃の運営を振り返る機会を設け、運営者同士の繋がりの構築を行い、運営スキルの向上を図った。本人同士が思いを語り合う場として、本人ミーティングを6回実施した。同時に家族介護者のつどいを開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,011
★ 認知症高齢者安全・安心確保事業	(Ⅰ) 家族の介護負担軽減とともに、認知症の人の社会参加を促進する。 (Ⅱ) 認知症高齢者等が行方不明となった場合に早期発見につながるよう、GPSを用いた位置情報提供サービスの導入費用の助成等を行った(実績: GPS助成9件等)。 (Ⅲ) 広報に力を入れ、継続して実施する。	535
★ 認知症の人と共に生きる地域づくり推進事業	(Ⅰ) 認知症マイスターの活動促進と、認知症共生社会の推進を図る。 (Ⅱ) 補助金交付要綱を作成し、交付対象の要件を満たす団体に対して広報を行った(令和5年度実績0件)。 (Ⅲ) 広報に力を入れて、継続して実施する。	0
高齢者権利擁護事業	(Ⅰ) 虐待防止や成年後見制度の利用を促進し高齢者の権利擁護を図る。 (Ⅱ) 法律専門家とアドバイザー契約により法的判断を行ったケースも含め、高齢者虐待に105件対応した。また、認知症高齢者等への成年後見の市長申立てを83件、後見人等への報酬負担が困難な高齢者等に報酬助成を252件行った。 (Ⅲ) 高齢者虐待防止対策を継続して実施するとともに、成年後見制度の利用促進を計画的に実施する。	74,301

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
老人福祉施設整備助成事業	(Ⅰ) 高齢者が必要とするサービスを提供できる基盤整備の推進を図る。 (Ⅱ) 介護施設等に対し改修費等の一部補助を行い、介護医療院への転換整備、介護職員の宿舍施設整備、看護小規模多機能型居宅介護事業所の創設、非常用自家発電設備整備を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	232,024
★ 地域ケア会議推進事業	(Ⅰ) 地域の情報共有や課題解決を通じた地域づくりを推進する。 (Ⅱ) 困難事例検討会議を169回、地域ケア個別会議を150回、小地域ケア会議を295回、地域ケア会議を15回実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,917
★ 高齢者支援センター運営事業	(Ⅰ) 住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、地域包括ケアを推進する。 (Ⅱ) 高齢者を支援する総合窓口として、高齢者支援センター25か所、サブセンター3か所を設置。総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント等を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	433,375
★ 地域支え合い活動継続支援事業	(Ⅰ) 住民主体の支え合い活動の継続を支援し、地域の支え合いを促進する。 (Ⅱ) 補助金交付要綱を作成し、交付対象の要件を満たす団体に対して広報を行った。(令和5年度実績0件) (Ⅲ) 広報に力を入れて、継続して実施する。	0
給食サービス事業	(Ⅰ) ひとり暮らし高齢者等に対し、食生活の安定・改善と安否確認を行う。 (Ⅱ) 年間配食数は479,076食、年度末利用者は4,005人 (Ⅲ) 高齢者等の食生活の安定・改善や健康の増進、定期的な安否確認ができるよう、継続して実施する。	154,120
★ 緊急通報装置設置事業	(Ⅰ) 高齢者の日常生活での不安感を解消し、緊急時の連絡体制を整備する。 (Ⅱ) ひとり暮らし高齢者等が、緊急時にボタンひとつで緊急通報管理センターに自動的に通報することのできる緊急通報装置を設置することで、日常生活での不安感を解消し、緊急時の連絡体制を整備した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,892
★ 地域リハビリテーション活動支援事業	(Ⅰ) 専門職との連携を強化し、高齢者の自立支援や介護予防を推進する。 (Ⅱ) 通いの場への専門職派遣は、10か所で実施、延べ368名が参加した。また、高齢者支援センターが実施する地域ケア個別会議にアドバイザーとして派遣し、25回実施、150件の支援内容を検討した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	582
★ 医療・介護連携フレイル予防事業	(Ⅰ) 高齢者の疾病の発症と重症化予防及び介護予防を促進する。 (Ⅱ) 訪問支援を中心としたハイリスクアプローチは448回、305人に実施。健康教育・健康相談及びフレイル状態の把握のためのポピュレーションアプローチは216回、2,918人に実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,912
★ 在宅医療介護連携推進事業	(Ⅰ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築する。 (Ⅱ) 医療・介護の専門職を招き、検討会を2回開催。連携に関する課題の抽出と目指す姿を決定した。医師会との研修も2回実施。 (Ⅲ) 継続して実施する。	3,886
★ 高梁川流域医療介護広域連携推進事業	(Ⅰ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築する。 (Ⅱ) 認知症サポーターを養成する講師役の認知症キャラバン・メイト養成研修を実施した。(倉敷市30名、高梁川流域からの参加者33名) (Ⅲ) 継続して実施する。	23

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-7 尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができる

### 市の施策

必要な人が質の高い介護サービスを受けられる体制を整える

### 基本方針

- 特別養護老人ホームをはじめとする介護施設などの整備については、在宅サービスとのバランスを考慮し、県や関係機関と連携を図りながら、必要なサービスが提供できるよう取り組みを進めます。また、在宅生活を支えるため、多様な地域密着型サービスや在宅生活を支える24時間ケアの拡充を進め、在宅で介護をしている家族への支援を強化します。
- 介護事業者に対するチェック体制の充実や事業者による情報公開の推進、サービス評価の仕組みを構築し、適正な事業運営を確保することで、介護保険制度の継続につなげます。
- 介護が必要な高齢者や介護者などの介護サービス利用者が、多様なメニューの中から最も適したサービスを選択できるよう、わかりやすく適切な情報提供を行います。
- 介護従事者の育成・確保に向けての取り組みを強化し、尊厳が守られながら「必要な人が質の高い介護サービスを受けることができる環境」をつくります。

### 数値目標

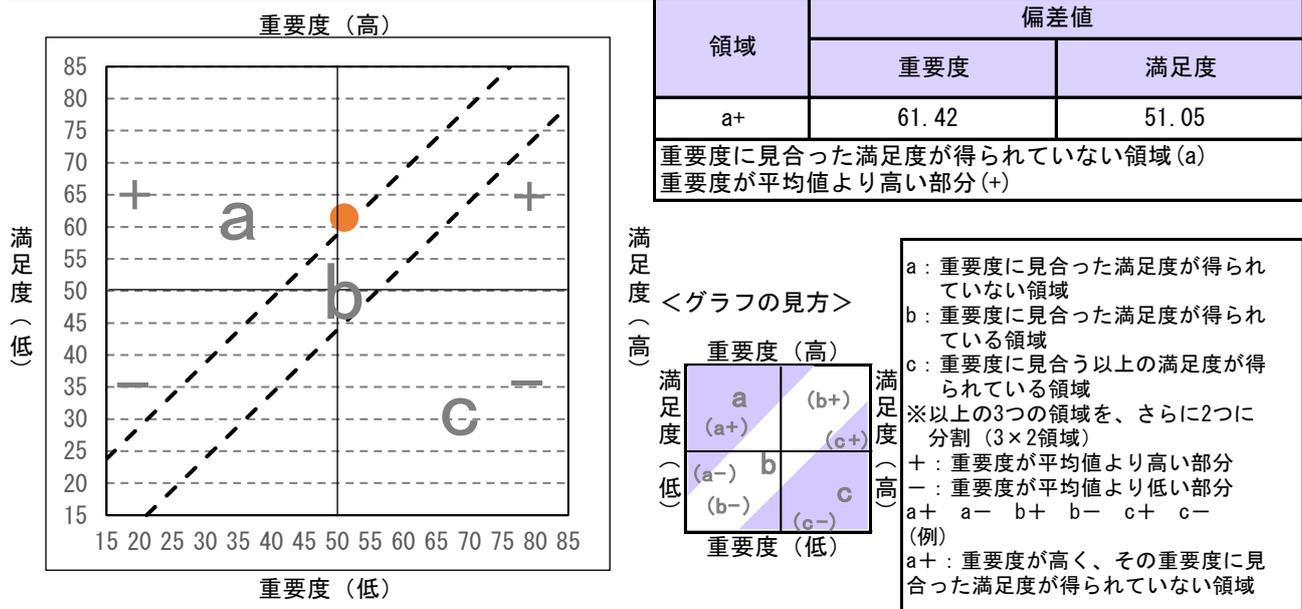
まちづくり指標	特別養護老人ホームの入所申込者に占める在宅者の割合																						
算出方法	岡山県で集計要介護3以上の在宅者（医療機関に入院中の人を含む）に該当する入所申込者の数／要介護3以上の入所申込者の総数×100																						
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>特別養護老人ホームの入所申込者に占める在宅者の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>54</td><td>58.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>54</td><td>60.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>54</td><td>60.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>54</td><td>59.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>54</td><td>50</td></tr> <tr><td>R12</td><td>54</td><td>50</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	54	58.2	R3	54	60.9	R4	54	60.5	R5	54	59.7	R7	54	50	R12	54	50
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	54		58.2																				
R3	54	60.9																					
R4	54	60.5																					
R5	54	59.7																					
R7	54	50																					
R12	54	50																					
目指す方向性	↓																						
進捗状況	C																						
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 要介護3以上の入所申込者全体の高齢化に伴う、本人や家族による将来への備えとしての希望の表れと考える。																						
(II)今後の取組方針	(II) 介護保険事業計画等に基づき、地域密着型特別養護老人ホーム等の介護施設の基盤整備を行う。																						

まちづくり指標	尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合																			
算出方法	介護サービス利用者アンケート（隔年実施）で、「尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っていますか」という設問に対して、『尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>87</td><td>81.5</td></tr> <tr><td>R2</td><td>87</td><td>85.7</td></tr> <tr><td>R4</td><td>87</td><td>86.8</td></tr> <tr><td>R6</td><td>87</td><td>84.5</td></tr> <tr><td>R12</td><td>87</td><td>87</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H30	87	81.5	R2	87	85.7	R4	87	86.8	R6	87	84.5	R12	87	87
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
H30	87		81.5																	
R2	87	85.7																		
R4	87	86.8																		
R6	87	84.5																		
R12	87	87																		
目指す方向性	↑																			
進捗状況	—																			
(I)進捗状況の要因として考えられること	※調査は隔年実施。次回は令和7年1月に調査予定。																			
(II)今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和7年1月に調査予定。																			

まちづくり指標	家族に対して、必要な介護サービスが受けられていると思っている人の割合																			
算出方法	介護サービス利用者の家族アンケート（隔年実施）で、「必要な介護サービスが受けられていると思っていますか」という設問に対して、『必要な介護サービスが受けられていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100																			
みらい創生戦略	—	<table border="1"> <caption>家族に対して、必要な介護サービスが受けられていると思っている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>87.6</td><td>78.5</td></tr> <tr><td>R2</td><td>87.6</td><td>80.9</td></tr> <tr><td>R4</td><td>87.6</td><td>87.6</td></tr> <tr><td>R6</td><td>87.6</td><td>83</td></tr> <tr><td>R12</td><td>87.6</td><td>87.6</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H30	87.6	78.5	R2	87.6	80.9	R4	87.6	87.6	R6	87.6	83	R12	87.6	87.6
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																	
H30	87.6		78.5																	
R2	87.6	80.9																		
R4	87.6	87.6																		
R6	87.6	83																		
R12	87.6	87.6																		
目指す方向性	↑																			
進捗状況	—																			
(I)進捗状況の要因として考えられること	※調査は隔年実施。次回は令和7年1月に調査予定。																			
(II)今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和7年1月に調査予定。																			

まちづくり指標	職に対して、やりがいをもって従事できていると思っている介護サービス従事者の割合	
算出方法	介護サービス従事者アンケート（隔年実施）で、「介護の職に対してやりがいをもって従事できていると思いますか」という設問に対して、『介護の職に対して、やりがいをもって従事できていると思う』『どちらかというと思う』と答えた人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性		
進捗状況	—	
(I)進捗状況の要因として考えられること (II)今後の取組方針	※調査は隔年実施。次回は令和7年1月に調査予定。	

### 市民の重要度・満足度



### 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度決算額 (千円)
老人福祉施設運営助成事業	(I) 介護施設の基盤の充実を図る。 (II) 看護小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を開所した2法人2事業所及び介護療養型医療施設から介護医療院へ転換整備した1法人1事業所を対象に助成した。また、大規模修繕の際にあわせて介護ロボット・ICT機器の導入を行った2法人2施設を対象に助成した。 (III) 地域における多様な介護ニーズに対応できるサービス基盤の整備のため、継続して実施する。	120,479
介護基盤整備事業	(I) 要介護状態になっても、住み慣れた地域で継続して暮らせるようにする。 (II) 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) 2ユニット18床 (1法人) を整備した。 (III) 地域における在宅サービスとのバランスを考慮しながら、継続して実施する。	-
介護給付等費用適正化事業	(I) 介護給付費の適正化を図る。 (II) 事業所に対してはケアプラン点検員による5,176件の居宅介護サービス計画書の点検や適切なサービス提供指導を行い、利用者に対しては96,562人に費用の給付状況等を通知し、適切なサービス利用の普及啓発を行った。 (III) 事業所による適正なサービス提供や、被保険者による適切なサービス利用を促すため、継続して実施する。	17,571
介護従事者確保事業	(I) 介護人材の確保・定着と資質の向上を図る。 (II) 介護事業所の施設管理者等を対象とした介護職員キャリアパス導入支援研修や、若手職員を対象とした介護職員新人職員研修等を実施した。研修開催回数延べ7回、参加者数延べ102人。 (III) 慢性的な人材不足を抱える介護現場において、介護従事者の育成や定着を図るため、継続して実施する。	1,050

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## 保健・医療・福祉<結>

### めざすまちの姿

4-8 高齢者が生きがいをもって活動している

### 市の施策

高齢者の学びや活躍の場を充実する

### 基本方針

- ★ 高齢者が気軽に集い、仲間との出会い、交流の機会や異世代との交流が図られるよう、ふれあいの場の更なる推進によって、高齢者の孤独感や閉じこもりの解消に努めます。
- ・ 高齢者の学びに対するニーズを把握した学習機会の充実を図るとともに、情報提供をはじめとした支援により高齢者の主体的な学びを促進します。
- ★ 社会活動や地域活動、就業活動への参加を促進し、高齢者の活躍の場を広げる取り組みを充実します。

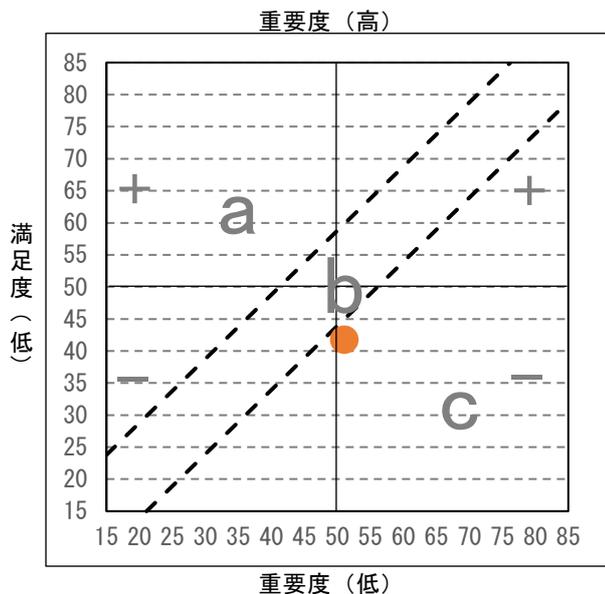
### 数値目標

まちづくり指標	シルバー人材センター会員数	
算出方法	シルバー人材センターの会員数（年度末）	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 定年の延長などの影響により、当センターへ就労する高齢者が減少したと思われる。 (II) 引き続き、広報等で会員を広く募集する。	

まちづくり指標	ふれあいサロンの実施か所数	
算出方法	「倉敷市ふれあいサロン活動促進事業」における委託サロン数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス対策の周知および活動内容や方法の工夫を支援したことで、サロン活動が継続できたため。 (II) 高齢者の健康づくりや介護予防、仲間づくりを推進するため、今後も継続して実施する。	

まちづくり指標	社会参加している高齢者の割合 ※社会参加の例：ボランティア、スポーツや趣味、グループ、学習活動、ふれあいサロンなど通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、仕事など	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）における属性で、65歳以上の人で、「あなたは、社会参加していますか」という設問に対して、『している』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の影響により、集う活動を控えている状況があると思われる。 (II) サロン等の高齢者が社会参加できる場の充実に努める。	

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	41.74	51.07

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域(c)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 (高)  
満足度 (低)  
重要度 (高)  
重要度 (低)

重要度 (高)	重要度 (低)
満足度 (高) a (a+)	満足度 (高) b (b+)
満足度 (低) c (c-)	満足度 (低) d (d-)

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的(I) / 令和5年度の主な実績(II) / 今後の方向性(III)	R5年度決算額(千円)
老人福祉センター管理運営事業	(I) 高齢者へ健康の増進等の場を提供し、健康で明るい生活に寄与する。 (II) 地域の高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、高齢者に健康で明るい生活環境を提供した。利用者数：52,808人 (III) 継続して実施する。	109,539
高齢者生きがい対応型デイサービス事業	(I) 家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加の促進や生きがいの向上を図る。 (II) 講座開講：285回、延べ参加人数：3,693人 (III) 継続して実施する。	8,836
★ 3世代ふれあい交流事業	(I) 3世代交流を通じて高齢者の健康や生きがいを高め地域の親睦を深める。 (II) 市内の小学校等42か所で実施し、計5,154人が参加し、ニュースポーツやグラウンドゴルフ等の活動を通して交流を図った。 (III) 継続して実施する。	1,772
ふれあいサロン活動促進事業	(I) 高齢者の社会参加や健康づくり、介護予防の推進を図る。 (II) 子育て世代等の多世代との交流や体操等に毎週取り組む場合等に加算を設け、健康づくりや介護予防を推進するとともに、活動内容の充実を図った。活動サロン数は313か所。 (III) 今後も継続して実施する。	10,905
憩の家管理運営事業	(I) 高齢者へ教養の向上等の場を提供し、心身の健康保持に寄与する。 (II) 地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等の場を供与し、高齢者の心身の健康保持に寄与した。利用者数：239,212人 (III) 継続して実施する。	91,690
★ シルバー人材センター運営事業	(I) 高齢者の生きがいや就業機会の増大を図り、地域社会に貢献する。 (II) 年度末会員数は1,411人 (III) 引き続き、広報等で会員を広く募集する。	43,482
老人クラブ助成事業	(I) 高齢者の生きがいや健康づくりを推進し、明るい長寿社会の実現を図る。 (II) 高齢者の生きがいや健康づくりを推進し、明るい長寿社会の実現を図るため、市内の310クラブ及び、それらを取りまとめている倉敷市老人クラブ連合会に補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	24,031
★ 生活支援コーディネーター配置事業	(I) 高齢者の社会参加や地域での支え合い活動の推進を図る。 (II) 生活支援コーディネーターを6人配置し、地域資源や課題の把握を行った。また、関係者が参画する協議体会議を4回開催し、地域課題の検討を行った。 (III) 継続して実施する。	46,409
★ 地域支え合い活動普及啓発事業	(I) 地域の支え合い活動の推進や質の向上を図る。 (II) 地域の支え合い活動やサロン活動等の普及啓発を目的としたフォーラムやサロン交流会を実施した。フォーラム参加者：416人、サロン交流会参加者：315人 (III) 継続して実施する。	822

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-1 地域やコミュニティの中で、だれもが互いに助け合い、支え合って暮らしている

### 市の施策

市民自らが、地域の課題を解決できるように支援する

### 基本方針

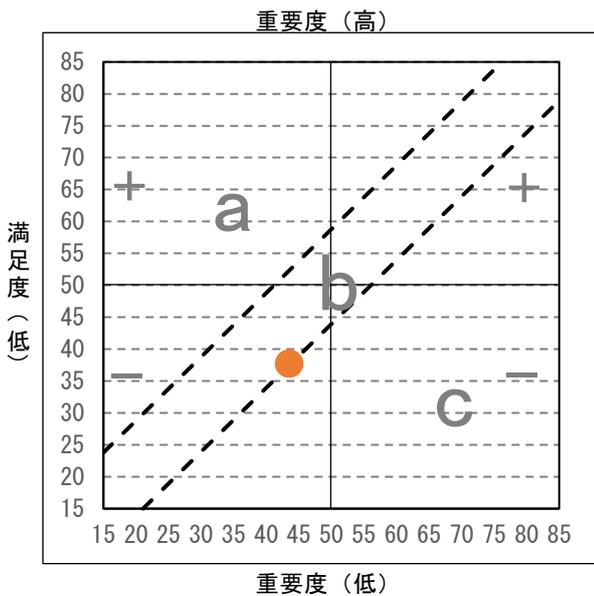
- ★ 地域の活動主体であるコミュニティの意見を把握してニーズにあった支援を行い、地域のつながりを維持して支え合いによる安全・安心な暮らしを守ります。
- ★ コミュニティ活動の情報を発信するとともに、コミュニティ意識の高揚に努め、若い世代をはじめとした、様々な世代の人が気軽に地域の輪に入っていける地域づくりを進めます。
- ★ コミュニティ間の情報交換を行うなど、相互に連携する機会の創出に努め、ネットワークを構築してコミュニティ活動の一層の拡大を支援します。
- ★ 市民自らが主体的に地域の課題解決に取り組むコミュニティ活動に対する支援や、コミュニティ活動の拠点となる施設や設備に対する支援を続けます。

### 数値目標

まちづくり指標	地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいると思っている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域やコミュニティの中で、困っているときに相談できる人がいますか」という設問に対して、『いる』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>55</td><td>48.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>55</td><td>49.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>55</td><td>46.4</td></tr> <tr><td>R5</td><td>55</td><td>48.7</td></tr> <tr><td>R7</td><td>55</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>60</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	55	48.4	R3	55	49.2	R4	55	46.4	R5	55	48.7	R7	55	-	R12	60	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	55		48.4																				
R3	55	49.2																					
R4	55	46.4																					
R5	55	48.7																					
R7	55	-																					
R12	60	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	B																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 新型コロナの5類移行により、住民同士が繋がる機会が緩やかに回復したことが要因と考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) コミュニティ協議会に対する研修会の実施や補助金交付により、地域での課題解決の仕組みづくりや活動の活性化、地域で支え合う意識の醸成を図る。																						

まちづくり指標	地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと考えている人の割合																						
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域の課題に対して、自分たちでできることは地域コミュニティで解決しようと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																						
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>数値目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>60</td><td>52.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>60</td><td>48.6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>60</td><td>47.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>60</td><td>47.6</td></tr> <tr><td>R7</td><td>60</td><td>-</td></tr> <tr><td>R12</td><td>65</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	R1	60	52.3	R3	60	48.6	R4	60	47.7	R5	60	47.6	R7	60	-	R12	65	-
年度	目標値 (%)		実績値 (%)																				
R1	60		52.3																				
R3	60	48.6																					
R4	60	47.7																					
R5	60	47.6																					
R7	60	-																					
R12	65	-																					
目指す方向性	➡																						
進捗状況	C																						
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 地域の課題解決の取組が進められている一方で、地域の活動に無関心な住民が増えていることが要因と考えられる。																						
(II) 今後の取組方針	(II) 課題解決ワークショップを通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。																						

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	37.70	43.58

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

重要度 (高)		重要度 (低)	
a (a+)	(b+)	(c+)	(c-)
(a-)	b	(c-)	c

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ コミュニティ情報発信事業	(I) コミュニティ活動の情報発信を通じて、様々な世代の参画を促進する。 (II) コミュニティ協議会から寄せられたイベント情報や活動報告などの情報発信を支援した。 (III) 継続して実施するが、より効果的な情報発信の方法を検討する。	-
★ コミュニティ組織づくり事業	(I) コミュニティ協議会の設立と協議会間の連携を推進する。 コミュニティ協議会の設立推進のため、設立に向けた準備経費を補助した (1団体)。コミュニティ協議会間の連携を推進するため、連合組織の運営経費を補助した (3団体)。 (III) コミュニティ協議会設立や地域の連合化を促進するため、継続して実施する。	1,491
★ 地域、校区集会所設置等補助事業	(I) コミュニティ活動の拠点となる施設の整備を促進する。 (II) 町内会・自治会またはコミュニティ協議会の活動拠点となる集会所の建設・修繕等の費用の一部を補助した (26件)。 (III) コミュニティ活動の拠点となる施設の整備を促進するため、継続して実施する。	21,234
★ 校区集会所管理費補助事業	(I) コミュニティ活動の拠点となる施設の運営費を支援をする。 (II) コミュニティ協議会が保有する集会所等について、電気料ほか一定の経費を補助した (15件)。 (III) コミュニティ協議会の活動を推進するため、継続して実施する。	4,074
★ コミュニティ活動推進事業	(I) 地域住民が主体となったコミュニティづくりを推進する。 (II) コミュニティ協議会を対象に、地域の課題を解決する活動や事業、地域のふれあいや交流のための行事やイベントへの補助金を交付した (47件)。 (III) 地域主体のコミュニティづくりを推進するため、継続して実施する。	22,049

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-2 ボランティア・NPOなどの市民主体の活動が活発に行われている

### 市の施策

ボランティア・NPOなどの自律的かつ公益的な活動を促進する

### 基本方針

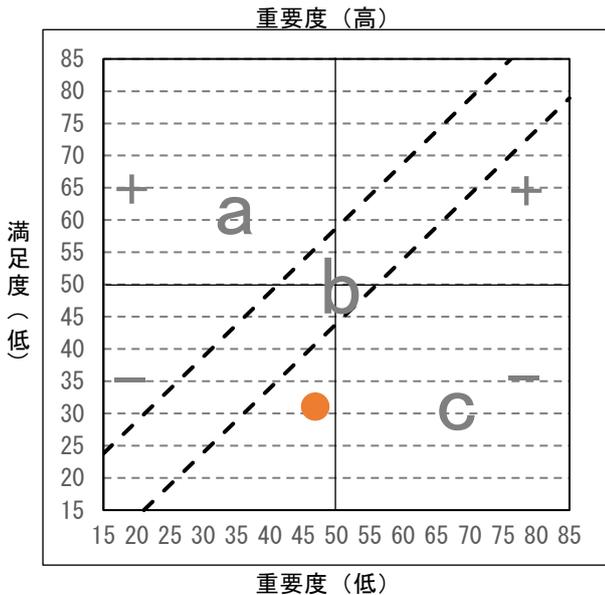
- ★ 人材確保と育成のための研修の充実など、組織的な基盤強化に向けた支援の仕組みづくりを進め、市民活動団体が自立的に安定して活動を継続できるよう努めます。
- ★ 公益的な事業に取り組む団体の活動基盤の強化に向けての支援や、大学や企業なども含め、市民活動団体や個人が、容易に情報共有や連携が行える環境整備を促進します。
- ★ ボランティア・NPO活動参加への気運を盛り上げ、市民活動団体や個人がその特性を生かした、様々なまちづくりの活動に取り組むきっかけづくりを進めます。
- ★ 市役所での市民協働の推進体制を整えることで、ボランティアやNPOなどと行政がともに公共的な役割を担う「支え合いと活気のある社会」の実現をめざします。

### 数値目標

まちづくり指標	市民活動団体と協働で実施された事業数																																		
算出方法	市で集計																																		
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>市民活動団体と協働で実施された事業数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3</td><td></td><td>145</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>160</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>163</td></tr> <tr><td>R6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>210</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>240</td><td>240</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R3		145	R4		160	R5		163	R6			R7	210		R8			R9			R10			R11			R12	240	240
年度	目標値		実績値																																
R3			145																																
R4		160																																	
R5		163																																	
R6																																			
R7	210																																		
R8																																			
R9																																			
R10																																			
R11																																			
R12	240	240																																	
目指す方向性	➡																																		
進捗状況	B																																		
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスの5類移行により、イベントをはじめとする市と共催して実施する事業が増加したことが要因と考えられる。 (II) 職員向けの協働研修やワークショップを通じ、市民と行政による協働事業の必要性の周知や実施の促進を図る。																																		

まちづくり指標	地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと考えている人の割合																																								
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で「地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと思いますか」という設問に対して、『思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100																																								
みらい創生戦略	★	<table border="1"> <caption>地域の課題を解決するためには、ボランティア・NPOの市民活動が必要だと考えている人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td></td><td>46.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>48.0</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td><td>43.6</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td>45.4</td></tr> <tr><td>R6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R7</td><td>55</td><td></td></tr> <tr><td>R8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R12</td><td>60</td><td>60</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	R1		46.0	R2			R3		48.0	R4		43.6	R5		45.4	R6			R7	55		R8			R9			R10			R11			R12	60	60
年度	目標値		実績値																																						
R1			46.0																																						
R2																																									
R3		48.0																																							
R4		43.6																																							
R5		45.4																																							
R6																																									
R7	55																																								
R8																																									
R9																																									
R10																																									
R11																																									
R12	60	60																																							
目指す方向性	➡																																								
進捗状況	C																																								
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルスの5類移行により、地域課題の解決に向けた活動が徐々に再開し、ボランティアやNPO等に協働を求める機会が増加したことが要因と考えられる。 (II) ワークショップ等を通して交流や地域課題の共有を図り、新たな活動の担い手や人材を発掘する契機とする。																																								

## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
c-	31.06	46.86

重要度に見合う以上の満足度が得られている領域 (c)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

満足度 (高)

満足度 (低)

重要度 (高)

重要度 (低)

<グラフの見方>

重要度 (高)		重要度 (低)	
a (a+)	(b+)	(c+)	(c-)
(a-)	b (b-)	(c-)	c

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
★ 市民企画提案事業	(I) 協働のまちづくりと地域課題の解決への市民主体の取組を支援する。 (II) 自主事業 (3事業) 及び行政との協働事業 (2事業) に補助を行った。各事業が目指す成果を達成するため、事業計画段階から事業完了まで事務局が伴走しながら支援を行った。 (III) 地域課題解決のため、市民活動団体や関係部署との協働への働きかけを行いながら、継続して実施する。	1,538
★ 協働のまちづくり推進事業	(I) 様々な主体が、協働で地域課題の解決に取り組むまちづくりを推進する。職員研修などにより協働の実践を促すとともに、ワークショップ等を通じて、様々な主体が連携し、地域の課題解決に取り組む体制づくりを推進した。 (II) 市民と行政など様々な主体が協働で地域の課題解決に取り組むまちづくりを推進するため、継続して実施する。 (III) 市民と行政など様々な主体が協働で地域の課題解決に取り組むまちづくりを推進するため、継続して実施する。	1,391
★ 市民公益活動情報発信事業	(I) 市民活動団体同士の情報共有と連携を図り、市民の活動への参加を促す。 (II) 情報発信ツールであるブログの投稿を推進することにより、市民活動団体が行う事業の様子を市民に周知できるように努めた。 (III) 継続して実施するが、より効果的な情報発信の方法を検討する。	-
児島及び玉島市民交流センター管理運営事業	(I) 市民の相互交流、文化活動、コミュニティ活動等の促進を図る。指定管理者による維持・管理と地域活性化に向けた講座・講演会及び地域との連携事業を実施し、児島市民交流センターは251,145人、玉島市民交流センターは136,859人の利用があった。 (II) 市民の交流と地域活性化を促進するため、継続して実施する。 (III) 市民の交流と地域活性化を促進するため、継続して実施する。	179,595
環境交流スクエア管理運営事業	(I) 市民の環境に対する理解及び学習を促進するとともに、相互交流を図る。 (II) 指定管理者による維持・管理と市民の環境学習や相互交流を促進する事業を実施し、91,214人の利用があった。 (III) 市民の環境学習や相互交流を促進するために継続して実施する。	84,717
★ 倉敷市市民活動センター管理運営事業	(I) 市民の自主的かつ営利を目的としない公益性のある活動を促進する。市民活動団体の活動拠点となる倉敷市市民活動センターを管理・運営し、(II) 議室、印刷・作業コーナー、情報・交流コーナーなど、全体で延べ6,046人の利用があった。 (III) 市民公益活動を促進するため、継続して実施する。	4,103

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-3 行政が市民の意見を踏まえ、施策の検討、効果的な実施、評価・検証を行い、改善を図っている

### 市の施策

更なる行財政改革を進め、経費の削減及び歳入増加に取り組み、根拠に基づいた施策を推進する

### 基本方針

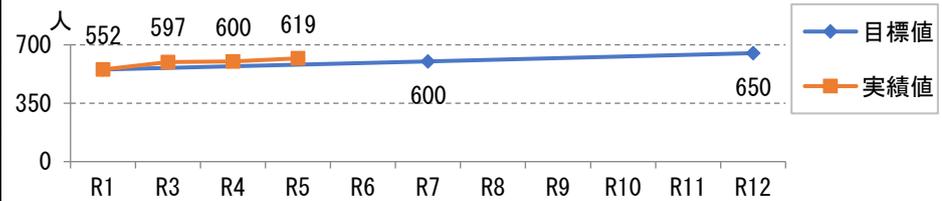
- ・ 歳入の確保と事業や補助金の見直しなどによる歳出の抑制を図り、受益と負担の適正化によって財政基盤の安定を図ります。
- ・ 財政指標の分析や公会計手法の活用により財政状況を的確に把握し、市民にわかりやすく公表します。
- ・ パブリックコメントや市民モニター制度の充実を図り、マーケティング機能の強化によって、より正確な市民意見の施策への反映をめざします。
- ・ 官民のデータ利活用により得られる客観的な証拠に基づいた、政策や施策の企画立案（EBPM）を推進します。

### 数値目標

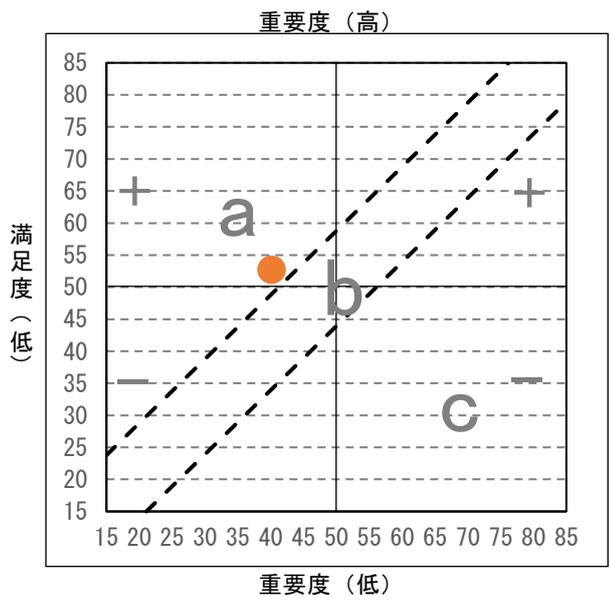
まちづくり指標	実質公債費比率	
算出方法	地方債の元利償還金などに使われた一般財源／標準財政規模（標準的な一般財源）×100（3か年平均）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↓	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 地方債残高削減により下降したが、公共施設個別計画に基づいた施設整備などにより上昇に転じている。 (II) 負債の削減への取組などにより一層の財政の健全化を図っていく。	

まちづくり指標	施設別行政コスト計算書公表施設数	
算出方法	倉敷市財務書類で公表している施設別行政コスト計算書の施設数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	↑	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 施設別行政コスト計算書の公表施設として倉敷市民会館を追加したため。 (II) 計画的に施設別行政コスト計算書の公表施設数を増やす。	

まちづくり指標	市民モニターアンケート平均回答者数 (1回当たり)
算出方法	市民モニターアンケートの年間回答総数 / 市民モニターアンケート年間実施回数
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	<b>A</b>
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 倉敷市公式アプリやSNSでの広報により、市民モニターの新規登録が増えたため。 (II) より多くの市民の意見を聴取するため、引き続きモニター募集広報を積極的に行う。



### 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
a+	52.71	40.17

重要度に見合った満足度が得られていない領域 (a)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 <グラフの見方>

満足度 (高)	a (a+)	(b+)	満足度 (高)
	(a-)	b	
満足度 (低)	(b-)	(c-)	満足度 (低)
	重要度 (高)	重要度 (低)	

a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
歳入確保事業	(Ⅰ) 歳入確保及び歳出抑制により、財政基盤の安定を図る。 (Ⅱ) 市ホームページへのバナー、広報紙や封筒、東側玄関の庁舎案内板への広告掲載を実施した。また、飼い主のいない猫の不妊去勢手術費助成事業に対して当市初のガバメントクラウドファンディングを実施した。 (Ⅲ) 更なる歳入確保のための方法を調査研究するとともに、引き続き広告収入の拡大やガバメントクラウドファンディングの活用に取り組む。	-
行財政改革プラン2020の推進	(Ⅰ) 持続可能な行政運営基盤の確立をめざし、行財政改革を着実に推進する。 (Ⅱ) 全56の実施項目のうち「完了」が20項目、「計画どおり進んでいる」が29項目で、合計49(全体の87.5%)の実施項目が順調に進んでいる。令和5年度の実施効果額は4,878,771千円となった。 (Ⅲ) 引き続き進捗管理を行い、プランの着実な推進を図るとともに、進捗状況の公表を継続して実施する。	-
業務改善推進事業	(Ⅰ) 市役所全体の業務改善の推進により、職員の意識改革と能力向上を図る。 (Ⅱ) 各所属の職場研修推進リーダーを対象とした研修等を通じて、業務改善の推進及び職員の意識改革を行うとともに、市民満足度向上運動と連携し、各所属の取組を審査・公表し、優秀な取組について表彰を行った。 (Ⅲ) 引き続き職員研修等を通じて業務改善の推進を実施する。	27
固定資産課税事業	(Ⅰ) 地方税法に基づき固定資産税等の公平・公正かつ適正な課税を行う。 (Ⅱ) 令和5年度固定資産税課税額40,917百万円(179,639納税義務者+9交付金対象団体) 令和5年度都市計画税課税額5,576百万円(136,944納税義務者) (Ⅲ) 安定した財源を確保するため、継続して実施する。	141,817
市民税課税事業	(Ⅰ) 地方税法に基づく市民税等の公平・公正かつ適正な課税を行う。 (Ⅱ) 令和5年度市民税課税額30,505百万円(個人25,861百万円、法人4,644百万円) (Ⅲ) 安定した財源を確保するため、継続して実施する。	81,919
市税徴収事業	(Ⅰ) 地方税法に基づき、市税の公平・公正かつ適正な徴収を実施する。 (Ⅱ) 令和5年度滞納繰越分を337百万円徴収し、滞納繰越分の収納率は32.39%となった。現年分の収納率99.51%と合わせ、全体の収納率は98.72%となった。 (Ⅲ) 更なる収納率の向上を目指し、最小の経費で最大の徴収効果が図られるよう、継続して取り組む。	86,754
財政状況の公表	(Ⅰ) 財政状況を的確に把握し、市民にわかりやすく公表する。 (Ⅱ) わかりやすい財政資料を作成し、広報紙、ホームページに掲載した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	-
市民提案事業	(Ⅰ) 市民の声を施策に反映させるとともに、市政への参加意識の高揚を図る。 (Ⅱ) 提案・要望等の全423件を意見要望集約システム「聴き倉」に登録し、全庁職員で共有した。また、公開条件の整っている123件を市ホームページに掲載し、市民に対して内容を公表した。 (Ⅲ) 「聴き倉システム」の利活用方法について、全庁職員にPRを行いながら、継続して実施する。	-
パブリックコメント事業	(Ⅰ) 市民の行政参画の機会を提供し、開かれた市政の実現をめざす。 (Ⅱ) 倉敷市児島地区公共施設再編整備基本計画(案)など12件の意見募集を行い、446件の意見をいただいた。寄せられた意見を素案に取り入れることができるかの検討結果や、意見に対する市の考え方を公表し、計画策定を実施した。 (Ⅲ) より多くの意見をいただけるよう、広報するとともに、配布資料のわかりやすい要約版を作成し、継続して実施する。	-
コールセンター事業	(Ⅰ) ワンストップサービスの確立とマーケティング機能の強化を図る。 (Ⅱ) 電話・FAX・メールの総利用件数は、年間82,136件だった。また、外部公開しているFAQ(よくある質問と回答)は1,630,995件の閲覧があった。 (Ⅲ) 公開FAQの内容をさらに充実させ、コールセンター機能の強化を図りながら、継続して実施する。	65,770
市民ふれあいトーク事業	(Ⅰ) 市長が直接、市民の声を聴き、一緒に考え、施策に反映させる。 (Ⅱ) 令和5年度は、開催していない。 (Ⅲ) 開催方法などを検討し、継続して実施する。	0

事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
市民モニター事業	(Ⅰ) インターネットを活用し、素早く簡単に市民の声を施策に反映させる。 (Ⅱ) 市民モニター登録者数は1,610人で、前年度に比べ55人増加した。アンケートを18回実施し、平均回答率は44.7%で前年度に比べ0.3ポイント減少したが、平均回答者数は619人で前年度に比べ19人増加した。 (Ⅲ) 若い世代の登録者数増加や平均回答者数を向上させていくため、協賛の追加や市政への反映状況の強化をしながら、継続して実施する。	25
行政評価推進事業	(Ⅰ) 総合計画に掲げる施策について進捗管理を行い、事業の見直しを図る。 (Ⅱ) 市民アンケート等により「まちづくり指標」の令和4年度実績値を把握するとともに、全44の施策について重要度・満足度を調査するなど施策評価を実施し、令和5年10月に公表した。 (Ⅲ) 毎年度の施策評価を継続して実施する。	572
データで紡ぐ高梁川 流域連携事業	(Ⅰ) データ活用を通じた地域課題の解決および経済活性化を図る。 (Ⅱ) オープンデータの更新・追加及びビジュアルコンテンツの追加（データセット新規2件・更新328件、自治体標準オープンデータセット整備支援41件） (Ⅲ) 防災オープンデータの整備・公開の支援やSDGsオープンデータの推進等、継続して取り組みを実施する。	10,561

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政＜絆＞

## めざすまちの姿

5-4 市民が安全で快適に、公共施設を利用している

## 市の施策

公共施設の安全の確保と総量の適正化を図る

## 基本方針

- ・市が土地、建物などの公有財産を、場所や将来人口なども見据えた適切な数量で保有して、総合的に企画、管理、活用する経営活動「ファシリティマネジメント」を推進し、施設のライフサイクルコストを縮減します。
- ・公共施設が安全に利用できるよう、計画的な予防保全による長寿命化を推進します。
- ・公共施設個別計画に基づき整備を実施し、公共施設の必要な機能の維持を図るとともに、利便性の向上に努めます。
- ・施設の更新にあたっては、従来のように行政が直接施設を整備せず民間に整備とサービスの提供をゆだねるPFI手法を活用するなど、官民連携の取り組みを積極的に進めます。

## 数値目標

まちづくり指標	公共施設の利用者数	
算出方法	スポーツ施設利用者数（有料施設のみ）、図書館入館者数（ライフパーク倉敷図書室含む）、市民学習センター利用者数、公民館利用者数、複合施設（市民交流センター、環境交流スクエア）利用者数の総数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	C	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 新型コロナウイルス感染症の制限緩和後、利用者数は増加傾向にあり、コロナ禍前の水準に戻つつある。 (II) 引き続き関心を持ってもらえる事業の企画及び情報発信に取り組むことにより、利用者数のさらなる増加を図る。	

まちづくり指標	モニタリングの評価が高い指定管理施設の割合	
算出方法	指定管理者制度を適用している施設のうち、モニタリングにおける、「S」評価（高レベルで運営されており高く評価できる）、「A」評価（適切に運営されており問題なかった）の割合	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 施設の管理運営が要求水準通り行われており、設置目的を向上させるような取組が行われ、サービスの安定的な提供が行われていると考える。 (II) 指定管理者が管理する全ての施設について、管理運営状況等を的確に点検、評価をすることにより、更なる市民サービスの向上を目指す。	

まちづくり指標	PPP/PFI手法による施設整備（改修等を含む）を伴う事業契約件数	
算出方法	PPP/PFI手法による施設整備（改修等を含む）を伴う事業契約件数	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 公共施設の更新・整備事業については、従来型手法に優先してPPP/PFI手法の導入を検討したため。 (II) 引き続き公共施設個別計画に基づき、更新・整備事業についてPPP/PFI手法の導入が適切かどうかを検討する。	



# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-5 市役所が市民の身近な窓口として課題解決に向けて責任をもって対応している

### 市の施策

市役所の制度や体制を改革するとともに、職員の資質向上を図り、必要とされる行政サービスを提供する

### 基本方針

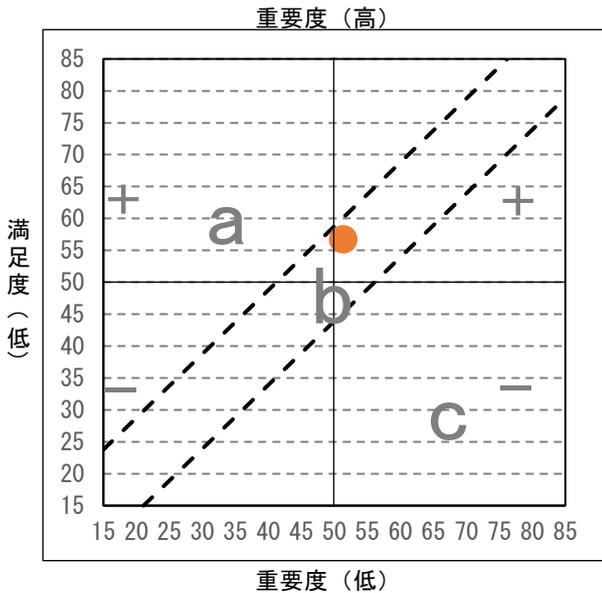
- 市役所における部局間の連携強化、マネジメントの強化、意思決定の更なる迅速化を可能とする業務執行体制の整備を図ります。窓口サービス向上及び業務の効率化等に取り組み、市民への説明責任を果たし、市民満足度を向上します。
- 不要な業務の見直しを行うとともに、人工知能（AI）やロボットによる業務の自動化（RPA）など先進のICT技術を導入するなど、業務の効率化を進め、人口減少社会においても、住民サービスの維持・向上に努めます。
- 市や組織の方針に基づき、市役所職員の果たすべき役割を明確にして、個々の職員が意欲的に能力を発揮できる、働き方改革もふまえた人事制度、職員研修制度の構築を図り、広い視野と自ら考え行動できる意欲と能力をもった職員を育てます。
- 市内で生活する外国人に向けた行政サービスの利便性向上を図ります。

### 数値目標

まちづくり指標	外国人相談窓口の相談件数	
算出方法	外国人相談窓口での相談件数（来訪・電話・その他）	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	B	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) 令和4年度に比べ、新型コロナウイルス感染症関連の相談が150件以上減少したため。 (II) 在住外国人及び関係機関への情報発信を促進するとともに、庁内各部署との情報共有と連携を引き続き推進する。	

まちづくり指標	地域の要望や困ったことがあったときの行政の相談窓口は、まずは市役所だと思っている人の割合	
算出方法	市民アンケート調査（まちづくり指標）で、「地域の要望や困ったことがあったときの行政の相談窓口は、まずは市役所だと思いますか」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の数／アンケート回答者総数×100	
みらい創生戦略	—	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I) 進捗状況の要因として考えられること (II) 今後の取組方針	(I) CS（市民満足度）向上運動、人事評価制度による市民対応の底上げなどが考えられる。 (II) 継続して地域の要望や困ったことがあったときの相談窓口としての信頼向上に務める。	

## 市民の重要度・満足度

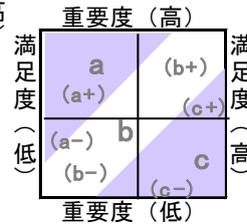


領域	偏差値	
	重要度	満足度
b+	56.71	51.35

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より高い部分 (+)

満足度 (高)

<グラフの見方>



a : 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b : 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c : 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+ : 重要度が平均値より高い部分  
- : 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+ : 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 施策を推進する主な事業の評価

事業名	目的 (I) / 令和5年度の主な実績 (II) / 今後の方向性 (III)	R5年度 決算額 (千円)
行政組織・職員配置適正化事業	(I) 弾力的な組織運営、人員の有効活用等による効率的な行政組織を構築する。 (II) DXや災害に強いまちづくり等に関する業務執行体制の充実・強化につながる人員配置を行った。また、G7会合開催地の経験を生かしたMICE誘致の推進や、豪雨災害からの復興に一定の目途が立ったことから組織の改廃を行った。 (III) 今後も組織の適正化と業務の効率化を進めていく。	-
人事評価制度活用事業	(I) 人事評価制度を適切に運用し、職員の能力や実績に応じた処遇反映を行う。 (II) 部長級及び局長級の職員において、令和4年度の人事評価結果を活用して昇給の号数及び勤勉手当の成績率を決定することで、処遇への反映を実施した。 (III) 処遇反映対象の拡大を検討しつつ、継続して実施する。	-
職員研修事業	(I) 自ら考え行動できる意欲と能力をもった職員を育成する。 (II) コロナ以降、初めて派遣研修も含めて例年どおりの研修を実施できた。業務遂行能力向上につながる研修のみならず、定年延長、ハラスメント防止、働きがいの醸成など、課題に応じた研修も新たに企画して実施した。 (III) 求められる能力を身に付け、意識改革ができる研修を、見直しを図りながら継続して実施する。	36,989
CS (市民満足度) 向上事業	(I) 全庁でCS向上運動を推進し市民満足度の向上につなげる。 (II) 全部署を対象に業務改善制度と連携してCS向上運動を実施し、今年度は個人目標も設定させた。CSセミナーのみならず、2~4級研修でも研修を行い、多くの職員に周知するとともに、表彰も実施して活動の再活性化を行った。 (III) 関係部署と連携を図りながら、今後も継続して実施する。	645
高梁川流域職員合同研修事業	(I) 自ら考え行動できる意欲と能力をもった職員を育成する。 (II) 共通課題等をテーマとした「シナリオ・プランニング入門研修」をはじめ、新任課長補佐級職員研修、実務能力向上につながる4つの研修を実施した。 (III) 高梁川流域圏域自治体と連携し、共通課題等をテーマとした研修を継続して実施する。	1,508
外国人相談窓口運営事業	(I) 在住外国人等が適切な情報を得たり相談できる体制を強化する。 (II) 窓口相談員、タブレットを活用したオペレーター通訳、三者電話により16言語で相談に対応した。相談者数は700人で、相談者のおもな国籍は、ベトナムが287人で最も多く、次いで中国が124人であった。 (III) 認知度向上を図る情報発信等を行いながら、一層の利用促進を図り継続して実施。	10,115

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

## めざすまちの姿

5-6 だれもが快適で活力に満ちた生活ができるよう、先端技術が生活に溶けこんでいる

## 市の施策

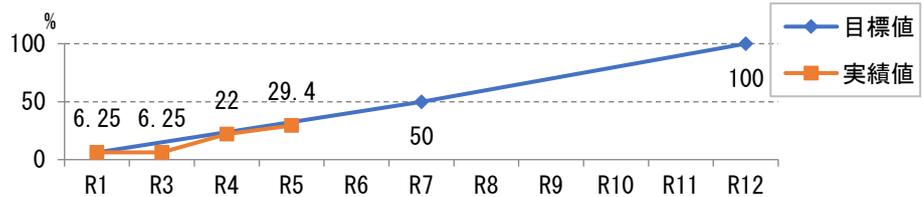
日々進化する先端技術を柔軟に取り入れ、市民サービスの更なる向上を図る

## 基本方針

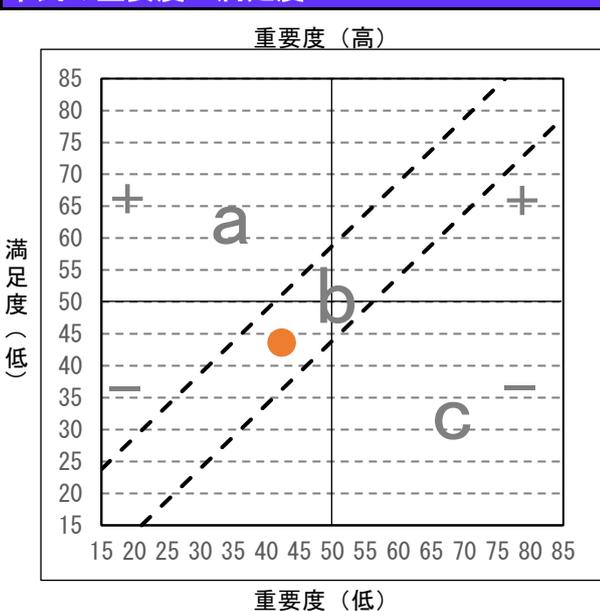
- ・ AI、RPAなどの先端技術を活用して、より迅速、的確な行政サービスを提供し、市民生活の利便性向上を図ります。
- ・ 災害や感染症の発生など非常時にも、子どもたちの学習時間が確保できるよう、ICTを活用したオンライン学習等の導入を進めます。
- ・ 市税をはじめ、使用料、手数料など収納のキャッシュレス化を推進します。
- ・ 市民生活に必要な情報を必要とする時にわかりやすく発信するとともに、行政手続きのオンライン化を促進し、申請手続き等の簡略化を進めます。

## 数値目標

まちづくり指標	多くの市民が利用する公共施設のうち、キャッシュレス決済が可能な施設の割合
算出方法	市の所管する施設（使用料や飲食・宿泊費用として市民が支払った額が100万円以上あった施設）のうち、窓口でのキャッシュレス決済が可能な施設数/該当の施設×100
みらい創生戦略	—
目指す方向性	
進捗状況	<b>B</b>
(I) 進捗状況の要因として考えられること	(I) 導入コストや決済手数料などの経費が必要となることから、導入効果の高い施設から順次導入しているものと考えられる。
(II) 今後の取組方針	(II) キャッシュレス決済の普及により、公共施設でのキャッシュレス化の需要も拡大することが想定されるため、キャッシュレス決済の導入を引き続き推進する。



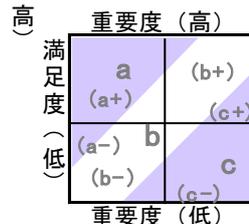
## 市民の重要度・満足度



領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	43.61	42.35

重要度に見合った満足度が得られている領域 (b)  
重要度が平均値より低い部分 (-)

満足度 <グラフの見方>



- a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
※以上の3つの領域を、さらに2つに分割 (3×2領域)  
+: 重要度が平均値より高い部分  
-: 重要度が平均値より低い部分  
a+ a- b+ b- c+ c-  
(例)  
a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
AI・RPA推進事業	(Ⅰ) AI・RPA等の先端技術を活用した業務効率化と行政サービスの向上を図る。 (Ⅱ) AIを活用した会議録作成支援システムを引き続き活用し、約1,600時間の削減効果を得た。40所属198業務でRPAまたはAI-OCRのいずれか、もしくは両方を活用し、計約6,500時間の削減効果を得た。 (Ⅲ) 会議録作成支援システムは継続利用するとともに、RPA・AI-OCRについては、導入所属・業務を拡充する。	15,818
高梁川流域DX推進事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域のDXを推進する。 (Ⅱ) 6回の定例会議を開催し、事業検討・課題及び情報の共有等を行った。また、DX推進に関する研修会を2回実施し、174人が受講。その他、スマートフォン講習会(全96回)を高梁川流域6市3町で開催し、782人が受講。 (Ⅲ) 引き続き、高梁川流域自治体でDX推進事業やデジタルデバйд対策事業等の事業検討・課題及び情報の共有を行う。	9,580
GIGAスクール構想に対応したパソコン等整備事業	(Ⅰ) 児童生徒の情報活用能力を育成する。 (Ⅱ) 1人1台端末の活用が進むよう、運用面をサポートした。また、緊急時等の学ぶ機会を保障するために、モバイルルータの貸出等を行った。 (Ⅲ) 児童生徒の情報活用能力を育成するために、継続して実施する。	160,293
行政手続きのオンライン化	(Ⅰ) 社会全体の効率化とコスト抑制を図るとともに、一人ひとりに対しても迅速に最適なサービス提供を行う。 (Ⅱ) 昨年度までにオンライン化した手続の利用促進とともに、全庁での行政手続オンライン化を進め、244手続のオンライン化を実施した。 (Ⅲ) 引き続き、他の手続についてもオンライン化を推進し、市民の利便性向上を目指す。	906
地域ポータル運用事業	(Ⅰ) デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上の実現を図る。 (Ⅱ) 令和5年12月15日に新たな情報発信ツールとして倉敷市公式アプリ(地域ポータルアプリ)をリリースした。 (Ⅲ) 引き続き、アプリの周知を行うとともに、アプリメニューの拡充について検討する。	44,134
保育支援システム運用事業	(Ⅰ) 保育士等の業務負担の軽減を図る。 (Ⅱ) 公立保育所・公立認定こども園(19か所1分園)に保育支援システムを導入した。 (Ⅲ) 導入したシステムを継続して運用する。	29,028
保護者連絡システム運用事業	(Ⅰ) 学校園・保護者双方の負担軽減を図るとともに、利便性の向上に努める。 (Ⅱ) 保護者からの欠席連絡や学校園からのお知らせ配信等に保護者連絡システムを活用した。 (Ⅲ) 学校園・保護者双方の負担軽減と利便性の向上を図るため、継続して実施する。	46,934
観光アプリ運用事業	(Ⅰ) 観光客の利便性の向上と宿泊を含む滞在時間の増加につなげる。 (Ⅱ) 市観光公式アプリ「倉敷ファンクラブ」を導入して、クーポン情報、最新のイベント情報、混雑情報等を情報提供した。 (Ⅲ) 観光アプリ制作については令和5年度で完了。 保守については今後も継続し、観光アプリを活用した事業を展開していく。	40,772

# 第七次総合計画 施策評価シート（令和6年度）



## SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政<絆>

### めざすまちの姿

5-7 持続可能な地域をめざすSDGsの理念を、だれもが理解し、行動している

### 市の施策

市民・企業・団体など一体となってSDGsの取組を推進する

### 基本方針

- ★ 研修や講演会などを通じて、SDGsの理解促進に努めるとともに、SDGsに取り組む団体・企業などの活動状況を紹介し、団体間の交流を促進するなど、SDGs推進の機運の醸成を図ります。
- ★ 倉敷子どもサミットなどの機会を通じて、子どもたちが、「倉敷宣言」にも記されている、質の高い教育を世界のだれもが受けることの大切さを学び、SDGsへの理解につながるよう、取り組みを推進します。
- ★ 地域の課題を解決し、まちづくりの様々な施策を効果的に進めるため、市民協働、官民連携において、SDGsを共通言語として取組の目的の明確化や相互理解につなげます。
- ★ 高梁川の恵みを共有する自治体間の連携により、圏域全体の経済成長や生活サービスの向上などに取り組み、将来にわたって安心・快適に生活できる持続可能な圏域づくりを進めます。

### 数値目標

まちづくり指標	倉敷市・高梁川流域SDGs/パートナーの登録数	
算出方法	市で集計	
みらい創生戦略	★	
目指す方向性	➡	
進捗状況	A	
(I)進捗状況の要因として考えられること	(I) 住民向けのイベントや事業者向けセミナーを通して広く周知でき、パートナー同士の普及にもつながったため。	
(II)今後の取組方針	(II) パートナーの強みやリソースを可視化し、パートナー間で取組が共有できる仕組みを構築する。	

### 市民の重要度・満足度

領域	偏差値	
	重要度	満足度
b-	41.39	40.89

重要度に見合った満足度が得られている領域(b)  
重要度が平均値より低い部分(-)

満足度 <グラフの見方>

満足度(高)	a (a+)	(b+)	満足度(高)
(a-)	b	(c+)	満足度(低)
(b-)	(c-)	c	
満足度(低)	重要度(低)	重要度(高)	

a: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 b: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 c: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域  
 ※以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分  
 a+ a- b+ b- c+ c- (例)  
 a+: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価		
事業名	目的(Ⅰ)／令和5年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R5年度 決算額 (千円)
★ 高梁川流域SDGs推進事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域において、SDGsの推進を図る。 高梁川流域SDGsパートナー登録数は434件、専用WEBサイトで情報を発信。パートナーの取組を広くPRするイベントを9月23日24日、イオンモール倉敷で開催(延べ4,900人来場、地元高校生41人参加、パートナー22者出展)。 (Ⅱ) SDGs資金調達セミナーを開催(21人参加)し、地域密着型クラウドファンディングを活用した資金調達に係る手数料の2/3(上限30万円)を補助(実績:1件30万円)。外部講師を招聘したSDGs実践セミナー等を2回開催し61人が参加。セミナーを通じて企業間交流を図る場を設けた。 (Ⅲ) SDGsパートナーの情報を体系的に整理・発信していくと共に、企業間連携の創出を後押しする仕組みを構築していく。	8,295
★ 高梁川流域こどもサミット事業	(Ⅰ) 各地域の歴史や文化を学び合うことで、交流を図る。 (Ⅱ) 令和6年度の実施に向け、流域の市町教育委員会事務局へ開催の周知を行った。 (Ⅲ) 流域の発展と連携に向け、3年に1度、継続して実施する。次回は令和6年度に実施する。	-
★ 高梁川流域地域づくり連携推進事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏の市民活動団体間の協働による地域課題の解決を支援する。 浅口市と倉敷市で活動する団体及び総社市・倉敷市・浅口市で活動する団体によるノウハウ持ち寄り2事業、倉敷市で活動する団体から浅口市の団体へのノウハウ移転1事業に補助し、新たな形態の事業の実施や、ノウハウ移転を受けたそれぞれの団体による単独での事業実施につながった。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域で地域課題解決に取り組む市民活動団体の協働を推進するため、継続して実施する。 (Ⅲ) 高梁川流域圏域で地域課題解決に取り組む人材の創出・育成を図る。	1,816
★ 高梁川流域課題解決人材創出事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域で地域の課題解決に取り組む人材の創出・育成を図る。 (Ⅱ) 圏域の歴史や文化等を学び、地域の課題解決を実践する人材育成プログラム「高梁川流域志塾」を実施し、16人が全26コマを受講。修了生から本市職員に就職する人材が生まれるなど、令和2年度第1期から5年度第6期で127人が卒塾。 (Ⅲ) 各期修了生間の交流や講師登壇など、100人を超える修了生のリソースを生かしたプログラムを実施する。	2,934
★ 高梁川流域自治体連携会議開催	(Ⅰ) 高梁川流域圏域内の連携強化を図る。 (Ⅱ) ビジョン懇談会(1月25日)、推進協議会(2月5日)を開催し、第2期成長戦略ビジョン(第4回改訂)案について協議を行った。 (Ⅲ) 第3期策定に向け継続実施する。	266
★ 高梁川流域協働のまちづくり推進事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域共通の地域課題について、協働による解決を推進する。 高梁川流域協働推進会議を2回開催し、流域市町の職員による情報共有を行った。高梁川流域地域支援専門家の紹介動画を作成し、地域づくり・フードロスの専門家を派遣し、地域課題解決の支援を行った。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域の地域課題の解決に向けた団体相互のネットワーク構築のため、継続して実施する。 (Ⅲ) 高梁川流域圏域共通の地域課題について、協働による解決を推進する。	802
★ 航空写真共同撮影事業	(Ⅰ) 市域を越えて航空写真を撮影することで事務の合理化を図る。 (Ⅱ) 3年に一度実施している事業であり、令和5年度は実施していない(次回は令和7年度実施予定)。 (Ⅲ) スケールメリットを生かした事務の合理化及び費用削減を図るため継続して実施する。	-
★ 外国人相談窓口運営事業	(Ⅰ) 在住外国人等が適切な情報を得たり相談できる体制を強化する。 窓口相談員、タブレットを活用したオペレーター通訳、三者電話により16言語で相談に対応した。相談者数は700人で、相談者のおもな国籍は、ベトナムが287人で最も多く、次いで中国が124人であった。 (Ⅱ) 認知度向上を図る情報発信等を行いながら、一層の利用促進を図り継続して実施する。 (Ⅲ) 認知度向上を図る情報発信等を行いながら、一層の利用促進を図り継続して実施する。	10,115